

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2014年度入学生)

※網掛けの科目については、本年度開講しません

<昼>

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 畔津 憲司	1学期	1	2	1
		1年			
	特別研究基礎 後藤 尚久	1学期	1	2	2
		1年			
	特別研究基礎 後藤 宇生	1学期	1	2	3
		1年			
	特別研究基礎 藤井 敦	1学期	1	2	4
		1年			
	特別研究基礎 田村 大樹	1学期	1	2	5
		1年			
	特別研究基礎 田中 淳平	1学期	1	2	6
		1年			
	特別研究基礎 朱 乙文	1学期	1	2	7
		1年			
	特別研究基礎 前田 淳	1学期	1	2	8
		1年			
特別研究基礎 林田 実	1学期	1	2	9	
	1年				
特別研究基礎 牛房 義明	1学期	1	2	10	
	1年				
特別研究基礎 奥山 恭英	1学期	1	2	11	
	1年				
特別研究基礎 土井 徹平	1学期	1	2	12	
	1年				
特別研究基礎 西澤 健次	1学期	1	2	13	
	1年				
特別研究基礎 休講	1学期	1	2		
	1年				
特別研究基礎 池田 欽一	1学期	1	2	14	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	15
	浦野 恭平	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	16
	畔津 憲司	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	17
	後藤 尚久	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	18
	後藤 宇生	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	19
	藤井 敦	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	20
	田村 大樹	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	21
	田中 淳平	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	22
	朱 乙文	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	23
	前田 淳	1年			
特別研究 1	2学期	1	2	24	
林田 実	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	25	
牛房 義明	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	26	
奥山 恭英	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	27	
土井 徹平	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	28	
西澤 健次	1年				
特別研究 1	2学期	1	2	29	
山下 剛	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■特別研究科目	特別研究 1 池田 欽一	2学期	1	2	30
		1年			
	特別研究 1 浦野 恭平	2学期	1	2	31
		1年			
	特別研究 2 後藤 尚久	1学期	2	2	32
		2年			
	特別研究 2 後藤 宇生	1学期	2	2	33
		2年			
	特別研究 2 牛房 義明	1学期	2	2	34
		2年			
	特別研究 3 後藤 尚久	2学期	2	2	35
		2年			
	特別研究 3 後藤 宇生	2学期	2	2	36
		2年			
特別研究 3 牛房 義明	2学期	2	2	37	
	2年				
■現代経済専攻	マクロ経済分析基礎 田中 淳平	1学期		2	38
	ミクロ経済分析基礎 朱 乙文	1学期		2	39
	計量経済分析基礎 林田 実	1学期		2	40
	財政学I 前林 紀孝	1学期		2	41
地域経済論 田村 大樹	1学期		2	42	
経済史 土井 徹平	1学期		2	43	
会計学I 白石 和孝	1学期		2	44	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	財務会計I 西澤 健次	1学期		2	45
	経営学I 遠藤 雄二	1学期		2	46
	マーケティング 別府 俊行	1学期		2	47
	経営組織論 山下 剛	2学期		2	48
	情報管理基礎 池田 欽一	1学期		2	49
	マクロ経済学 田中 淳平	2学期		2	50
	ミクロ経済学 朱 乙文	2学期		2	51
	財政学II 前林 紀孝	2学期		2	52
	金融論 後藤 尚久	2学期		2	53
	国際金融論 前田 淳	2学期		2	54
	産業組織論 後藤 宇生	2学期		2	55
	統計学 林田 実	2学期		2	56
	計量経済学 藤井 敦	2学期		2	57
	労働経済学 畔津 憲司	2学期		2	58
	環境経済学 牛房 義明	2学期		2	59

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■現代経済専攻	応用地域科学 奥山 恭英	2学期		2	60
	会計学II 白石 和孝	2学期		2	61
	財務会計II 西澤 健次	2学期		2	62
	管理会計 休講	1学期		2	63
	経営学II 遠藤 雄二	2学期		2	64
	経営戦略論 浦野 恭平	2学期		2	65
	コーポレート・ファイナンス 未定	2学期		2	66
	人的資源管理 福井 直人	2学期		2	67
■文化・言語専攻	英語翻訳研究 野島 啓一	2学期		2	68
	中国文化研究概論 板谷 俊生	1学期		2	69
	中国民族文化研究 竹村 則行	1学期	2	2	70
	中国語教授法研究 王 占華	集中		2	71
	中国民間文学研究 竹村 則行	2学期		2	72
	中国文化史研究 板谷 俊生	2学期		2	73
	比較広域文化研究 中山 俊	1学期	2	2	74
			2年		

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■文化・言語専攻	ヨーロッパ比較文化研究	2学期		2	75
	富田 広樹				
■東アジア専攻	中国研究概論	1学期		2	76
	堀地 明 他				
	東南アジア研究概論	1学期		2	77
	伊野 憲治 他				
	アメリカ社会概論	1学期		2	78
	中野 博文				
	アメリカ人種関係概論	1学期		2	79
	北 美幸				
	国際関係研究概論	1学期		2	80
	大平 剛 他				
	中国社会史研究	2学期		2	81
	堀地 明				
	現代中国政治研究	2学期		2	82
	下野 寿子				
	東アジア国際政治研究	2学期		2	83
	李 東俊				
日本社会史研究	2学期		2	84	
八百 啓介					
近代日本政治外交史研究	2学期		2	85	
小林 道彦					
東南アジア近現代史研究	2学期		2	86	
篠崎 香織					
東南アジア地域研究I	2学期		2	87	
伊野 憲治					
アメリカ社会研究	2学期		2	88	
中野 博文					
国際経済研究	2学期		2	89	
魏 芳					

社会システム研究科 社会システム研究科 博士前期課程 (2014年度入学生)

<昼>

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
	担当者	クラス			
	備考				
■東アジア専攻	国際機構研究	2学期		2	90
	休講				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究基礎	1学期	1	2	91
	田島 司	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	92
	濱野 健	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	93
	恒吉 紀寿	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	94
	見玉 弥生	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	95
	田中 信利	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	96
	小賀 久	1年			
	特別研究基礎	1学期	1	2	97
	楠 凡之	1年			
特別研究基礎	1学期	1	2	98	
坂本 毅啓	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	99	
深谷 裕	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	100	
稲月 正	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	101	
竹川 大介	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	102	
岩松 文代	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2		
休講	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	103	
田部井 世志子	1年				
特別研究基礎	1学期	1	2	104	
木原 謙一	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 前田 譲治	1学期	1	2	105
		1年			
	特別研究基礎 平野 圭子	1学期	1	2	106
		1年			
	特別研究基礎 伊藤 健一	1学期	1	2	107
		1年			
	特別研究基礎 休講	1学期	1	2	
		1年			
	特別研究基礎 閉講	1学期	1	2	
		1年			
	特別研究基礎 武井 満幹	1学期	1	2	108
		1年			
	特別研究基礎 胡 玉華	1学期	1	2	109
		1年			
	特別研究基礎 佐藤 真人	1学期	1	2	110
		1年			
	特別研究基礎 真鍋 昌賢	1学期	1	2	111
	1年				
特別研究基礎 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	1	2	112	
	1年				
特別研究基礎 漆原 朗子	1学期	1	2	113	
	1年				
特別研究基礎 葛西 宏信	1学期	1	2	114	
	1年				
特別研究基礎 永末 康介	1学期	1	2	115	
	1年				
特別研究基礎 堀地 明	1学期	1	2	116	
	1年				
特別研究基礎 下野 寿子	1学期	1	2	117	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究基礎 白石 麻保	1学期	1	2	118
		1年			
	特別研究基礎 八百 啓介	1学期	1	2	119
		1年			
	特別研究基礎 篠崎 香織	1学期	1	2	120
		1年			
	特別研究基礎 伊野 憲治	1学期	1	2	121
		1年			
	特別研究基礎 田村 慶子	1学期	1	2	122
		1年			
	特別研究基礎 寺田 由美	1学期	1	2	123
		1年			
	特別研究基礎 中野 博文	1学期	1	2	124
		1年			
	特別研究基礎 久木 尚志	1学期	1	2	125
		1年			
特別研究基礎 魏 芳	1学期	1	2	126	
	1年				
特別研究基礎 大平 剛	1学期	1	2	127	
	1年				
特別研究 1 田島 司	2学期	1	2	128	
	1年				
特別研究 1 濱野 健	2学期	1	2	129	
	1年				
特別研究 1 恒吉 紀寿	2学期	1	2	130	
	1年				
特別研究 1 見玉 弥生	2学期	1	2	131	
	1年				
特別研究 1 田中 信利	2学期	1	2	132	
	1年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 1 小賀 久	2学期	1	2	133
		1年			
	特別研究 1 楠 凡之	2学期	1	2	134
		1年			
	特別研究 1 坂本 毅啓	2学期	1	2	135
		1年			
	特別研究 1 深谷 裕	2学期	1	2	136
		1年			
	特別研究 1 稲月 正	2学期	1	2	137
		1年			
	特別研究 1 竹川 大介	2学期	1	2	138
		1年			
	特別研究 1 岩松 文代	2学期	1	2	139
		1年			
	特別研究 1 ジェニファー・ラーソンホール	2学期	1	2	140
		1年			
	特別研究 1 田部井 世志子	2学期	1	2	141
		1年			
特別研究 1 木原 謙一	2学期	1	2	142	
	1年				
特別研究 1 前田 譲治	2学期	1	2	143	
	1年				
特別研究 1 平野 圭子	2学期	1	2	144	
	1年				
特別研究 1 伊藤 健一	2学期	1	2	145	
	1年				
特別研究 1 休講	2学期	1	2		
	1年				
特別研究 1 閉講	2学期	1	2		
	1年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	備考				
■特別研究科目	特別研究 1 武井 満幹	2学期	1	2	146
		1年			
	特別研究 1 胡 玉華	2学期	1	2	147
		1年			
	特別研究 1 佐藤 真人	2学期	1	2	148
		1年			
	特別研究 1 真鍋 昌賢	2学期	1	2	149
		1年			
	特別研究 1 ロジャー・ウィリアムソン	2学期	1	2	150
		1年			
	特別研究 1 漆原 朗子	2学期	1	2	151
		1年			
	特別研究 1 葛西 宏信	2学期	1	2	152
		1年			
	特別研究 1 永末 康介	2学期	1	2	153
		1年			
特別研究 1 堀地 明	2学期	1	2	154	
	1年				
特別研究 1 下野 寿子	2学期	1	2	155	
	1年				
特別研究 1 白石 麻保	2学期	1	2	156	
	1年				
特別研究 1 八百 啓介	2学期	1	2	157	
	1年				
特別研究 1 篠崎 香織	2学期	1	2	158	
	1年				
特別研究 1 伊野 憲治	2学期	1	2	159	
	1年				
特別研究 1 田村 慶子	2学期	1	2	160	
	1年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究 1	2学期	1	2	161
	寺田 由美	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	162
	中野 博文	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	163
	久木 尚志	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	164
	魏 芳	1年			
	特別研究 1	2学期	1	2	165
	大平 剛	1年			
	特別研究 2	1学期	2	2	166
	田島 司	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	167
	田中 信利	2年			
特別研究 2	1学期	2	2	168	
小賀 久	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	169	
坂本 毅啓	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	170	
稲月 正	2年				
特別研究 2	1学期	2	2		
休講	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	171	
田部井 世志子	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	172	
前田 譲治	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	173	
鄧 紅	2年				
特別研究 2	1学期	2	2	174	
佐藤 真人	2年				

科目区分	科目名	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
	担当者		備考		
■特別研究科目	特別研究 2	1学期	2	2	175
	ロジャー・ウィリアムソン	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	176
	八百 啓介	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	177
	田村 慶子	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	178
	寺田 由美	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	179
	魏 芳	2年			
	特別研究 2	1学期	2	2	180
	胡 玉華	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	181
	田島 司	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	182
	田中 信利	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	183
	小賀 久	2年			
	特別研究 3	2学期	2	2	184
坂本 毅啓	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	185	
稲月 正	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	186	
ジェニファー・ラーソンホール	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	187	
田部井 世志子	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	188	
前田 譲治	2年				
特別研究 3	2学期	2	2	189	
鄧 紅	2年				

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■特別研究科目	特別研究 3 胡 玉華	2学期	2	2	190
		2年			
	特別研究 3 佐藤 真人	2学期	2	2	191
		2年			
	特別研究 3 ロジャー・ウィリアムソン	2学期	2	2	192
		2年			
特別研究 3 八百 啓介	2学期	2	2	193	
	2年				
特別研究 3 寺田 由美	2学期	2	2	194	
	2年				
特別研究 3 魏 芳	2学期	2	2	195	
	2年				
■専攻共通科目	社会システム総合概論 伊野 憲治 他	1学期	1	2	196
		1年			
■地域コミュニティ専攻	社会心理学 田島 司	1学期		2	197
	生涯学習論 恒吉 紀寿	1学期		2	198
	臨床心理学 田中 信利	1学期		2	199
	社会福祉援助論 小賀 久	1学期		2	200
人間環境学 野井 英明	1学期		2	201	
文化社会学 濱野 健	1学期		2	202	
都市社会学 稲月 正	1学期		2	203	
教育制度論 見玉 弥生	2学期		2	204	

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
備考					
■地域コミュニティ専攻	臨床教育学 楠 凡之	2学期		2	205
	福祉コミュニティ論 坂本 毅啓	2学期		2	206
	司法福祉論 深谷 裕	2学期		2	207
	フィールドワーク論 竹川 大介	2学期		2	208
	臨床社会学 西田 心平	2学期		2	209
	環境社会学 岩松 文代	2学期		2	210
■文化・言語専攻	イギリス文学研究概論 木原 謙一 他	1学期		2	211
	アメリカ文学研究概論 アーノルド・ウェイン 他	1学期		2	212
	英語学研究概論 平野 圭子	1学期		2	213
	英語教育法研究概論 ジェニファー・ラーソンホール 他	2学期		2	214
	英語表現法 ジェニファー・ラーソンホール	2学期		2	215
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期	2	2	216
		2年			
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	217
		2年			
イギリス文化研究 アダム・ヘイルズ	2学期		2	218	
現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	219	
	2年				

科目区分	科目名 担当者	学期	履修年次	単位	索引	
		クラス				
備考						
■文化・言語専攻	アメリカ文学研究 前田 謙治	2学期		2	220	
	アメリカ文化研究 齊藤 園子	2学期		2	221	
	社会言語学研究 平野 圭子	2学期		2	222	
	英語通訳研究 伊藤 健一	1学期	2	2	223	
	中国語法研究概論 木村 裕章			1学期	2	224
	中国思想文化研究概論 板谷 俊生			1学期	2	225
	中国哲学史研究 竹村 則行			2学期	2	226
	中国古典文学研究 武井 満幹			2学期	2	227
	中国語音声学研究 平田 直子			1学期	2	228
	中国語教育論研究 胡 玉華			2学期	2	229
	比較文化研究概論 ロジャー・ウィリアムソン 他			1学期	2	230
	日本文化研究概論 佐藤 真人 他			1学期	2	231
	言語学研究概論 漆原 朗子 他			1学期	2	232
	比較文学研究概論 木原 謙一			2学期	2	233
	日本宗教文化研究 佐藤 真人			2学期	2	234

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■文化・言語専攻	日本美術史研究 五月女 晴恵	1学期	2	2	235
		2年			
	日本表象文化研究 真鍋 昌賢	2学期		2	236
	比較広域文学研究 梶原 将志	2学期		2	237
	日英比較文化研究 フィオナ・クリーサー	1学期		2	238
	日米比較文化研究 ロジャー・ウィリアムソン	1学期	2	2	239
		2年			
	理論言語学研究 (形態論) 漆原 朗子	2学期		2	240
	理論言語学研究 (統語論) 葛西 宏信	1学期	2	2	241
		2年			
■東アジア専攻	東北アジア研究概論 八百 啓介 他	1学期		2	
	アメリカ社会史概論 寺田 由美	1学期		2	242
	イギリス地域概論 久木 尚志	1学期		2	243
	現代中国経済研究 白石 麻保	2学期		2	244
	東アジア政治思想研究 金 鳳珍	2学期		2	245
現代韓国経済研究 柳 学洙	2学期		2	246	
東南アジア地域研究II 田村 慶子	2学期		2	247	
アメリカ社会史研究 寺田 由美	2学期		2	248	

科目区分	科目名 担当者 備考	学期	履修年次	単位	索引
		クラス			
■東アジア専攻	アメリカ人種関係研究 北 美幸	2学期		2	249
	イギリス地域研究 久木 尚志	2学期		2	250
	国際協力研究 大平 剛	2学期		2	251
	安全保障研究 戸蒔 仁司	2学期		2	252
	国際政治経済研究 阿部 容子	2学期		2	253
	イギリス文学研究 木原 謙一	1学期	2	2	254
	2年				
	現代イギリス文学研究 田部井 世志子	1学期	2	2	255
	2年				
	英語表現法 ジェニファー・ラーソンホール	2学期		2	256
	アメリカ文学研究 前田 譲治	2学期		2	257
	現代アメリカ文学研究 アーノルド・ウェイン	1学期	2	2	258
	2年				
英語教育法研究概論 ジェニファー・ラーソンホール 他	2学期		2	259	

特別研究基礎 【昼】

担当者名 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

労働経済学に関する論文を理解する訓練を行う。また幾つかのトピックに関する論文を読むことで、修士論文のテーマを決めるための準備を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回
指定した論文を読み発表を行う。論文の中で使用された分析手法について学ぶ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された論文を読むこと。紹介した文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むために労働経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

海外・国内ジャーナルに掲載された経済政策に関する論文を熟読する。

この授業の到達目標は、以下のとおりである。

- ①経済政策に関する高度な専門知識を修得する。
- ②現在の経済問題を理解し、その解決策を明瞭な文章と口頭で説明できる。

教科書 /Textbooks

適時、論文を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 ガイダンス【研究倫理】
2回～15回
毎回、配布した論文の内容について報告してもらう。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み ... 50% 発表内容 ... 30% ディスカッションへの貢献 ... 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、報告の準備をしておくこと。
前回の報告について修正を含めまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

興味のある経済政策分野についてある程度の知識と英語文献を読む能力が必要。
毎回、前回の内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。作業過程において、高度な専門知識、統計解析等の技能、そして学問に向かう態度を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表よりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 藤井 敦 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

学生が自身の研究テーマのために必要とする計量経済モデルについて、各自学習し、発表を行う。これを通じて、計量経済分析のイメージを自身のテーマと関連して持つことができるようにする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

学術論文を読むのに必要な基礎的な統計学的・計量経済学的知識を持つ。

《高い問題解決能力と表現力》

不明点を他者に説明し助力を求めることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自らの関心に合った学術論文を検索することができる。

教科書 /Textbooks

適宜，資料および実証分析の論文を指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各種学術研究検索サイト

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 基本となる統計学・計量経済学についてやや詳しく扱う資料を輪読する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 資料の中から各自ひとつずつ話題を選んで発表。
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 関心のある先行研究論文を1本ずつ選び、内容の報告。前回までで学んだモデルがどのように用いられているかを中心に報告する。
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

成績評価の方法 /Assessment Method

論文を読んで発表 ... 80%， 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%、によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：指定された資料・論文を読む。
復習：その日の議論のメモを作成し提出する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者の関心・能力に指導者の関心・能力を加味し、修士論文につながる研究テーマを見つける。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
いくつかの文献を報告してもらい、それを手がかりに研究テーマを絞り込んでいく。
毎回の文献輪読を基本とする。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

DPに基づく3つの到達目標

(高度な専門的知識・技能)

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

(高い問題解決能力と表現力)

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

(高い倫理観に基づいた自立的行動力)

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 (80%) と平常点 (20%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析について論究し、特別研究論文の作成のために、ミクロ経済分析の論理と方法について必要な基礎知識を習得する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時間中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2～4回 興味・関心のあるミクロ経済問題について調査報告
- 5～6回 ミクロ経済分析的アプローチ論究
- 7～13回 関連ミクロ経済理論の調査・研究・報告
- 14回 現代ミクロ経済学の展開
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポート(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学についての基礎知識を十分に修得しておくこと

特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・状況

特別研究基礎 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマ確定に向けて、先行研究の内容報告、参考文献一覧の作成、修士論文の目次作成などを行う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

国際金融に関する研究書・資料を正しく読解したうえで、関連する資料を自ら見つけることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究書・資料の内容を人に説明できるとともに、それについての自分の意見を展開できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

適切な引用の仕方、参考文献一覧の作成法を身につけるとともに、先行研究の諸説を自説と対比して整理できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～10回 先行研究・参考文献の講読。レジュメによる学生の発表形式で行う。

11回 正しい引用の仕方・参考文献表の作り方を説明する。

12回～15回 修士論文のテーマ、目次、参考文献一覧を作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況による。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。前期の本科目では統計学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Python、Rなどのライブラリを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：経済問題について何が問題かを考え、必要な文献を収集し、要約できる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：経世済民を心に秘め、経済問題の抽出とその解決を図る。

教科書 /Textbooks

浅野 哲、中村 二期(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。

事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学、統計的推定、統計的検定

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学—理論と実践』 勁草書房 2005年○
 岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○
 環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

特別研究基礎 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で小テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

ただ知識を覚えるだけでなく、問題解決に向けて、理解して覚えた知識をいかに活用するかを考えるように心がけてください。学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に資する基礎的な知識を得るとともに、受講生による更なる問題意識の顕在化に努め、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

D Pに基づく3つの到達目標

<<高度な専門知識・技能>>

経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 3回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 4回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 5回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 6回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 7回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 8回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 9回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

特別研究基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度、30%：期末のレポート、70% を基にシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教員から指示された、または学生が提案した内容の研究・調査を行い授業に備える。授業後は授業内で指摘された点を勘案し、さらなる研究・調査を進める。

履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文課題を策定することは非常に重要です。興味を持っていることを理解可能で論文となり得る形の課題として策定することに注力します。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は大学院における演習科目にあたります。ここではまず、歴史的分析法について学んでいただくとともに、歴史資料（史料）の扱い方、史料調査や史料収集の行い方について指導します。そのうえで、経済史に関する研究テーマを設定し、独自に史料調査・収集を行っていただきます。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマをふまえて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 歴史的分析法について
- 第3回 史料調査・史料収集について
- 第4回 史料調査実習
- 第5回 史料調査実習
- 第6回～第14回 学生による報告と報告内容に基づくディスカッション
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容80%、日常における授業への参加度20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は主に学生による報告をもとに進めていきます。したがって事前に十分な調査研究活動を行い、その成果をもって授業に臨むようにしてください。また授業の際に受けた指導に基づき、その後、修正作業を行い、次回の授業時に新たに成果を提出出来るよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院における会計学の基礎を勉強するために、財務会計論ないし会計学原理のテキストの個別のテーマを取り上げて、会計について深く考えたいと思う。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に付ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

友岡賛『会計学原理』税務経理協会

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジюмеを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポートないし課題(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。

事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考図書、参考文献、インターネット等で学習しておくことが望ましい。

また、事前の課題に対して十分な予習をしておくこと。

事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のためのに必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデルなど複雑系手法、サポートベクトルマシン、ニューラルネット（深層学習）など機械学習を経済に応用した主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

DPに基づく3つの到達目標
（高度な専門知識点・技能）
機械学習や複雑系分野の論文を読むことができる。
（高い問題解決能力と表現）
自分の研究テーマについてシミュレーションなどを用いて実験ができる。
（高い倫理観に基づいた自律的行動力）
研究テーマ関連する先行研究を自ら学び、自らのテーマに応用できる。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来50%、日常の授業への取り組み50%により、シラバスの到達目標をどの程度満たしているかを判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料、およびテキスト、自ら探した文献を事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	◎ 経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

DPに基づく到達目標は以下のとおりです。

《高度な専門知識・技能》

経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。さらに、経営問題の解決に応用できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

客観的な視点で考え、現実の経営問題に対処することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行ないます。

第1回 ガイダンス 【研究倫理】

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%、発表・報告内容80%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断し、評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。

演習後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

また、企業経営に関する資料やデータなどによる復習によって、本演習の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

演習の前後で資料整理(予習・復習)をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

特別研究基礎 【昼】

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自の関心のある労働経済学のトピックを選び、それに関する論文を読むことで、修士論文のテーマを設定する。また設定したテーマに必要な分析手法を習得する。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回
指定した論文を読み発表を行う。最終的に修士論文テーマを設定する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された論文を読むこと。紹介した文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むために労働経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための準備をする。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回～14回 各自の研究テーマに沿った論文を読み報告する。
- 15回 まとめとしてレポートを作成する。

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・50%、報告内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 毎回、報告の準備をしておくこと。
- 毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成するための基礎訓練を行う。作業過程において、高度な専門知識、統計解析等の技能、そして学問に向かう態度を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

計量経済モデルを現実のデータにあてはめてひとつの統計分析結果を得るには、考慮すべき様々な問題が存在する。これらについて、参加者同士の議論を通じて経験していく。修士論文相当のイントロダクションの青写真を作ることが目的である。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

学術論文を読むのに必要な統計学的・計量経済学的知識を持つ。

《高い問題解決能力と表現力》

不明点を他者に説明し助力を求めることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自らの関心に合った学術論文を検索することができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて別途指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて別途指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 教員による研究論文をサンプルとして提示：「なぜ、何を、どのように分析するか」を考えながら作業することを学ぶ。併せて、研究遂行上の困難とその解決方法の事例を学ぶ。
- 2回 どんな問題に興味があるか、先行研究論文数本を選び、自身の興味の背景とともに内容を報告。
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 先行研究で用いられている計量経済学的な分析手法を報告。それを自分の興味対象に応用するにはどのようなデータが必要で、どのようなデータが利用可能かを報告。
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 データの利用可能性を前提にして、計量経済モデルの組み合わせ・修正を検討する。
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 同上

特別研究 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表 ... 80% , 授業中のディスカッションへの参加 ... 20%、によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：事前に指示した文献・資料を読んでからご参加ください。
復習：その日の議論のメモを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究テーマに関連する主要文献を徹底して読み込み、理論的考察のための枠組みを構築する。

教科書 /Textbooks

受講者と協議しつつ決めていく。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回

受講者の文献報告にしたがって精読の方法、思考のまとめ方などについて指導していく。
文献輪読と受講者の研究報告を中心に進めていく。

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の課題に真剣に取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

授業を通じて自らの研究体制を固めてほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学の標準的文献を輪読する。

DPに基づく3つの到達目標
 (高度な専門的知識・技能)
 マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。
 (高い問題解決能力と表現力)
 習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。
 (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
 受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献報告
- 3回 文献報告
- 4回 文献報告
- 5回 文献報告
- 6回 文献報告
- 7回 文献報告
- 8回 文献報告
- 9回 文献報告
- 10回 文献報告
- 11回 文献報告
- 12回 文献報告
- 13回 文献報告
- 14回 文献報告
- 15回 文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来 (80%) と平常点 (20%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

特別研究 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題の遂行に必要な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

報告担当者には入念な報告準備を、報告者以外の参加者には積極的な質疑への参加を求める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析の論理と方法を習得しつつ、関心のある特別研究テーマについて論文を作成し報告する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1～2回 ミクロ経済分析の論理と方法：現代ミクロ経済学の展開
- 3～8回 特別研究テーマの調査・研究報告
- 9～14回 特別研究論文の作成および報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(50%)とレポートもしくは論文(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容の理解のために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析、特殊ミクロ経済行動・現象

特別研究 1 【昼】

担当者名 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の内容の発表、先行研究の報告、修士論文に盛り込むデータと図表の作成を行う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

国際金融に関する研究書・資料を正しく読解したうえで、関連する資料を自ら見つけることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究書・資料の内容を人に説明できるとともに、それについての自分の意見を展開できる。さらに、修士論文のテーマと目次・論理展開を構築することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

適切な引用の仕方、参考文献一覧の作成法を身につけるとともに、自説の論旨に沿って先行研究とデータを整理・比較することができる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回～10回 修士論文の内容、とりわけ、本文に相当する部分を学生が執筆・発表し、指導する。
- 11回～13回 修士論文に盛り込むデータ・図表を学生が作成・発表し、指導する。
- 14回～15回 修士論文の問題の設定と予想される結論について、学生が発表し、指導する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基本事項の学習を目指す。本科目では計量経済学の基礎を中心に演習を行う。また、課題発見のための論文収集、その読み込み、整理等についても指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Python、Rなどのライブラリを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：経済問題について何が問題かを考え、必要な文献を収集し、要約できる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：経世済民を心に秘め、経済問題の抽出とその解決を図る。

教科書 /Textbooks

浅野 哲、中村 二期(2009)『計量経済学』第2版、有斐閣

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

都度指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回目ガイダンス【研究倫理】

第2回～第15回：章ごとに担当を決めて、レジュメ作成を行う。その後、章末の問題を実際に解くことを試みる。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。

事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

計量経済学、内生性

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学の分野に関する実証分析の論文を理解するために必要な計量経済学の分析手法について学習し、講義の後半では論文を読む。

到達目標は以下のとおりです。

- ・ 計量モデルの推定と検定、統計分析結果を理解できるようになる。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決めます。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

西山・新谷・川口・奥井『計量経済学』(New Liberal Arts Selection) 有斐閣 2019年 ○
Greene (2008), Econometric Analysis, Pearson Education ○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 講義概要の説明と計量経済学について
- 2回 回帰分析1 【単回帰】、【推定】、【検定】
- 3回 回帰分析2 【系列相関】、【不均一分散】
- 4回 回帰分析3 【重回帰】、【多重共線性】
- 5回 操作変数法1 【同時方程式】、【識別問題】
- 6回 操作変数法2 【2段階最小二乗法】
- 7回 時系列分析1 【VAR】、【因果性検定】
- 8回 時系列分析2 【単位根】、【共積分】
- 9回 パネルデータ分析 【固定効果】、【変量効果】
- 10回 離散選択モデル 【プロビットモデル】、【ロジットモデル】、【トービットモデル】
- 11回 環境経済学関連の論文の紹介
- 12回 スマートグリッドの経済分析の論文の紹介
- 13回 デマンドレスポンスの経済分析の論文の紹介
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言 (25%)、発表 (25%)、期末試験 (50%)

特別研究 1 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに指定したテキストの該当する章、論文などを予め教科書を読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認を行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分、統計学の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学、統計学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 奥山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では修士論文の作成に寄与するべく、受講生による更なる問題意識の顕在化に努めるとともに、その個別具体の対応（「処方」と「診断」を含む）等を、当該受講生と相談して決め、きめ細かな論文指導を行う。

D Pに基づく3つの到達目標

<<高度な専門知識・技能>>

経済・経営に関する基礎的専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、その都度紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

週1回の頻度で、論文に係わる進捗状況の発表・議論、論文テーマに関連する課題の報告および議論をとおして履修生の論文作成の進捗を図る。

- 1回 インTRODクシヨン・ガイダンス
- 2回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 3回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 4回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 5回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 6回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 7回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 8回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 9回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 10回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 11回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 12回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 13回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 14回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)
- 15回 学生による報告(事前に与えられた課題についての発表および議論)

特別研究 1 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の学習深度と進捗、30%：期末のレポート、70% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教員と相談した、もしくは学生自身の提案による内容の研究・調査を行い当該授業に備える。授業後は、授業内で指摘された点及び関連する点に関して勘案しさらなる研究・調査を行い次回の授業に備える。

履修上の注意 /Remarks

各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

論文の課題に係わる先行研究を広範囲に調べ、何が既に分かっているか、なぜそのように導き出されたか、そして何が未だに分かっていないかを整理することが、その後の課題に係わる解析の基礎となります。きめ細やかで丁寧な先行研究のレビューを心がけて下さい。

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 土井 徹平 / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

授業の概要 /Course Description

この授業は大学院における演習科目にあたります。ここでは経済史に関する研究テーマを確定し、史料調査・収集および分析を行うことで、修士論文をまとめることを目的とします。そのうえで、歴史学的分析法、史料の扱い方や史料収集の方法、論文の読み方・書き方などについて授業を通じて適宜指導を行います。

教科書 /Textbooks

学生の研究テーマに応じて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～第14回 研究報告と報告内容に基づくディスカッション
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・報告内容80%、日常における授業への参加度20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業は主に学生による研究報告をもとに進めていきます。したがって事前に十分研究活動を行い、その成果をもって授業に臨むようにしてください。また授業の際に受けた指導に基づき、その後、修正作業を行い、次回の授業時に新たに成果を提出出来るよう心がけてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代会計の変化が早く、それに追従するあまり、会計学の古典を読む機会が少ないので、本研究ではあえて名著と言われる会計の書籍を取り上げて検討したいと思う。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に付ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

ペイトン・リトルトン『会社会計基準序説』森山書店その他、受講者と相談

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回

テキストを精読しながら、会計の基本的な問題を考える。各担当者がレジユメを準備し、報告をする。適宜、会計学の紹介を交えながら、各自の研究テーマについて談義する。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポートないし課題(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

本演習は、財務会計論の基礎的な思考をさらに深く吟味することを目的としている。

事前学習：著名な会計学者を調べ、その思想などについて、教科書、参考文献、インターネット等で学習しておくことが望ましい。

また、事前の課題に対して十分な予習しておくこと。

事後学習：演習で残した課題については、図書館などを活用して、調べて、考えること。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

経営組織論に関する文献を読み込み、現実と結び合わせて考える力を身につけることを目指します。修士論文のテーマを決定していきます。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》 経済・経営に関する専門的知識を修得し、専門職業人および研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。

《高い問題解決能力と表現力》 経済・経営の専門家として必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

C.I.バーナード『[新訳] 経営者の役割』ダイヤモンド社、1968年(○)

H.A.サイモン『新版 経営行動』ダイヤモンド社、2009年(○)

M.P.フォレット『組織行動の原理』未来社、1972年(○)

M.P.フォレット『創造的経験』文真堂、2017年(○)

三井泉編『フォレット』文真堂、2013年(○)

山下剛『マズローと経営学』文真堂、2019年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第15回 文献整理・報告・議論

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発表(50%)と授業への参加度(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかの評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

参考文献を熟読しておいてください。講義前には、教科書の該当箇所を読み込んで講義に臨んでください。また講義後にもう一度教科書を読み復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のためのに必要な能力の習得を目標とする。本科目では、各受講生が興味を持つ、カオス、フラクタル、エージェントモデル、ニューラルネット（深層学習）など複雑系手法、機械学習の手法を経済に応用した複雑系経済学に関する主題についての関連文献を選択し、読み、報告をしてもらう。

DPに基づく3つの到達目標
（高度な専門知識点・技能）
機械学習や複雑系分野の論文を読むことができる。
（高い問題解決能力と表現）
自分の研究テーマについてシミュレーションなどを用いて実験ができる。
（高い倫理観に基づいた自律的行動力）
研究テーマ関連する先行研究を自ら学び、自らのテーマに応用できる。

教科書 /Textbooks

テーマに応じて講義の中で指示

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：ガイダンス
第2回～第15回：文献報告

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の出来70%、日常の授業への取り組み30%により、シラバスの到達目標をどの程度満たしているかを判断して評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料、およびテキスト、自分で探した文献を事前にしっかり読み込み、講義後にはしっかり理解できていない部分の復習を必ずすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

各自、経営戦略論の領域で研究テーマを設定し、論文を作成すること、そして、これをつうじて経営戦略論の知識の応用力を高めることを目的とします。

DPに基づく到達目標は以下のとおりです。

《高度な専門知識・技能》

経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。

《高い問題解決能力と表現力》

その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。さらに、経営問題の解決に応用できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

客観的な視点で考え、現実の経営問題に対処することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマを考慮に入れて、複数の候補の中からオリエンテーションにて決定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指定します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各自、教科書を中心に論文執筆に必要な文献の内容について発表します。

学期末に中間報告を行いません。

第1回 ガイダンス 【研究倫理】

第2回～第14回 学生による報告・討議

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%、発表・報告内容80%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断し、評価する。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

演習開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。

演習後はレジュメと参考文献を用いて学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

また、企業経営に関する資料やデータなどによる復習によって、本演習の理解がより深くなります。

履修上の注意 /Remarks

学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

論文執筆に必要と考えられる文献・論文の収集をしておいてください。

講義の前後で資料整理(予習・復習)をすることで、論文作成に向けての研究ノートとして下さい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習・復習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

特別研究 1 【昼】

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

特別研究 2 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の中間報告を目指してデータの収集と論文執筆の両方を同時に実施する。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス【研究倫理】
第2回～14回 研究報告
第15回 中間報告に向けての準備

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み・・・50%
論文内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、報告の準備をしておくこと。
毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、前回の報告内容を改善しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。作業過程において、必要となる専門知識の理解、統計解析等の技能、そして、学問に向かう態度を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表よりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究2では修士論文執筆の指導を行います。
 担当教員とのミーティングや議論を重ねて、修士論文の執筆を進めます。

修士論文のテーマを設定し、先行研究をサーベイし、分析方法などを明確にすることが到達目標です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回～4回 テーマ設定
- 5回～10回 先行研究のサーベイ、報告
- 11回～15回 論文執筆指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文を進めて行くプロセスを総合的に評価します(80%)。途中報告の出来、配布資料(PPTなど)の出来も、評価に含めます(20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当教員とのミーティングや議論に備えて、毎回準備を行う。自分の修士論文に関わる参考文献を読み進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中間報告での指摘をもとに論文を改定し、修士論文を完成させる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス(中間報告での指摘の確認)【研究倫理】
- 第2回～第14回 論文報告
- 第15回 修士論文報告会への最終準備

成績評価の方法 /Assessment Method

- 日常の取り組み・・・50%
- 論文内容・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の報告内容を確認して改善しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

毎回、論文作成の準備と前回の報告内容の改善をしておくこと

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の完成を目指す。作業過程において、必要となる専門知識の理解、統計解析等の技能、そして、学問に向かう態度を養う。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Rand Journal of Economics, International Journal of Industrial Organization, Journal of Industrial Economics, Journal of Law and Economics, Journal of Economics and Management Strategy, Review of Industrial Organizationなどの海外雑誌

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回から15回：
論文の題材に関する調査、先行研究の精読、実証結果の検討を行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

発表よりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

ミクロ経済学・産業組織論・計量経済学の知識が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 2年次 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済・経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特別研究3では修士論文の指導を行います。
 修士論文を完成させ、2年間の研究成果を集大成することが到達目標です。

教科書 /Textbooks

適宜指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回 オリエンテーション
 2回～15回 論文指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文を進めて行くプロセスを総合的に評価します(80%)。プレゼンの出来、配布資料(PPTなど)の出来も、評価に含めます(20%)。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

担当教員とのミーティングや議論に備えて、毎回準備を行う。自分の修士論文に関わる参考文献を読み進める。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済分析の前提となるマクロ経済学の基礎知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マクロ経済学の基礎理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マクロ経済学の基礎知識を正しく活用して、現実経済の抱える問題点を正しく理解できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

マクロ経済学とは、経済を巨視的に捉えてその動きのメカニズムを考察する経済学の基幹分野の一つで、その主要目的は景気循環や経済成長といった諸現象の解明にある。この講義では、所得・支出モデルやIS-LMモデルといった短期のマクロ経済分析のための基礎理論を解説することで、景気循環のメカニズムに対する理解を深めることを目的とする。

DPに基づく3つの到達目標

(高度な専門的知識・技能)

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

(高い問題解決能力と表現力)

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

(高い倫理観に基づいた自律的行動力)

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 GDPとマクロ経済循環 (1) 【GDP】【付加価値】【最終財】
- 3回 GDPとマクロ経済循環 (2) 【三面等価】【貯蓄投資バランス】
- 4回 GDPとマクロ経済循環 (3) 【GDPデフレーター】
- 5回 所得・支出モデル (1) 【潜在的GDP】【有効需要原理】
- 6回 所得・支出モデル (2) 【均衡GDP】
- 7回 所得・支出モデル (3) 【乗数効果】【節約のパラドックス】
- 8回 所得・支出モデル (4) 【財政政策】【均衡予算乗数】
- 9回 流動性選好理論 (1) 【資産選択】【貨幣と債券】【流動性】
- 10回 流動性選好理論 (2) 【貨幣供給】【貨幣需要】【均衡利子率】
- 11回 流動性選好理論 (3) 【中央銀行】【公開市場操作】
- 12回 流動性選好理論 (4) 【信用創造】【貨幣乗数】
- 13回 IS-LMモデル (1) 【IS曲線】【LM曲線】
- 14回 IS-LMモデル (2) 【財政政策】【金融政策】
- 15回 まとめ

マクロ経済分析基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (30%) と期末試験 (70%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な読書などを行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は積み重ねの学問なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済分析基礎 【昼】

担当者名 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済分析の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 現代のミクロ経済の諸問題に関連する情報を収集し、分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ミクロ経済分析を網羅し、修得する。具体的に、消費者理論、生産者理論、そして市場理論を学習し、それらを用いての、現実の種々の経済問題への理論的分析手法を理解する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 消費者行動理論(1)：【選好】【効用】【無差別曲線】
- 3回 消費者行動理論(2)：【予算制約】最適消費量の決定
- 4回 消費者行動理論(3)：【スルーツキー方程式】
- 5回 消費者行動理論(4)：【補償需要】
- 6回 生産者行動理論(1)：【生産物市場】【生産要素市場】
- 7回 生産者行動理論(2)：【生産理論】
- 8回 生産者行動理論(3)：【費用理論】
- 9回 生産者行動理論(4)：最適供給量の決定
- 10回 厚生経済学(1)：【エッジワースのボックス・ダイアグラム】
- 11回 厚生経済学(2)：【パレート最適】
- 12回 厚生経済学(3)：【厚生経済学の定理】
- 13回 市場と市場調整
- 14回 経済とミクロ経済分析
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

ミクロ経済分析基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

入門レベルのミクロ経済学について事前に復習をしておくこと、授業内容の理解がより深まる。

キーワード /Keywords

消費者行動理論、生産者行動理論、市場、厚生経済学

計量経済分析基礎【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計的推定検定を理解し、計量経済学の基礎を固め、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 統計ソフトを用いて、経済データを的確に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 統計的手法を用いて、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済分析基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計処理ソフトウェアに習熟し、これを利用して経済の実証分析ができるようになることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：経済問題について何が問題かを捉え、解決のための分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：経世済民を心に秘め、経済問題を考える。

教科書 /Textbooks

星野匡郎、田中久稔(2016)『Rによる実証分析』Ohmsha

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜参考文献を指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 総論
- 2 回帰分析の目的
- 3 統計の基礎知識
- 4 確率論の基礎
- 5 回帰分析の基礎
- 6 推測統計の基礎
- 7 相関関係と因果関係
- 8 外生変数と内生変数
- 9 ランダム化実験
- 10 マッチング法
- 11 不連続回帰デザイン
- 12 操作変数法
- 13 実証分析の手順
- 14 Rの基礎
- 15 Pythonの基礎

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

計量経済分析基礎【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。事後学習としては、簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

単回帰、重回帰、パネル分析、VAR、R、python

財政学I【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政や租税の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財政や租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 財政や租税に関する高度な知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学 I

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

間接税および所得税の最適課税の在り方について大学院レベルのスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。

DPに基づく3つの到達目標

①《高度な専門知識・技能》

経済理論モデルを用いて最適課税を導出することができる。

②《高い問題解決能力と表現力》

数式・理論モデルを活用し、最適課税の先行研究の帰結を整理できる。

③《高い倫理観に基づいた自律的行動》

先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Lectures on Public Economics (Authors: Anthony B. Atkinson & Joseph E. Stiglitz)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Microeconomic Analysis (Author: Hal R. Varian)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1.The structure of Indirect Taxation - Partial Equilibrium Analysis-
- 2.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(1)-
- 3.The structure of Indirect Taxation - The Ramsey Tax Problem(2) with two goods and labour-
- 4.The structure of Indirect Taxation - Application of the Ramsey Results-
- 5.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(1)-
- 6.The structure of Indirect Taxation - Optimal Taxation in a Many-Person Economy(2) under identical utility functions-
- 7.The structure of Income Taxation - A simple model-
- 8.The structure of Income Taxation - Choice Open to Government-
- 9.The structure of Income Taxation - Social Welfare Maximization-
- 10.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (1) The Government's Problem-
- 11.The structure of Income Taxation - Linear Income Tax (2) The Optimum Linear Income Tax-
- 12.The structure of Income Taxation - Optimum Linear Income Tax under the Cobb-Douglas utility function-
- 13.The structure of Income Taxation - General Income Tax (1) The basic model-
- 14.The structure of Income Taxation - General Income Tax (2) The Optimum optimum Income Tax conditions-
- 15.A Summary of Income and Indirect Taxation

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 配布資料の指示した箇所をあらかじめ読んでおくこと (目安時間 40分~60分)

事後学習) ①練習問題や②講義で説明した数式の導出過程の復習をしておくこと

財政学I【昼】

履修上の注意 /Remarks

公共経済学のテキストを用いて最適課税理論を議論しますので以下の最低限の数学的知識を要する。
ベクトル、行列式、最適化問題の解、分布（密度）関数、 Σ や J の演算等。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

経済学の分野で蓄積されてきた最適課税の理論研究をがんばって学びたい方は歓迎します。

キーワード /Keywords

財政/最適課税論

地域経済論 【昼】

担当者名 /Instructor 田村 大樹 / TAMURA DAIJU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 地域経済に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

地域経済論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

到達目標は、経済活動と都市との複雑な関わりを理解できるようになることである。
都市の発生と発達についての歴史について概観し、今日の都市について理解を深めてもらいたい。
その際、都市に関わる種々の経済活動の立地の問題を導きの糸とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

地域経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

地域経済の専門家として、必要な情報を収集し、問題を適切に分析して解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

地域経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

授業の最初に指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する

地域経済論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 都市とは何か
2. 経済活動の場としての都市
3. 都市を支える人、物、情報のフロー
4. 交易と都市
5. 物財生産と都市
6. 都市化の進展
7. 工業都市から情報都市へ
8. 都市で行われる経済活動
9. 中心地論
10. 工業立地論
11. オフィス立地論
12. 都市システム論
13. コンピュータ・ネットワークと都市
14. 21世紀の都市像
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参画の態度 50%
期末試験50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストの当該箇所を予め予習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

受講者数が少数の場合は、演習形式で授業を行い試験は行わない。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予備知識は不問となるよう努めます。
経済に対して強い関心を持っている方の参加を希望します。

キーワード /Keywords

経済史 【昼】

担当者名 /Instructor 土井 徹平 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経済史に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経済史

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史学は過去に何があったのか、歴史的事実を知ることが目的とはしていません。それはあくまで手段であり、歴史学は過去の事実をもとに経済あるいは社会を分析し、客観化することで現状認識に役立てることを目的とする社会科学です。

では、過去の事実から具体的に何が見えてくるのか。過去を知ること、いかなる現状認識が可能となるのか。本講義では、近代のイギリスを発端とし世界に波及していった「産業革命」を事例とします。そして「産業革命」とはいかなる「革命」で、なぜ「革命」は起きたのか分析することを通じて、経済史を学ぶ意義について皆さんと考えていきたいと思います。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

経済史に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

経済史の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

経済史に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業内で適宜紹介します。

経済史 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 「経済史」という方法論
- 第2回 「大いなる分岐」 - 「産業革命」の「革命」たるゆえん -
- 第3回 「マルサスの罠」 - 1800年以前の経済生活 -
- 第4回 戦と掠奪の経済史
- 第5回 前近代社会における人口抑制策 - ヨーロッパを事例として -
- 第6回 「マルサスの罠」と日本人 - 近世の日本人の選択 -
- 第7回 「勤勉革命」
- 第8回 生産力の肥大化 - 「産業革命」と経済のグローバル化 -
- 第9回 なぜ「産業革命」はイギリスで起こったのか - 「革命」のインセンティブ -
- 第10回 エネルギーと「産業革命」 - イギリスのアドバンテージ -
- 第11回 「産業革命」の精神的要因 - 資本主義とキリスト教 -
- 第12回 「豊かな国」と「貧しい国」の構造化
- 第13回 日本はなぜ植民地化されなかったのか - 「勤勉革命」と工業化の基礎条件 -
- 第14回 「革命」の輸入 - 政府および民間による技術移転 -
- 第15回 「産業革命」はアジアで起こり得たか

成績評価の方法 /Assessment Method

定期試験... 80% 日常での授業への取り組み... 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

各回、授業内容に沿ったレジュメを配布します。配布済みのレジュメを用い前回の授業内容を復習して講義に臨み、授業後には同じくレジュメをもとに、その日の授業内容を反復するようにしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

社会科学としての歴史学で必要なのは、知識や記憶力ではなく、主体的に社会を分析しようとする姿勢と思考力=分析力です。知識や記憶力に自信がなく「歴史が苦手」と感じてきた方でも、歴史をもとに考える意思さえあれば、まったく問題ありませんので主体的にご参加ください。

キーワード /Keywords

経済史 社会経済史 産業革命

会計学Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 会計に関する高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅰでは財務会計の基礎に焦点を当てることにする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）、

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

会計学I【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ディスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、使用テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分予習をしておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅰ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / Kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財務会計の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に着ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

西澤健次『ホスピタリティと会計』国元書房○

財務会計I【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務会計入門
- 2回 収益・費用アプローチの歴史的経緯【取得原価主義会計】
- 3回 収益・費用アプローチの理論構成【貨幣性資産】【費用性資産】
- 4回 収益・費用アプローチの問題点【原価】【実現】
- 5回 資産・負債アプローチの概要【意思決定有用性アプローチ】
- 6回 資産・負債アプローチの理論構成【資産】【負債】【純資産】【資本等式】
- 7回 資産・負債アプローチの問題点【純利益】【包括利益】
- 8回 会計観の転換について【原価】【時価】【割引現在価値】
- 9回 旧態の会計の諸問題【企業会計原則】【企業会計基準】
- 10回 旧態の会計の存続可能性【内的整合性】
- 11回 現代会計の諸問題【退職給付会計】
- 12回 現代会計の諸問題【資産除去債務】
- 13回 IFRSの検討【減損会計】
- 14回 IFRSの検討【公正価値会計】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(=損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書や、参考論文、インターネット等で学習しておくこと。

事後学習：財務会計論の基礎的な思考並びにキータームを整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅰ【昼】

担当者名 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営の理解に必要な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 企業経営に関する専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅰ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営と人事労務管理全般、ならびに各論について、十分な予習、報告と討論を通じて理解を深めていく。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
企業経営の理解に必要な専門知識を修得している。
- 【高い問題解決能力と表現力】
企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の要望も取り入れて、1回目に決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

初回：大学院生の勉強の仕方について講義。受講生の要望を聞いて、テキストを決定する。

- 第1部：企業経営と人事労務管理
第2部：採用から定年までの仕事
第3部：職場の男女平等とディーセント・ワーク
第4部：日本の人事労務管理、20世紀と21世紀

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事柄について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

経営学I 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マーケティング【昼】

担当者名 別府 俊行 / Toshiyuki Beppu / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ マーケティングに関する高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マーケティング

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は、学部でのマーケティングの内容をさらに深化させていくため、より高度で実践的なケース演習を中心に授業を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

マーケティングの理解に必要な高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

マーケティングの専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

マーケティングに関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

無

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

無

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション

第2~15回 ケース演習

成績評価の方法 /Assessment Method

授業取組み度合によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業は予習と復習を必要とする。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 山下 剛 / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 経営組織の諸問題・諸課題について、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 高度な専門知識を生かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

企業にしろ、NPOにしろ、いずれの場合も、「組織を管理する」ことが経営の要となります。本講義では、経営組織の根本的な原理を理解することを目指します。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門的知識・技能》 経営組織に関する高度な知識を修得し、複雑化し、グローバル化する経済現象を解明できるようになる。
- 《高い問題解決能力と表現力》 経営組織の諸問題・課題について、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 高度な専門知識を活かして、経営組織の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

初回に受講者と相談の上、決定したいと思います。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 岸田民樹編『組織論から組織学へ』文真堂、2009年。(○)
- 三井泉編『フォレット』文真堂、2012年(○)
- 三戸公『家の論理I・II』文真堂、1992年(○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では、経営組織論に関する文献の輪読を通じて、さまざまな組織を経営する上での根本的な原理の理解を目指します。講義では、学生による報告および、報告に基づく議論によって理解を深めていきます。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回～14回 テキストの各章の輪読
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、発表・報告内容(40%)、レポート提出(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された教科書について、報告者は講義前に該当箇所をよく読み込んでレジュメを作成し、報告者以外の人も読み込んで講義に臨んでください。また、講義後にもう一度該当箇所を読み復習しておいてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

活発な議論を期待します。

経営組織論 【昼】

キーワード /Keywords

情報管理基礎 【昼】

担当者名 /Instructor 池田 欽一 / Yoshikazu Ikeda / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	◎ 情報管理の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 情報管理に関する高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

情報管理基礎

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義ではデータを整理、分析をする手法について、テキスト輪読（受講者へ割当て報告してもらおう）をする。具体的には、Pythonというプログラミング言語によるデータ分析手法と実施方法について学ぶ。テキスト輪読と演習によって理解度を深める、定期的に宿題（レポート課題）の提出をしてもらう。（具体的には、毎回テキストの一定範囲を全員予習し、講義中は代表者が解説し、全員で理解度確認のための演習を行う。）

DPに基づく3つの到達目標

（高度な専門知識点・技能）

機械学習や複雑系分野の論文を読むことができる。

（高い問題解決能力と表現）

自分の研究テーマについてシミュレーションなどを用いて実験ができる。

（高い倫理観に基づいた自律的行動力）

研究テーマ関連する先行研究を自ら学び、自らのテーマに応用できる。

教科書 /Textbooks

「Pythonで理解する統計解析の基礎」、谷合 廣紀（著）、辻 真吾（監修）、技術評論社、2018、本体2,980円＋税、ISBN978-4-297-10049-0

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜指示。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：受講の注意、本講義で学ぶ内容の説明
- 第2回：必要ファイルのコピー、操作演習。
- 第3回：テキスト輪読、演習1【データの大きさ、変数の種類】
- 第4回：テキスト輪読、演習2【データの指標】
- 第5回：テキスト輪読、演習3【2次元データ】
- 第6回：テキスト輪読、演習4【母集団と標本】
- 第7回：テキスト輪読、演習5【推測統計】
- 第8回：テキスト輪読、演習6【離散型確率変数】
- 第9回：テキスト輪読、演習7【離散型確率分布】
- 第10回：テキスト輪読、演習8【連続型確率変数】
- 第11回：テキスト輪読、演習9【連続型確率分布】
- 第12回：テキスト輪読、演習10【独立同一分布】
- 第13回：テキスト輪読、演習11【統計的推定】
- 第14回：テキスト輪読、演習12【統計的仮説検定】
- 第15回：テキスト輪読、演習13【回帰分析】

※履修者の希望、理解度に応じて内容を変更する場合があります。

情報管理基礎 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日ごろの取り組み（報告内容など）70%、宿題（レポート）30%により、シラバスの到達目標をどの程度満たしているかを判断して評価する。

詳細は第1回目に説明します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

基本的なWindows操作の知識は前提とします。

講義前にはテキストやその他資料により予習、報告準備をし、講義後には復習と課題にしっかりと取り組んでください。

履修上の注意 /Remarks

履修者人数が少ないことが予想されるので、報告してもら回数は多くなると思います。

USBフラッシュメモリ（2Gb程度の空き容量が必要）をしますので持っていない人は準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

マクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 田中 淳平 / TANAKA JUMPEI / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ マクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ マクロ経済の専門家として、より高度なマクロ経済理論を用いた経済分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ より高度なマクロ経済の専門知識を生かして、現実経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

マクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「マクロ経済分析基礎」（1学期開講）に引き続き、マクロ経済学の基礎理論を講義する。取り上げるテーマは、物価とマクロ経済の関係（AD-ASモデル）、開放経済下のマクロ経済（マンデル＝フレミング・モデル）、経済成長理論、消費・貯蓄の決定理論、世代重複モデルなどである。

DPに基づく3つの到達目標

（高度な専門的知識・技能）

マクロ経済学に関する高度な素養を獲得し、現実のマクロ経済現象を理解・分析できるようになる。

（高い問題解決能力と表現力）

習得したマクロ経済学の知識に基づいて、現実のマクロ経済問題を解決するための基本的なアイデアを構想し、他者と議論することができるようになる。

（高い倫理観に基づいた自立的行動力）

受け身の学習ではなく、自らの進んで先行研究を概観・吟味できるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 IS-LMモデルの復習 【IS曲線】 【LM曲線】 【財政・金融政策】
- 3回 AD-ASモデル（1） 【総需要曲線】 【総供給曲線】
- 4回 AD-ASモデル（2） 【ダイヤモンド・インフレ】 【コストプッシュ・インフレ】 【スタグフレーション】
- 5回 マンデル＝フレミング・モデル（1） 【為替レート】 【変動相場制度】 【固定相場制度】
- 6回 マンデル＝フレミング・モデル（2） 【開放経済下の財政・金融政策】
- 7回 新古典派成長理論（1） 【マクロ生産関数】 【一人あたりGDPの決定要因】 【全要素生産性】 【資本労働比率】
- 8回 新古典派成長理論（2） 【新古典派成長モデル】
- 9回 新古典派成長理論（3） 【貯蓄率】 【収束】 【黄金律】
- 10回 新古典派成長理論（4） 【人的資本】
- 11回 消費・貯蓄の決定理論（1） 【消費平準化】 【異時点間の予算制約】 【効用最大化】
- 12回 消費・貯蓄の決定理論（2） 【リカードの中立命題】
- 13回 世代重複モデル（1） 【資本の過剰蓄積】
- 14回 世代重複モデル（2） 【世代間所得分配】
- 15回 まとめ

マクロ経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト (30%) と期末試験 (70%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して、評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

復習を欠かさず行うこと。授業の理解に有益な文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

経済学は「積み重ねの学問」なので、先に説明した内容がきちんと消化できていないと、後に説明する内容が理解できなくなる。したがって、毎回の復習は欠かさず行ってほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ミクロ経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 朱 乙文 / Eulmoon JOO / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ ミクロ経済に関するより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ ミクロ経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ ミクロ経済分析手法を用いて、現代の諸経済問題を確認し主体的に解明できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ミクロ経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、具体的なミクロ経済学の展開について学習し、ミクロ経済分析の論理と方法について理解する。

< 高度な専門的知識・機能 >

ミクロ経済分析における数理的分析方法を応用することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

複雑な経済の仕組みを単純化されたモデルで示すことができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、経済現象等について、進んで調べて、客観的視点から理解することができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ミクロ経済学と数学
- 2回 不完全競争の経済分析(1)：【独占】、【価格差別】
- 3回 不完全競争の経済分析(2)：【クールノー・ナッシュ均衡】
- 4回 不完全競争の経済分析(3)：【寡占】、【独占的競争】
- 5回 不完全競争の経済分析(4)：まとめ
- 6回 不確実性と情報の経済分析など(1)：【不確実性】、【リスク】、
- 7回 不確実性と情報の経済分析など(2)：【逆選択】 【道徳的危険】
- 8回 不確実性と情報の経済分析など(3)：【情報】、【シグナル】
- 9回 不確実性と情報の経済分析など(4)：まとめ
- 10回 ゲーム理論とミクロ経済分析(1)：ゲームの種類、ゲームの均衡概念
- 11回 ゲーム理論とミクロ経済分析(2)：【非協力ゲーム】 【同時ゲーム】
- 12回 ゲーム理論とミクロ経済分析(3)：【逐次ゲーム】
- 13回 ゲーム理論とミクロ経済分析(4)：【協力ゲーム】
- 14回 ミクロ経済分析の応用
- 15回 総まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加態度(30%)とレポートもしくは小テスト(70%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

ミクロ経済学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容を理解するために、ミクロ経済学の基礎知識を修得しておくこと

キーワード /Keywords

不完全競争、不確実性、情報、ゲーム理論

財政学II 【昼】

担当者名 /Instructor 前林 紀孝 / Noritaka Maebayashi / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 財政と租税の理解に必要なより高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 財政と租税の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 財政と租税のより高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財政学II

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字の問題などの財政問題についてグローバルスタンダードな経済理論を用いて学び、理解していきます。

DPに基づく3つの到達目標

①《高度な専門知識・技能》

経済理論モデルを用いて公共財の供給、租税競争、世代間所得再分配、年金・財政赤字などの財政問題を分析することができる。

②《高い問題解決能力と表現力》

数式・理論モデルを活用し、様々な財政問題の先行研究の帰結を整理できる。

③《高い倫理観に基づいた自律的行動》

先行研究を自発的に第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし (参考文献は講義内に指示する)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Economic growth (by Robert J. Barro and Xavier Sala-i-Martin). The MIT press

A theory of Economic growth (by David de la Croix and Philippe Michel). Cambridge University Press

Handbook of Public Economics (by Alan J. Auerbach, Raj Chetty, Martin Feldstein and Emmanuel Saez). North-Holland

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 Provision of public goods in a simple static game structure.
- 2 Provision of public goods in Nash Equilibria
- 3 Optimal provision of public goods
- 4 Provision of local public goods in a simple static model
- 5 Provision of local public goods with tax competition and tax coordination
- 6 Productive public goods (1) in an endogenous growth model
- 7 Productive public goods (2) under growth and welfare maximizing policies
- 8 Intergenerational redistributive policies-introduction to an overlapping-generations model-
- 9 Public pension policies in a life cycle model
- 10 Public pension policies in a model with intergenerational altruism
- 11 Effects of public pensions on growth (or capital accumulation)
- 12 Public deficits and debts (1) -the government's budget constraint-
- 13 Public deficits and debts (2) in a model with intergenerational altruism
- 14 Public deficits and debts (3) in a life cycle model
- 15 A summary

財政学II 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

期末試験もしくは期末レポート (100%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習) 指示された参考文献および論文を事前に予習しておくこと。

事後学習) 式の導出を完全に理解できるまで復習し、練習問題等を解いておくこと。

履修上の注意 /Remarks

数式展開をしていく中で、指数・対数、微分・積分、 Σ や \int などの演算が自然とできること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財政

金融論【昼】

担当者名 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 金融の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 金融に関する高度な専門知識を生かして、経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

金融理論の基礎を復習しながら、さらに応用的に金融に関する各種データを分析をする。理論と現実の整合性やギャップを確認する。さらに、今後の金融のあり方について、銀行経営や金融市場の側面から検討する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

金融の理解に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

金融の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

金融に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

とくになし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

とくになし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス【研究倫理】
- 2回 日本の金融市場
- 3回 家計の金融活動
- 4回 企業の金融活動
- 5回 情報の非対称性と金融システム【アドバース・セレクション】
- 6回 情報の非対称性と金融システム【モラル・ハザード】
- 7回 金融仲介機関の存在理由
- 8回 地域金融と地域経済【地方銀行、第2地方銀行】
- 9回 地域金融と地域経済【信用金庫、信用組合など】
- 10回 銀行経営とガバナンス【BIS規制】
- 11回 銀行経営とガバナンス【内部ガバナンス】
- 12回 郵政民営化【郵政民営化以前の財政投融资計画】
- 13回 郵政民営化【経営形態とその問題点】
- 14回 証券化と金融市場
- 15回 まとめ

金融論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の講義への取り組み・・・ 50%、報告内容・・・ 30%、ディスカッションへの貢献・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

金融に関する学部レベルの知識をもっていると理解しやすい。
毎回、前回の講義内容を復習しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際金融論 【昼】

担当者名 /Instructor 前田 淳 / MAEDA JUN / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 国際金融システムの枠組みと運動法則に関する専門的な知識を身につけ、国際金融の諸現象を深く洞察し、それらの原因と影響を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際金融関係の文献資料や情報・データを収集し、内容を適切に分析・加工・利用することができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国際金融に関する知識を常に求め、国際金融システムが直面する諸課題に対して、分析と思索と提言を行う態度を身につけることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際金融論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

現代の国際金融システムの基本的な枠組みと運動メカニズムを学ぶ。さらに、国際通貨・金融危機の原因とその対処など、国際金融システムが直面する諸課題について、学習する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

国際金融に関する研究書・資料を正しく読解したうえで、関連する資料を自ら見つけることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究書・資料の内容を人に説明できるとともに、それについての自分の意見を展開できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

適切な引用の仕方、参考文献一覧の作成法を身につけるとともに、先行研究の諸説を自説と対比して整理できる。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

使用しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 円高・円安とは 【クロスレート】
- 2回 為替レートによる換算 【実為替レート】 【実効為替レート】
- 3回 国際収支表の概要 【経常収支】
- 4回 国際収支表における複式簿記の原理 【貸借対照表】
- 5回 並為替と逆為替 【コルレス銀行】
- 6回 荷為替信用制度と決済 【信用状】
- 7回 グローバル化と直接投資 【投資収支】
- 8回 国際証券投資と外貨準備 【対外資産・負債】
- 9回 為替レートを左右するもの 【アセットアプローチ】
- 10回 為替レートの変動が与える影響 【マーシャル・ラーナー条件】
- 11回 経常収支を左右するもの 【IS/バランス】
- 12回 国際資本移動を左右するもの 【キャリー取引】
- 13回 基軸通貨と国際通貨体制 【為替媒介通貨】
- 14回 国際通貨・金融危機の原因 【国際資本移動】
- 15回 危機の予防と対処 【IMFコンディショナリティー】 【プルーデンス政策】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況で評価する(100%)。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

国際金融論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の初回に指示する文献やプリントの各該当部分を事前に講読して授業に臨むこと。また、授業で習った内容について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

産業組織論 【昼】

担当者名 /Instructor 後藤 宇生 / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法を理解、運用し、経済問題の解決に貢献できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 国際的な学術雑誌を詳細に読むことを通じて、先行研究の情報を有益に利用できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、分析・理解し、改善案を提案できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

産業組織論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

産業組織論・Yield Managementの基礎を学ぶ。高度な専門知識、統計解析等の技能、そして学問に向かう態度を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

実証的産業組織論で利用されるモデル、統計手法に必要な専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

企業行動、企業間競争、政府による規制等を経済学、ゲーム理論、統計解析を通じて、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

産業組織に関する改善案を主体的に提案できるようになる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Oz Shy. 2008. How to Price: A Guide to Pricing Techniques and Yield Management. Cambridge University Press.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. Yield Management について
2. 価格付けの導入
3. 需要と費用1
4. 需要と費用2
5. 価格付け_1
6. 価格付け_2
7. Bundling and Tying_1
8. Bundling and Tying_2
9. Multipart tariff_1
10. Multipart tariff_2
11. Vertical Product Differentiation_1
12. Vertical Product Differentiation_2
13. Auction_1
14. Auction_2
15. まとめ

産業組織論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

発表によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

微積分学の知識が必要。
前回の内容の理解を確認して、出席すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

統計学 【昼】

担当者名 /Instructor 林田 実 / Minoru Hayashida / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 統計学の幅広い高度な知識を身につけ、応用できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 統計学の推定、検定を利用して、経済・経営分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 統計学を通じて、科学的な思考ができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

統計学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

統計的な推定、検定の数理的な基礎を学ぶ。確率と確率分布の概念を学習した後、同時分布の定義とそれにかかわる条件付分布、独立性などを学ぶ。さらに代表的な分布である、二項分布、ポアソン分布、ガンマ分布、正規分布、二変数正規分布に習熟する。また、簡単な漸近分布についても学習し、最後に、統計的な推定、検定の理論を習得する。

DPに基づく3つの到達目標

- 「高度な専門的知識・技能」：Excel、Python、Rなどの統計ソフトを利用して経済分析ができる。
- 「高い問題解決能力と表現力」：社会・経済問題について何が問題かを捉え、数量的な分析ができる。
- 「高い倫理観に基づいた自律的行動力」：社会・経済問題をデータに基づく分析と解決のための提案ができる。

教科書 /Textbooks

林田実『サイコロを振って、統計学』創成社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

R. V. Hogg and A. T. Craig, Introduction Mathematical Statistics, fifth edition, Prentice Hall, 1995.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 離散型確率変数
- 2 連続型確率変数
- 3 離散型確率変数の同時分布
- 4 連続型確率変数の同時分布
- 5 二項分布
- 6 ポアソン分布
- 7 ガンマ分布
- 8 正規分布
- 9 二変数正規分布
- 10 漸近分布
- 11 点推定
- 12 区間推定
- 13 統計的検定の初歩
- 14 一様最強力検定
- 15 尤度比検定

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

統計学 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：教科書を熟読すること。講義は教科書を読んでいることを前提にする。
事後学習：簡単な練習問題を解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

推定、検定、正規分布、漸近分布

計量経済学 【昼】

担当者名 藤井 敦 / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 計量経済学の理解に必要な高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経済の専門家として、必要な情報を収集し、計量経済学的分析を行えるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 経済の問題・現象と数量的な分析を関連付けられるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

計量経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

経済学が「社会現象の法則」を見つけようとするとき、いろんな工夫をします。それを一緒に勉強して、「なぜそういう工夫をするのか」を考えます。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

計量経済学的分析結果を読み取ることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

状況に応じた適切な計量経済学的分析手法を選択することができる。

《高い倫理観に基づいた自立的行動力》

計量経済学的分析の具体例について計算または図解できる。

教科書 /Textbooks

ハンドアウトを配布するか、論文を指示する予定です。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で扱う論文・教材に即して別途指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下は現段階での予定です。受講生の関心や担当教員の日々の情報収集によって変更することがあります。

- 1回 講義概要と表計算ソフトの操作
- 2回 因果関係
- 3回 回帰分析の結果を読む
- 4回 回帰分析の理論的基礎
- 5回 内生性
- 6回 操作変数
- 7回 パネルデータ
- 8回 実験
- 9回 最尤原理
- 10回 プロビット
- 11回 多肢選択
- 12回 標本選別
- 13回 時系列分析
- 14回 データの縮約
- 15回 まとめ

計量経済学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

学期末試験...50%、授業への参加...50%、によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習：クラスで指定する文献・資料を事前に読んでください。

復習：授業のメモを作成してください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

労働経済学【昼】

担当者名 /Instructor 畔津 憲司 / KENJI AZETSU / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 労働経済に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

労働経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近年、経済組織における人事マネジメントについて経済学的視点から分析を行う「人事の経済学(Personnel Economics)」が発展している。この人事の経済学における主な理論的基礎はミクロ経済学である。本講義では、企業における人的資源管理について、どのようにミクロ経済学を応用して検討するかを学ぶ。扱うトピックは、採用・解雇基準の設定、賃金形態の設定、職業訓練の実施といった人事制度に関してである。講義形態はテキストの輪読およびディスカッションといった演習形式を基本とする。人事制度や組織制度を経済合理性の観点から議論するための基礎を身につけることを目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

労働経済に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

労働経済の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

高度な専門知識を生かして、労働経済の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

『人事と組織の経済学』，エドワード P. ラジアア著（樋口美雄・清家篤訳），日本経済新聞社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて適宜紹介する。

労働経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN：人事の経済学とは【人事制度】
- 第2回 採用基準の設定（1）【限界分析】
- 第3回 採用基準の設定（2）【対費用効果】
- 第4回 適任者の採用【自己選択】【モニタリング】
- 第5回 労働者の生産性を知る【非対称情報】【職務配置】
- 第6回 変動給与と固定給与（1）【投入ベース】【産出ベース】
- 第7回 変動給与と固定給与（2）【リスク回避】【就労インセンティブ】
- 第8回 人的資本理論（1）【人的資本理論】【学校教育】
- 第9回 人的資本理論（2）【職場訓練】
- 第10回 離職・解雇・希望退職（1）【年齢構成】
- 第11回 離職・解雇・希望退職（2）【希望退職】【選別的解雇】
- 第12回 情報、シグナル及び引き抜き（1）【シグナリング】
- 第13回 情報、シグナル及び引き抜き（2）【引き抜き】
- 第14回 動機づけとしての昇進（1）【トーナメント】
- 第15回 動機づけとしての昇進（2）【絶対成果】【相対成果】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の取り組み 70%、レポート 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読んでおくこと。講義中の課題を出すので解くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境経済学 【昼】

担当者名 /Instructor 牛房 義明 / Yoshiaki Ushifusa / 経済学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 環境問題を経済分析するのに必要な高度な専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 環境経済学における経済理論モデルの理解、実証分析ができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 現在直面する環境問題の課題の抽出、解決策の提案ができるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		環境経済学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、環境経済学、エネルギー経済学に必要な経済理論の習得と関連分野における最近の研究動向の理解を目標とする。前半は、市場の失敗による環境問題の発生メカニズム、環境税、排出権取引、環境評価などの環境政策の理論や実証分析に関する解説を講義形式で行う。後半は、近年注目されている再生可能エネルギー、スマートグリッド、スマートコミュニティに焦点をあて、最新の関連論文を紹介する。

到達目標は以下のとおりです。

【高度な専門的知識・技能】

- ・ 経済理論を理解することで、環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する学術論文を読む基礎学力を身につける。
- ・ 環境問題、エネルギー問題の経済分析に関する動向を把握できるようになる。

【高い問題解決能力と表現力】

環境経済学における経済理論モデルの理解、実証を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現在直面する環境問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談して決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

N. ハンレー、B. ホワイト、J. ショグレン 『環境経済学-理論と実践』 勁草書房 2005年○

岡敏弘 『環境経済学』 岩波書店 2006年○

環境経済・政策学会編 『環境経済・政策学の基礎知識』 有斐閣 2006年○

環境経済学 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 環境経済学、エネルギー経済学の概要と講義の説明
- 2回 ミクロ経済学の復習1 【効用最大化モデル】、【利潤最大化モデル】
- 3回 ミクロ経済学の復習2 【余剰分析】、【部分均衡分析】
- 4回 ミクロ経済学の復習3 【外部性】、【公共財】
- 5回 環境政策の経済分析1 【直接規制】、【経済的手法】
- 6回 環境政策の経済分析2 【自発的なアプローチ】、【ポリシーミック】
- 7回 地球温暖化の経済分析 【排出権取引】、【環境税】
- 8回 廃棄物の経済分析 【廃棄物課税】、【デポジット制】
- 9回 環境評価 【仮想評価法】、【コンジョイント法】
- 10回 再生可能エネルギーの経済分析1 【FIT】、【RPS】
- 11回 再生可能エネルギーの経済分析2 【分散型発電】、
- 12回 スマートグリッドの経済分析1 【デマンドレスポンス】
- 13回 スマートグリッドの経済分析2 【HEMS】、【BEMS】、【CEMS】
- 14回 最近の研究動向の紹介
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

講義中の発言（25%）、発表（25%）、期末試験（50%）
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義前までに教科書の該当する章を予め読んで下さい。講義中に質問します。また、講義終了後の内容は次回の講義で確認テストを行いますので、しっかり復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学、マクロ経済学、線型代数、微積分の知識を前提に講義を進めるので、事前に経済学、数学の復習をしてください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

応用地域科学 【昼】

担当者名 /Instructor 岡山 恭英 / Yasuhide Okuyama / 国際教育交流センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

応用地域科学

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義の目的は、「地域科学」(Regional Science) についての理解と認識を深め、その有効範囲と限界をわきまえたうえで、問題解決志向に基づく有意な政策提言等が可能となるような応用能力を習得することにある。「地域科学」とは、その創始者であるウォルター・アイサード教授によれば、「ある1つの学問領域としての地域科学とは、地域と空間の次元をもった社会問題について、分析的でしかも経験的な研究の多様な結合によって、注意深くしかも忍耐強く調査研究を試みるものである」という。

DPに基づく3つの到達目標

<<高度な専門知識・技能>>

地域科学に関する高度な知識を修得し、複雑化する地域経済の諸課題を分析できるようになる。

<<高い問題解決能力と表現力>>

地域科学の専門家として、必要なデータ・情報を収集し、適切に分析できるようになる。

<<高い倫理観に基づいた自律的行動力>>

高度な専門知識を生かして、地域経済の抱える課題を深く考察し解決の方策を探ることができるようになる。

教科書 /Textbooks

Isard et al. Methods of Interregional and Regional Analysis (1998) Ashgate

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN・ガイダンス
- 2回 地域科学とは
- 3回 分析対象としての地域概念の検証
- 4回 地域経済分析の基礎 1
- 5回 地域経済分析の基礎 2
- 6回 地域経済分析の基礎 3
- 7回 産業連関分析の基礎 1
- 8回 産業連関分析の基礎 2
- 9回 産業連関分析の基礎 3
- 10回 産業連関分析—地域産業連関表
- 11回 産業連関分析—地域間産業連関表
- 12回 産業連関分析—政策分析への応用 1
- 13回 産業連関分析—政策分析への応用 2
- 14回 産業連関分析—より高度なテクニク
- 15回 期末レポート発表および討論

応用地域科学 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の学習態度、20%：レポート発表、30%：レポートの内容、50% に基づいてシラバスの到達目標の達成度を加味して評価を行う

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

当該授業に係わる論文・書籍の内容の理解はもとより、院生が不明と思う点に関して自ら調べ授業の備える。授業後は当該授業の内容の深い理解に努めるとともに、さらなる不明点がある場合はそれについて調べる。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのミクロ経済学およびマクロ経済学は必須、さらには微分積分や線形代数の知識を推奨する。統計的手法や計量経済学の知識は有効。
各回の指定された図書等の事前学習、及び授業後の各個人によるまとめと復習を前提とした授業の進行を行う。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域科学は空間を扱う実践的な学問です。計量分析中心ですがその応用範囲は大変広く、将来的にも大変役立つ学問領域です。

キーワード /Keywords

地域科学、計量分析、都市経済学、地域経済学

会計学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 白石 和孝 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

会計学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

特に資産評価問題（資産会計）を中心に検討してみたい。伝統的な歴史的原価主義の体系で説明することが難しくなっている現代的・基本的課題について講義したいと思う。現代の混沌とした状況に財務会計はどう対応し、またどう対応すべきかについて、院生と活発に議論してみたい。会計学Ⅱではより高度な会計学の専門的内容を取り扱うことになる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

会計の理解に必要なより高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

会計に関するより高度な専門知識を生かして、会計の抱える課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝・須田一幸『財務会計・入門』（有斐閣）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

白石和孝『イギリスの暖簾と無形資産の会計』（税務経理協会）ほか。

会計学II 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 資産の評価問題（資産会計）を中心テーマとして、テキストを輪読し、解説することにした。院生相互の活発な質疑応答を大いに期待する。
- 2回 同上
- 3回 同上
- 4回 同上
- 5回 同上
- 6回 同上
- 7回 同上
- 8回 同上
- 9回 同上
- 10回 同上
- 11回 同上
- 12回 同上
- 13回 同上
- 14回 同上
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表・・・ 80% ティスカッションへの参加・・・ 20%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容に即して、テキストの該当箇所について予習と復習を行っておくこと。
併せて、関連文献も参照しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

あらかじめ授業で取り上げる該当箇所について十分に予習しておくとともに、復習もしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

財務会計Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 西澤 健次 / kenji NISHIZAWA / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○	財務会計に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○	財務会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	財務会計に関するより高度な専門知識を生かして、企業会計の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

財務会計Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日の会計は、収益・費用アプローチから資産・負債アプローチへと大きく転換しようとしている。しかしながら、資産・負債アプローチといえども、その会計の論理はいまだ確立しているわけではない。従って、本講義では、日本の会計の変遷をたどりながら資産・負債アプローチとは何か、その考え方を吟味し、研究することがねらいとなる。

DPに基づく3つの「到達目標」

《高度な専門的知識・技能》

簿記の仕訳を通して、高度な会計学の技能を身に着ける

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究課題を通して会計の諸問題を解決し、それを説明することができる、

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

先行研究を探索して、独自の会計理論を構築していくことができる。

教科書 /Textbooks

桜井久勝『財務会計講義』中央経済社

斉藤静樹『討議資料、財務会計の概念フレームワーク』中央経済社

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

笠井昭次『現代会計論』慶應義塾大学出版会○

西澤健次『負債認識論』国元書房○

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 財務報告の目的【財務報告】
- 2回 「財務報告の目的」の検討【情報の非対称性】
- 3回 会計情報の質的特性【意思決定有用性】
- 4回 「会計情報の質的特性」の検討【関連性】【内的整合性】【信頼性】
- 5回 財務諸表の構成要素【資産】【負債】【純資産】
- 6回 「財務諸表の構成要素」の検討【資本等式、貸借対照表等式】
- 7回 財務諸表における認識と測定(その1)【認識】
- 8回 財務諸表における認識と測定(その2)【測定】
- 9回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その1)【写像】【築像】
- 10回 「財務諸表における認識と測定」の検討(その2)【定量化】【定性化】
- 11回 財務報告の問題点(その1)【財務報告】【非財務報告】
- 12回 財務報告の問題点(その2)【純利益】【包括利益】
- 13回 概念フレームワークと実証研究【実証性】
- 14回 財務報告とその他の重要な論点【会計基準】
- 15回 まとめ

財務会計II【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況(80%)とレポート(20%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：収益・費用アプローチ(=損益法)と資産・負債アプローチの考え方について、教科書、参考書、インターネット等の文献を用いて学習しておくこと。

事後学習：財務会計論のキータームを中心に、基礎的な思考を整理しておくこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業内容は、院生との相談の上、進める予定である。

キーワード /Keywords

管理会計【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

1学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 管理会計の理解に必要な高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 管理会計の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 管理会計に関する高度な専門知識を生かして、会計や経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

管理会計

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営学Ⅱ【昼】

担当者名 /Instructor 遠藤 雄二 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 企業経営に関するより高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 企業経営に関するより高度な専門知識を生かして、経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営学Ⅱ

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

ゼミ形式で行う。
日本の企業経営について考えていく。入念な予習に基づく受講者の報告の後、毎回のテーマについて議論し、理解を進化させていく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

企業経営に関するより高度な専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

企業経営の専門家として、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

企業経営に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

事例研究が中心となるため教科書は使用しない。テーマに関する資料・論文を随時、配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回：オリエンテーション

第2～15回：日本企業のうち、過去20年間に成功した企業と失敗した企業を取り上げ、成功と失敗の要因を探究していく。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%、討論内容50%。

によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表する内容について、事前にテキスト、参考文献・資料を講読して内容をまとめて、レジュメ(またはプレゼンのファイル)を準備すること。また、授業で習った内容や指示された事例について、プリントや参考となる文献・資料をさらに講読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

経営学II 【昼】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

経営戦略論 【昼】

担当者名 浦野 恭平 / URANO YASUHIRA / 経営情報学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 経営戦略に関する高度な専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 経営戦略の策定に寄与する情報の収集・分析手法、戦略計画の立案・評価の手法を身につけることができるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的な知識にもとづいて、経営戦略に関わる課題解決に主体的に取り組むことができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

経営戦略論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講では経営学の主要領域である「経営戦略論」の理論を体系的に身につけることを目的とします。
DPに基づく到達目標は以下のとおりです。
《高度な専門知識・技能》
経営戦略論の諸学派のアプローチを理解できる。
《高い問題解決能力と表現力》
その諸理論により現実の経営問題の説明ができる。さらに、経営問題の解決に応用できる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
客観的な視点で考え、現実の経営問題に対処することができる。

教科書 /Textbooks

浅羽茂・牛島辰男『経営戦略をつかむ』有斐閣、2010年を使用。
その他、随時、参考資料を提供する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマに沿って随時指定。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

本講義では経営戦略論文献の輪読をつうじて、経営戦略論の理論研究をおこないます。
講義は基本的に学生の報告、それに基づく討議という形式で進めていきます。
また、随時レポートの提出を求めます。

第1回 ガイダンス
第2回 イントロダクション 【定義】【経営戦略論史】
第3回 事業戦略①フレームワーク 【SWOT】【Five Forces】【VC】【RBV】
第4回 事業戦略②基本戦略 【差別優位】【コスト優位】
第5回 競争のダイナミズム①競争優位の持続可能性 【システム】【経営資源】【組織能力】
第6回 競争のダイナミズム②業界標準と競争 【ネットワーク外部性】【業界標準】【競争と協調】
第7回 競争のダイナミズム③イノベーションと産業進化 【技術】【市場】【収益化】
第8回 企業戦略①フレームワーク 【事業の定義】【取引費用】【事業範囲】
第9回 企業戦略②垂直統合 【生産費用】【取引費用】【中間組織】
第10回 企業戦略③多角化 【多角化の要因】【多角化のタイプ】【学習】
第11回 企業戦略④多角化のマネジメント 【組織形態】【PPM】【凝集性】
第12回 国際化の戦略 【国際化の形態】【OLI】【トランスナショナル】
第13回 参入と撤退 【内部成長】【M&A】【アライアンス】
第14回 撤退とリストラクチャリング【清算】【売却】【事業統合】【リストラクチャリング】
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常における授業への参加度20%、発表・報告内容80%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断し、評価する。

経営戦略論 【昼】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始までに次回のトピックスに関するキーワードなど情報収集を行い、整理すること。
授業後はレジюмеと参考文献を用いて、学んだ諸概念、理論、事例などの情報を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

学部時に学んだ経営学全般の復習をしておいてください。
学部において経営戦略論、経営組織論の講義を履修している方が望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

予習はもちろんのこと、講義以外の研究時間を十分にとるようにしてください。

キーワード /Keywords

経営環境 経営戦略 イノベーション 組織変革

コーポレート・ファイナンス【昼】

担当者名
/Instructor

未定

履修年次
/Year単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ コーポレート・ファイナンス理論の観点から、企業経営で生起する諸問題の課題を設定し、それらの問題を分析し、解決策を考えることができるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

コーポレート・ファイナンス

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

前半（第10回まで）は、コーポレート・ファイナンスのもっとも基礎的な理論であるMM理論を復習した後、実証研究で用いられることの多いエージェンシー理論およびシグナリング理論について、講義形式で解説するとともに、有名な実証論文をレビューする。後半（第11～15回）は、合併・買収（M&A）、リストラクチャリング、新株発行、新規株式公開（IPO）、ペイアウト政策、コーポレートガバナンスなどのトピックのうち、参加者の関心のあるテーマについて、書籍あるいは論文を読む。前半は適宜小テストを実施する。後半については、参加者による報告を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

コーポレート・ファイナンスに関する専門知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

コーポレート・ファイナンス理論に基づいて、企業行動を定量的に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

企業のファイナンスに関して生起する諸問題の課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

前半については、Power Point 形式の講義資料を配布する。後半については、参加者と相談のうえ指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

内田交謹『コーポレート・ファイナンス 改訂版』創成社。

コーポレート・ファイナンス【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. ガイダンス
2. 資本構成の基礎理論【MM理論、節税、倒産、トレードオフ】
3. 配当政策の基礎理論【MM理論、配当課税、キャピタルゲイン課税】
4. 資本構成のエージェンシー理論：概説【エージェンシーコスト、所有と経営の分離、株式のエージェンシー・コスト】
5. 負債のエージェンシー・コスト①【資産代替、過小投資】
6. 負債のエージェンシー・コスト②【財務上の特約、企業・銀行間関係】
7. 資本構成の決定要因【成長機会、規模、有形固定資産、収益性】
8. 配当のエージェンシー理論【配当、成長機会、過大投資】
9. 配当のシグナリング理論【シグナリング】
10. 前半まとめ
11. コーポレート・ファイナンスのトピックス①【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
12. コーポレート・ファイナンスのトピックス②【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
13. コーポレート・ファイナンスのトピックス③【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
14. コーポレート・ファイナンスのトピックス④【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】
15. コーポレート・ファイナンスのトピックス⑤【M&A、リストラクチャリング、新株発行、ペイアウト】

成績評価の方法 /Assessment Method

小テスト(5回)60%、レポート20%、報告10%、質疑10%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に講義資料(Power Point ファイル)を読んでおくこと。講義終了後、必ず復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

学部レベルのファイナンスの知識を有していることを前提に授業を進めます。エージェンシー理論、シグナリング理論はミクロ経済学、論文の理解には計量経済学の知識がそれぞれ必要になります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人的資源管理 【昼】

担当者名 /Instructor 福井 直人 / Fukui Naoto / 経営情報学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化し、グローバル化する経済社会を解明できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	○ 人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析できる技能を形成できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 高度な専門的知識を活かし、現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		人的資源管理

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、企業におけるヒトに対するマネジメントに関する諸問題について、その諸制度および企業組織管理との関連において考察していきます。組織はいかに優秀な人材を確保し、いかに人材の能力を引き出し、どうすれば人はその能力を組織の中で発揮するのかということを様々な側面から考えています。それらの目的を達成するための仕組みが人的資源管理です。本講義ではとりわけ日本の大企業における人的資源管理について、制度的側面に焦点を当てながら論究します。

扱う領域は学部講義である「人的資源管理論」と重複しますが、大学院講義では人的資源管理に関連する研究潮流がどうなっているのかについても議論したく、学術的研究の動向にウェイトを置いた議論を展開したいと考えています。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

人的資源管理の理解に必要な高度専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

人的資源管理の理論と実践に関して、必要な情報を収集し、適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現実の企業における人的資源管理の課題に対する関心を継続的に持ち、課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

受講者の学習水準に合わせて選定したいが、現時点では、下記参考書に挙げている原田・平野(2018)の使用を検討している。この教科書は数少ない大学院生向けの人的資源管理テキストであり、読み応え十分である。ただし、これを用いるか否かは講義の第1回の話し合いで決定するので、必ず出席してほしい。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

原田順子・平野光俊(2018)『人的資源管理(新訂)』放送大学教育振興会。

上林憲雄・厨子直之・森田雅也(2018)『経験から学ぶ人的資源管理(新版)』有斐閣。(i昨年度の学部講義科目教科書)

上林憲雄編(2016)『ベーシック+人的資源管理』中央経済社。(一昨年度の学部講義科目教科書)

岩出 博(2013)『Lecture人事労務管理(増補版)』泉文堂。

その他、専門的な学術論文を適宜配布するので、これについても予習が必要。

※別途、各回において論文を配布する。

人的資源管理 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、人的資源管理研究概論
- 2回 経営学研究における人的資源管理研究の位置づけ【企業経営】【人的資源】
- 3回 日本の人事制度の研究【双対原理】【組織モード】【インセンティブ】
- 4回 組織行動論の研究【モチベーション】【リーダーシップ】
- 5回 人事等級制度の研究【職能資格制度】【職務等級制度】
- 6回 人事考課の研究【人事考課】【目標管理】
- 7回 賃金制度の研究【年功賃金】【成果主義賃金】
- 8回 人材育成の研究【キャリア】【OJT】
- 9回 労使関係論研究【企業別組合】【個別的労使関係】
- 10回 ワーク・ライフ・バランスの研究【WLB】
- 11回 人材ポートフォリオの研究【非正社員】
- 12回 ダイバーシティ・マネジメントの研究【ダイバーシティ】【再雇用制度】
- 13回 知識労働者の人的資源管理に関する研究【ナレッジ・ワーカー】【R&D技術者】
- 14回 人的資源管理学説の先端研究【戦略的人的資源管理論】
- 15回 まとめ

各回のテーマは教科書的な流れで配列しているが、いずれの教科書を用いるかによって若干内容は変化することに留意されたい。また、人的資源管理に関する基礎的な内容は修得しているものとして本科目を進める。

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・25%（配布した論文についてレジюмеを作成・報告してもらう。学期中における1人あたり報告回数は受講者により変動するので、報告回数が多いほどよい。あらかじめ了承されたい。）
 中間レポート・・・50%（2,000字程度のレポートを3回課す。1回でも提出しなかった場合は不可とする。）
 最終レポート・・・25%（4,000字～6,000字を予定）
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：事前に教科書の該当箇所、および配布された論文は必ず読んでくること。自分の報告のときだけ予習し、他人の報告のときは学習しないなどは言語道断。
 事後学習：教科書を再度読み、報告レジюмеを読みなおすことで、各回の復習を必ず行うこと。報告のやりっ放しにならないように。

履修上の注意 /Remarks

- (1) このシラバスを読んだうえで履修登録すること。時間帯の都合だけで科目選択してはならない（本科目に限らない）。
- (2) 講義は日本語で行なう。
- (3) 大学院講義であるから、経営学に関する基礎知識はあるものとして講義を進める。とくに、学部で人的資源管理（あるいはそれに類する科目）を受講した学生を主対象としたい。ただ、学部ときに当該科目を履修した経験がないからといって、本科目の履修を認めないわけではない。ただし、人的資源管理の初学者にはかなり難しい内容になることに留意されたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

受講者は比較的少人数になることが予想されるので、講義内容は相談のうえ若干変更する可能性がある。
 人的資源管理研究を専門としない学生でも、経営学専攻の学生であれば受講が十分に可能である。とはいえ、人的資源管理に関する最低限の基礎知識はあることを前提として講義を進めたい。経営組織論や経営戦略論と併せて受講することを推奨する。
 時間割で選択する科目は、自身のプラスになるように考えようで選択すること。繰り返すが、単位の取りやすさ、曜日や時限だけで判断しないこと。

キーワード /Keywords

人的資源管理、組織行動、労使関係

英語翻訳研究 【昼】

担当者名 /Instructor 野島 啓一 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の諸分野に関する高度な知識を身に付け、国際社会に役立てる能力を習得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 専門的職業人として、英語力を駆使して資料の的確な分析とその発展的研究ができるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 専門的知識を活用して、グローバル社会が抱える課題を主体的に探索・解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語翻訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The goals of this class are threefold:

1. To gain a deeper understanding of three areas in the field of practical translation: (i) English grammar; (ii) Japanese grammar; and (iii) Encyclopedic knowledge as background information.
2. To find heuristic clues in your own practical work assignment based upon each field of the three areas above.
3. To recognize the dynamic nature of the translation process and develop a personal vision in the sphere of oral translation as well as written translation.

On successful completion of the course, students will have a comprehensive understanding of:

- i) major translation theories
- ii) pragmatic translation skills adaptable to a variety of source languages
- iii) heuristic procedures in problem-solving translation drills

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語翻訳に必要な英米語圏の諸分野に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

専門的職業人として、英語力を駆使して資料を的確に分析して発展的研究のための問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会が抱える課題を自律的かつ主体的に探索・解決することができる。

教科書 /Textbooks

Printed Material:

Visual Material: (News, Speech Scripts)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

None

英語翻訳研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	Introductory Lecture
Week 2	Issues in translation: Japanese grammar and recommended solutions
Week 3	Issues in translation: English grammar and recommended solutions
Week 4	Issues in translation: Encyclopedic knowledge and recommended solutions
Week 5	Concluding proposals based on the principle of context-driven translation
Week 6	Project Work (I): Relevance-theoretic Approach
Week 7	Project Work (II): Translation Principles
Week 8	Project Work (III): Communication Situations
Week 9	Communicative Clues
Week 10	Inter-lingual Interference
Week 11	Direct Translation and Indirect Translation
Week 12	A Unified Account of Translation
Week 13	Research Program: Planning and structuring
Week 14	Research Program: Presentation technique and criticism
Week 15	Course review

成績評価の方法 /Assessment Method

in-class projects (20%) + take home quiz (20%) + exam (60%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are required to organize review and preparation items after each class.

履修上の注意 /Remarks

None

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

source language, target language, context-driven principle of translation

中国文化研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に1930年代の中国近代文学芸術運動を中心に体系的に講義する。主要な作家、作品、思潮、流派等の紹介を通じて、当時の文学芸術を概観する。魯迅等の後の中国近現代文学芸術に影響を与えた1900～10年の作家達（四大譴責小説-魯迅『中国小説史略』）の紹介、中国近代白話小説-魯迅『狂人日記』『阿Q正伝』および中国に初めてイブセン劇が紹介され、西欧の小説・戯が翻訳・模倣された1910年代の紹介、五四運動後に思想的分化を果たして誕生した矛盾を中心とする「文学研究会」と郭沫若を代表とする「創造社」の二大勢力・流派の紹介ならびに主要な作家の紹介、欧米日の文学芸術の影響を受けた多種多様な作家達が登場し、各種論争を引き起こし、次第に文学の世界に政治が露骨に介入してくるようになる時期までを毎回テーマを絞って講義する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国文化に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

中国文化研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代と梁啓超『小説と政治の関係について』と日本の政治小説について
- 第2回 中国近代と嚴復『天演論』の影響について
- 第3回 中国近代と魯迅「中国四大譴責小説」について
- 第4回 義和団事件と女性解放運動のパイオニア・秋瑾について
- 第5回 魯迅と故郷紹興および作品集『呐喊』について
- 第6回 魯迅の日本留学、特に仙台医学専門学校・藤野巖九郎との関係について
- 第7回 魯迅と辛亥革命について
- 第8回 啓蒙雑誌「新青年」と中国初の白話小説・魯迅の処女作『狂人日記』について
- 第9回 五四新文化運動と西欧文学・思想の受容について
- 第10回 イプセンの『人形の家』と中国女性解放について
- 第11回 五四退潮期と「文学研究会」ならびに「創造社」の成立とその活動について
- 第12回 革命文学論争-「創造社」「太陽社」VS魯迅について
- 第13回 中国左翼作家聯盟成立とその活動について
- 第14回 国防文学論争と魯迅の死について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

なし。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代文学芸術、魯迅、五四新文化運動

中国民族文化研究【昼】

担当者名 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民族文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○ 現代中国語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○ 中国民族文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国民族文化研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、中国民族文化研究「王昭君文学史研究」と題する。漢代の中国に実在し、少数民族の匈奴に嫁した悲劇の女性王昭君に取材した様々な記録や文学作品を系統的に読解することで、中国民族文化理解に資することを目的とする。

中国四大美人の一人として有名な王昭君は、漢民族と少数民族の融和と悲劇の象徴として、歴代の種々の詩文戯曲小説に描かれてきた。中国文学史、中国民族文化史上に占める王昭君の意義は今日も全く失われていない。

関連する作品は多数に上る。時間が限られた1学期の授業では、まず王昭君に関する歴史記録を確認した上で、宋代王安石の「明妃曲」、次いで欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

授業では、毎週担当者が30分程度で所定の作品内容について報告し、その後は担当者一受講生が自由に討論する。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。必要な資料を担当者が毎回準備する。インターネット情報について、利用者が内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『古文真宝(前集)下』(星川清孝、明治書院、新釈漢文大系10、昭和42年)
- 『王昭君故事的伝承と嬪嬙』(張文徳、学林出版社、2008年)
- 『歴代歌詠昭君詩詞選注』(魯歌他編注、長江文芸出版社、1982年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

この授業では、王昭君に関する歴史記録を踏まえた上で、『古文真宝』に収録する王安石の「明妃曲」、欧陽脩の「明妃曲」について集中的に精読する。

- 一 はじめに 授業の目的と概要の紹介
- 二 『漢書』巻9元帝紀・巻94匈奴伝
- 三 『後漢書』巻89南匈奴伝
- 四 『西京雜記』巻2画工棄市
- 五 王安石「明妃曲」その一(明妃初出漢宮時一当時枉殺毛延寿)
- 六 王安石「明妃曲」その二(一去心知更不帰一人生失意無南北)
- 七 王安石「明妃曲二」その一(明妃出嫁与胡兒一彈看飛鴻勸胡酒)
- 八 王安石「明妃曲二」その二(漢宮侍女暗垂淚一尚有京絃留至今)
- 九 欧陽脩「明妃曲」その一(漢宮有佳人一万里安能制夷狄)
- 十 欧陽脩「明妃曲」その二(漢計誠已拙一莫怨春風当自嗟)
- 十一 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その一(胡人以鞍馬一胡人共聽亦咨嗟)
- 十二 欧陽脩「明妃曲、和王介甫」その二(玉顔流落死天涯一豈知此声能斷腸)
- 十三 小まとめ 王安石・欧陽脩の「明妃曲」について
- 十四 「昭君出塞」関連ビデオ
- 十五 まとめ 中国文学における王昭君故事の意義

中国民族文化研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 日頃の授業への取り組み50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館、ネット情報等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像の視聴等を行う。

履修上の注意 /Remarks

調査発表や討論は日本語を主とするが、作成する資料等は中国文でも構わない。
また、wiki等のネット情報については、鵜呑みにするのではなく、批判的に活用するように心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

王昭君は中国漢代の人ですが、平安時代頃に日本にも知られるようになりました。特に平安初期の嵯峨天皇は王昭君を題にした漢詩を詠んだことで有名です。楊貴妃にしろ、李白にしろ、日本人はこれら外国人に身内のような親近感を持ちます。音楽やスポーツ同様、文学にも実は国境はありません。皆さんも、文字の違いはあっても国境は無い王昭君像に興味を持ってもらいたく思います。

キーワード /Keywords

王昭君 中国文学史 古文真宝 少数民族 匈奴 王安石 欧陽脩

中国語教授法研究【昼】

担当者名 /Instructor 王 占華 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 集中 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上、説得力のある教育法を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を取り込んで、自分なりの講義ポイントを積み重ねる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		中国語教授法研究

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

発音・文法・表現を中心にして、現代言語学理論、特に認知言語学・機能主義・相互作用言語学の視点より日本語母語者に中国語を教授する方法を研究する。

具体的な目標：

- 1) 翻訳法・直接法・功能法などの第二言語教授法について、それぞれの特徴を考察した上、中日比較による中国語教授法のシステムを確立させる。
- 2) 比較による中国語教授法における各段階の授業内容・細目を構築する。
- 3) 地球規模で一体化した現代世界で求められる人材における素質として外国語の学習能力と教育能力を身に付ける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

第二言語教育のニーズに応じて、等級別の中国語教育内容・重点・方法を修得する。

【高い問題解決能力と表現力】

先行研究を踏まえ、中日両言語における異同点をまとめ、その動因を解釈した上で問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

積極的に教育法に関する論文・教科書の作成を自律的に取り込んで、自分なりの講義ポイントを主体的に積み重ねることができる。

教科書 /Textbooks

『中日比較による中国語教授法』（授業中配付）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 『基於比較的漢語教學法』 朋友書店
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及話語理解』 朋友書店
- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版） 駿河台出版社
- 相原 茂 他 『中国語の文法書』 同人社
- 杉村 博文 『中国語文法教室』 大修館書店

中国語教授法研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 外国語教授法における「二大体系」・相互作用言語学 (Interactive linguistics) による教授法の新展開
- 第2回 第二言語教育の視点から中国語を見る
- 第3回 比較法による発音教育・語彙教育
- 第4回 品詞教授法の一：デフォルト値と場所性
- 第5回 品詞教授法之二：計量・個性化・イメージ化
- 第6回 品詞教授法之三：A B式・重ね型・区別詞
- 第7回 品詞教授法之四：方式視点と目的視点
- 第8回 品詞教授法之五：実現重視・変化重視・存続重視
- 第9回 品詞教授法之六：粘着と関連・接着剤と形式マーク
- 第10回 表現教授法の一：「主観任意性と無方向性」
- 第11回 表現教授法之二：「客観条件・技術能力・主観判断」
- 第12回 表現教授法之三：「補充と説明・主体説明と事項説明」
- 第13回 表現教授法之四：「常識依存と文脈依存」
- 第14回 表現教授法之五：「意味本位と形式本位」
- 第15回 教材の編成・練習問題設定・CEFRと能力測定・誤用対策

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の練習・発表・コメントにより100%で評価。
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回の講義内容について、参考文献等を読み、中日両言語の実例を収集し、分析しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

参加型の講義なので、外国語を学習する経験を生かし、学習者の立場で積極的な効果的な教育方法を探索するよう望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

「教学相長ず」という名言で言っているように、人に教えることと師から学ぶこととは相補い合うもので、両方を経験してはじめて学業も向上する。是非この講義の参加を通じて自分の情報受信能力と思考発信能力を高めよう。

キーワード /Keywords

第二言語教授法 相互作用言語学 比較法 各教授法の教材編成における原則 CEFRと能力測定

中国民間文学研究【昼】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代中国語と方言に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 中国民間文学に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国民間文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近現代中国における民間文学への関心と研究は、中国がアヘン戦争を経て欧米の先進文明を認識し、植民地国家でない自立した中国のあり方を模索し始めた1920年代に始まる。

この授業では、その草創期における顕著な著作である鄭振鐸の『中国俗文学史』を読み、鄭振鐸が日中戦争下において中国の民間文学をどう捉えていたか、その考えは今日の中国にどう活かされているかについて考える。

授業では、毎回担当者が30分程度、『中国俗文学史』に示された当該題目について調査発表し、その後、受講生全員で自由討論する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国民間文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と方言に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国民間文学に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

○『中国俗文学史』（鄭振鐸、中国文聯出版社、2009年）

※どの版本を用いてもよい。ネット情報も、内容に注意しつつ活用することを容認する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『挿図本中国文学史』（鄭振鐸、商務印書館、1963年）

※どの版本を用いてもよい。

中国民間文学研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

各章を前後二回に分け、担当者が前30分で内容紹介する。残りの時間は全員が自由に討論する。教員は適宜総括する。前期の予定は次の通りである。

- 一 はじめに 鄭振鐸と『中国俗文学史』について 【鄭振鐸の生涯と『中国俗文学史』の成書について学習する。】
- 二 第一章 何謂「俗文学」前半 【俗文学とは何か。前。正統文学と対比しつつ、その近代的意義を検討する。】
- 三 第一章 何謂「俗文学」後半 【俗文学とは何か。後。その分類を行い、中国文学史における特質を分析する。】
- 四 第二章 古代的歌謡 前半 【古代の歌謡。前。主に北方『詩経』の歌謡について、その特徴等を検討する。】
- 五 第二章 古代的歌謡 後半 【古代の歌謡。後。主に南方『楚辞』の歌謡について、その特性等を分析する。】
- 六 第三章 漢代的俗文学 前半 【漢代の俗文学。前。主に漢代初期の楚風文学について、その特徴等を検討する。】
- 七 第三章 漢代的俗文学 後半 【漢代の俗文学。後。主に古詩、無名氏の詩について、その特性等を分析する。】
- 八 第四章 六朝の民歌 前半 【六朝の民歌。前。主に六朝時代北朝の楽府について、その特徴等を検討する。】
- 九 第四章 六朝の民歌 後半 【六朝の民歌。後。主に六朝時代南朝の楽府について、その特性等を分析する。】
- 十 第五章 唐代的民間歌謡 前半 【唐代的民間歌謡。前。主に唐代前期の民間歌謡の特徴等を検討する。】
- 十一 第五章 唐代的民間歌謡 後半 【唐代的民間歌謡。後。主に唐代後期の民間歌謡の特性等を分析する。】
- 十二 第六章 敦煌変文 前半 【敦煌変文。前。敦煌変文の出土状況や分類について学習する。】
- 十三 第六章 敦煌変文 後半 【敦煌変文。後。王昭君や伍子胥等、正統文学と関わる諸作品について検討する。】
- 十四 第七章 宋金の雜劇詞 前半 【宋金代の雜劇詞。前。主に宋金代北方における雜劇詞の特徴等を検討する。】
- 十五 第七章 宋金の雜劇詞 後半 【宋金代の雜劇詞。後。主に宋金代南方における雜劇詞の特性等を分析する。】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%、日頃の授業への取り組み50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

図書館等を活用し、授業の理解に有益な読書、映像視聴等を行う。ネット情報も内容に留意しつつ活用する。

履修上の注意 /Remarks

発表や質問は日本語を用いるが、作成資料は中文使用可です。
自由質問の時間は、全ての受講生に質問を促します。「何もしません」はありません。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

発表資料の作成に当たって、wiki等のネット資料を渉猟することは差し支えありませんが、情報を鵜呑みにするのではなく、批判的に取り入れるように心がけてください。

キーワード /Keywords

鄭振鐸 中国俗文学史 民間文学

中国文化史研究【昼】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中文の中国語理解に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国語理解に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語理解

※文化・言語専攻（中国語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

20世紀の中国文学芸術運動、特に中国の演劇・話劇（新劇）運動史を中心に体系的に講義を進める。（1）19世紀末、京劇の改良演劇として誕生した時装新戯や時事新戯の立役者・汪笑儂から中国話劇が誕生した。（2）そしてその改良演劇の影響を受けた李叔同（当時、東京美術学校の留学生）は1906年、東京で「春柳社」を結成し、話劇を上演する。（3）その時の顧問を務めた人物は川上音二郎一座の俳優兼座付作者の藤沢浅次郎であった。（4）1918年初めてイブセン劇が胡適によって中国に紹介される。（5）1920年代半ばに中国の舞台に初めて女優が登場する。その立役者は洪深。（6）1930年代に入り、のちに中国近代演劇の父と称される曹禺が『雷雨』で劇壇デビューを果たす。以上、中国演劇の歴史を紐解きながら、各時期の主要作家、主要作品を紹介し、その時代の社会や文化を検証する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中文の中国語理解に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国語理解に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

中国文化史研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国近代の幕開けと中国伝統劇・京劇改革運動と汪笑儂について
- 第2回 早期話劇の誕生と上海の学校との関わりについて
- 第3回 中国話劇団「春柳社」の日本・東京での誕生とその関わりについて
- 第4回 辛亥革命と話劇団「春陽社」の演劇運動との関わりについて
- 第5回 イブセンの『人形の家』と中国の女性解放運動について
- 第6回 中国初の口語体による話劇脚本『終身大事』（胡適作）の登場について
- 第7回 近代的演劇理論を学んで米国から帰国した洪深と中国劇壇での女優の登場について
- 第8回 中国小劇場運動のパイオニア田漢と中国劇壇での活躍と日本との関わりについて
- 第9回 田漢と谷崎潤一郎、佐藤春夫との関係について
- 第10回 上海芸術劇社の誕生と中国左翼演劇家協会の誕生秘話について
- 第11回 劇作家夏衍の国防演劇『賽金花』『秋瑾伝』について
- 第12回 夏衍の上海映画演劇界における活躍について
- 第13回 欧陽予倩と西南地区の演劇運動について
- 第14回 曹禺戯曲における悲劇性について
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・40% レポート・・・60%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

少々難易度の高い授業になるので集中して受講すること。

キーワード /Keywords

中国近代演劇、中国話劇の誕生、イブセン劇の受容、中国近代演劇の父-曹禺

比較広域文化研究【昼】

担当者名 /Instructor 中山 俊 / NAKAYAMA SHUN / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 日本の文化に関する深い知識を身に付け、さまざまな他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として国際社会及び地域社会に貢献できる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	△ 日本文化並びにさまざまな他文化に関する深い学識を備えた専門家として、広範囲にわたる資料を駆使し、分析・研究できるようにする。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門的な知識と研究能力を生かし、グローバル社会における課題を自ら解決できるようにする。
		比較広域文化研究

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、世界各地に存在する有形・無形の文化財についての文献を講読し、文化財の保存・管理とその活用のありようや様々な問題点について見識を深めたい。また、論文の構成、主張の意義と妥当性、文章表現等について議論しながら論文の執筆方法を十分に理解し、履修者の修士論文に活かしたい。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業方針の説明
- 2回 文献講読【文化財の概念】
- 3回 文献講読【「世界遺産」の諸問題】
- 4回 文献講読【フランスにおける文化財の保存・管理】
- 5回 文献講読【日本における文化財の保存・管理】
- 6回 文献講読【イスラエルにおける文化財の保存・管理】
- 7回 文献講読【アラブ世界における文化財の保存・管理】
- 8回 文献講読【「無形文化遺産」の諸問題】
- 9回 文献講読【景観-日本-】
- 10回 文献講読【景観-ヨーロッパ-】
- 11回 文献講読【文化財と地域経済】
- 12回 文献講読【博物館と観光】
- 13回 文献講読【遺跡と観光】
- 14回 文献講読【アラブ世界における宗教の観光資源化】
- 15回 まとめ

以上は予定であり、受講者の人数や理解度に応じて変更する可能性がある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加度（授業中の発言や受講後に提出するコメント用紙）・・・50%、期末レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講前には指定された文献を必ず読んでおくこと。発表者は入念に準備すること。受講後は、独習時には気づかなかった点、理解できなかった点などを復習しておくこと。

比較広域文化研究 【昼】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

ヨーロッパ比較文化研究【昼】

担当者名 富田 広樹 / TOMITA HIROKI / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	△	日本とヨーロッパ文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△	日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

ヨーロッパ比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012. の精読を通じて、スペイン演劇の概要を知るとともに、それぞれの時代のスペイン内外の演劇テキストを参照しながら、その発展を考察する。授業参加者は担当箇所についての発表を行うものとし、その後、他の参加者との議論を行うものとする。

到達目標は以下の通りである。

《高度な専門的知識・技能》

スペイン演劇史について、専門的知識を培う。

《高い問題解決能力と表現力》

時代ごとの特徴を把握理解した上で、作品の比較研究、批評ができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

みずから設定した課題に、学術的に妥当なアプローチで取り組むことができる。

教科書 /Textbooks

Maria M. Delgado and David T. Gies. A History of Theatre in Spain. Cambridge: Cambridge University Press, 2012.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

アリストテレス『詩学』光文社古典新訳文庫、2019.

富田広樹『エフィメラル』論創社、2020.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. 授業運営についての説明と書誌案内
2. 第1章の精読と発表
3. 第2章の精読と発表
4. 第3章の精読と発表
5. 第4章の精読と発表
6. 第5章の精読と発表
7. 第6章の精読と発表
8. 第7章の精読と発表
9. 第8章の精読と発表
10. 第9章の精読と発表
11. 第10章の精読と発表
12. 第11章の精読と発表
13. 第12章の精読と発表
14. 第13章の精読と発表
15. まとめ

ヨーロッパ比較文化研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み、70% 学期末レポート、30%により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して成績評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された作品や文献の参照と授業内容のレビューをすること。

履修上の注意 /Remarks

題材はスペイン演劇であるが、テキストは英語なので、スペイン語を履修していなくても履修は可能。ただし十分な英語能力を有すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科, 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○	中国研究の諸分野について専門的知識を習得し、自らの見解を表明できる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△	中国研究の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△	中国に関する諸問題に関心を持ち、広い視野から問題解決の方法を模索し行動することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史・経済・政治の分野において、研究をすすめる上で必須の専門知識を習得し、中国研究の研究方法を理解し、特に研究文献と一次資料の取り扱い方、一次資料から自説を立論する手法を重んじ、問題解決力を身につける。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究に関する研究概況を理解し、研究に必要な語学力を有し、研究文献を収集できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説としてまとめることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、論文の構成を思考できる。

教科書 /Textbooks

授業中に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

中国研究概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：全教員-授業ガイダンス
- 2回：白石-中国経済を分析する視点 - 開発ミクロ経済学からのアプローチ
- 3回：白石-中国経済への分析アプローチ（1）論文を読む
- 4回：白石-中国経済への分析アプローチ（2）分析手法
- 5回：白石-中国経済研究から得られる知見と展望
- 6回：堀地-中国近代史の学術論文が完成するまで
- 7回：堀地-中国近代史研究とインターネット利用
- 8回：堀地-歴史資料を読解し分析する（1）中文史料
- 9回：堀地-歴史資料を読解し分析する（2）日文史料
- 10回：下野-中国政治を分析する視点
- 11回：下野-中国政治への歴史的アプローチ（論文を読む）
- 12回：下野-中国政治への政治学的アプローチ（論文を読む）
- 13回：下野-資料の収集と読解
- 14回：全教員-総合討論と学生研究報告（1）報告
- 15回：全教員-総合討論と学生研究報告（2）総合討論

成績評価の方法 /Assessment Method

平常評価、授業中の報告等と学生研究報告で100%評価する。これらよりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に教員が提示した課題を準備して出席すること、また授業後に教材を見直し論点を整理すること。

履修上の注意 /Remarks

講義だけでなく、受講生による報告や実習等も行う。中国の歴史・政治・経済を専門とする学生の履修が望ましい。中国の文学・言語学・文化等を専門とする者には非常に難である。現代中国語と古典中国語の語学力が必要である。中国語未習者には、本科目の履修を薦めない。また、英語文献を取り扱うこともある。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国近代史 一次資料 中国政治 中国経済 現代中国

東南アジア研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
篠崎 香織 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような態度を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

東南アジア研究概論

授業の概要 /Course Description

近現代東南アジアの歴史、政治や社会について体系的に学び、当該地域に対する理解を深めることができるように指導する。(オムニバス方式 / 全15回)

1 田村慶子 / 5回

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会、エスニシティ、国民統合に関する文献を読み、受講生との討論を中心に授業を進める。

2 伊野憲治 / 5回

東南アジア、特にミャンマーを中心に、民主化問題を扱い、政治と文化の関係性に注目しながら文献を選び、受講生との討論を行っていく。

3 篠崎香織 / 5回

植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。ナショナリズム、移民などのテーマを中心に文献を選び、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア地域の歴史、政治や社会についての専門的知識や理解力を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

自ら先行研究を収集し、その問題点も発見しながら問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような自律的かつ主体的な行動力を身につけている。

教科書 /Textbooks

清水一史・田村慶子・横山豪志編『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2011年。

* これは学部3 - 4年生用の教科書であるので、大学院受講生の学力や知識によっては変わることもある。

弘末雅士『東南アジアの港市世界—地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。

加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落 (岩波講座東南アジア史第6巻)』岩波書店、2002年。

池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開 (岩波講座東南アジア史 第7巻)』岩波書店、2002年。

東南アジア研究概論 【昼】

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 白石隆 『海の帝国ーアジアをどう考えるか』 中公新書、2000年。
- ベネディクト・アンダーソン (白石隆・白石さや訳) 『想像の共同体ーナショナリズムの起源と流行』 NTT出版、1997年。
- 東南アジア学会監修 『東南アジア史研究の展開』 山川出版社、2009年。
- 伊野憲治 『アウンサンスーチーの思想と行動』 アジア女性交流・研究フォーラム、2001年。
- 工藤年博編 『ミャンマー政治の実像ー軍政23年の功罪と新政権のゆくえー』 アジア経済研究所、2012年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

【田村担当】

- 第1回 教科書、参考文献、スケジュールなどの説明。
- 第2回 『東南アジア現代政治入門』 序章および第一章の輪読と議論
- 第3回 『東南アジア現代政治入門』 第二章および第三章の輪読と議論
- 第4回 『東南アジア現代政治入門』 第四章および第五章の輪読、議論
- 第5回 『東南アジア現代政治入門』 第六章の輪読および議論、まとめの議論

【伊野担当】

- 第6回 東南アジア諸国における民主化についてーミャンマーを中心にー (講義)
- 第7回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する邦語論文の輪読)
- 第8回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (理論に関する英語論文の輪読)
- 第9回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する邦語文献の輪読)
- 第10回 東南アジア諸国における民主化に関する文献の輪読、議論 (ミャンマーに関する英語文献の輪読)

【篠崎担当】

- 第11回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：序章～第4章
- 第12回 『東南アジアの港市世界』の輪読、議論：第5章～終章
- 第13回 『植民地経済の繁栄と凋落』の輪読、議論。
- 第14回 『植民地経済の繁栄と凋落』および『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。
- 第15回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』の輪読、議論。

成績評価の方法 /Assessment Method

- 報告や議論などの日常の授業への取り組み 70%
 - レポート 30%
- によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、港市国家、植民地支配、ナショナリズム、華僑、華人
ミャンマー民主化、アウンサンスーチー

アメリカ社会概論 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会理解に必要な基礎的な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する基礎的な力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる基礎的な力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のD・トランプ政権までの政治基調を見た後、そうした政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

- 《高度な専門的知識・技能》 アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。
- 《高い問題解決能力と表現力》 自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』第3版(有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 21世紀後における保守主義政治の転回【保守主義】
- 第3回 トランプ政権のイデオロギー【D・トランプ】
- 第4回 オバマ政権の歴史的位相【B・オバマ】
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 アメリカ政治を動かす力【世論】【利益政治】
- 第8回 1980年代における国家論の再興【国家論】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1990年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【リベラル・コンセンサス】
- 第14回 1980年代における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

アメリカ社会概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

アメリカ人種関係概論 【昼】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、史的・総合的に取り扱う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について、広く知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理し、一次史料を用いて議論を組み立てて表現し、問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

- Lawrence H. Fuchs, The American Kaleidoscope: Race, Ethnicity, and the Civic Culture, Hanover, NH: Wesleyan University Press, 1990.
- Marc Dollinger, Quest for Inclusion: Jews and Liberalism in Modern America, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2000.
- Matthew Frye Jacobson, Whiteness of a Different Color: European Immigrants and the Alchemy of Race, Cambridge, MA: Harvard University Press, 1998.
- Murray Friedman, What Went Wrong?: The Creation & Collapse of the Black-Jewish Alliance, New York: Free Press, 1995.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

アメリカ人種関係概論 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. インTRODクシヨN
2. アメリカ人種関係論の概要
3. 新しい「社会史」の登場
4. アメリカの人種関係と「平等」の諸理論
5. アメリカの人種関係と「国民統合」の諸理論
6. 「白人性(ホワイトネス)」議論の登場
7. ホワイトネス各論1:M.ジェイコブソン
8. ホワイトネス各論2:D.ローディガー
9. ホワイトネス各論3:その他の主要な著作
10. 人種混淆の理論
11. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開:20世紀前半
12. ユダヤ人-黒人関係の歴史的展開:20世紀後半
13. その他のグループ間関係
14. 21世紀のアメリカの人種関係
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員(北美幸)の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト(読んでおくべき文献のリスト)も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際関係研究概論 【昼】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科, 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科
魏 芳 / FANG WEI / 経済学科, 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 /Semester 学期 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 国際関係の理論、国際経済、国際政治の基礎について包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 国際関係の理論、国際経済、国際政治に関する事項について、修得した知識と技術を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際関係研究概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、国際関係研究の基礎となる国際政治および国際経済の理論を主に学びます。そのうえで専門科目を学ぶにあたっての基礎的な素養をしっかりと身につけます。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：大学院で国際関係を研究するにあたって、最低限必要とされる国際政治および国際経済の専門的知識を身につけ、それをもとに高度な文章を理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：高度な内容に対して、学んだ知識をもとに議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルに基づいて、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし。適宜、各回の授業で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 国際関係の成立と拡大：ウェストファリア体制 (担当：阿部容子)
- 第3回 リアリズム：勢力均衡、覇権安定論
- 第4回 リベラリズム：機能主義、相互依存論、国際レジーム論
- 第5回 コンストラクティビズム：間主観性、規範の役割
- 第6回 国際政治におけるグローバルサウス (1) バンドン精神と非同盟運動 (担当：大平 剛)
- 第7回 国際政治におけるグローバルサウス (2) 資源ナショナリズムとNIEO
- 第8回 国際政治におけるグローバルサウス (3) 新自由主義と構造調整政策
- 第9回 国際政治におけるグローバルサウス (4) 新興国の台頭と南南協力
- 第10回 国際貿易の経済分析 (1) 比較優位と分業の利益 (担当：魏 芳)
- 第11回 国際貿易の経済分析 (2) 貿易政策の効果と保護貿易
- 第12回 国際貿易の経済分析 (3) 貿易政策の政治経済学
- 第13回 紛争と安全保障 (1) 戦争の形態変化、軍事制度の発展 (担当：中野博文)
- 第14回 紛争と安全保障 (2) 国際法の発展、帝国と覇権
- 第15回 紛争と安全保障 (3) 戦略、同盟、集団安全保障

国際関係研究概論 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80% (20%×4本) によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に各回で学ぶ内容について、予備知識を文献やインターネットを通して得ておくこと。事後学習としては、レポート課題が出されるので、テーマに則した文献や資料を収集してレポートを書くこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この講義は、東アジア専攻の4名の教員によってオムニバス形式で行われます。

キーワード /Keywords

中国社会史研究【昼】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国社会の歴史について専門知識を習得し、自らの見解を表明することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国社会史の専攻分野に関する研究文献と一次資料を調査収集し、研究課題を定め、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国社会の歴史に関する専門知識に基づいて、中国の社会問題を歴史的に理解し、問題解決の方法を模索することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本科目は漢族を中心とする中国人社会が如何なる人的結合を核として構成され、それがどのような歴史の変遷を経て今日に到るのかを考察する。重点的には、中華人民共和国の土地改革によって変革された旧中国社会(明清時代)と現在の社会主義体制下の中国社会とを歴史的に対照させ、また日本伝統社会と比較しながら、中国社会の構成原理と特質を講じてゆきたい。

【高度な専門的知識・技能】

専門分野の研究文献を判読し知識を獲得することができる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説を形成できる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、課題を解決できる。

教科書 /Textbooks

・ 上田信『海と帝国』（講談社、2005年）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

・ 井上徹等編『東アジア近世都市における社会的結合』（清文堂、2005年）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンスと文献の配布
- 第2回 中国という社会空間
- 第3回 明朝の成立
- 第4回 明朝統治の特質
- 第5回 交易の発展と社会変容
- 第6回 商人社会
- 第7回 社会秩序の変容
- 第8回 北辺貿易と清朝の成立
- 第9回 産業の発展
- 第10回 伝統中国の完成
- 第11回 伝統中国社会と環境問題
- 第12回 伝統中国社会と近世日本社会
- 第13回 土地改革と伝統中国社会の解体
- 第14回 改革開放下中国社会の構造
- 第15回 まとめ（総合的考察-伝統中国社会と現代中国社会）

中国社会史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告(60%)・討論(40%)により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

明朝、交易、商人、北辺貿易、清朝、伝統社会、土地改革、改革開放

現代中国政治研究【昼】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国政治およびそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国政治およびそれに関連する事項について先行研究を収集することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 中国政治およびそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国の歴史、政治体制、社会について広く知識を修得し、この地域の諸問題について学術的な観点から議論できるようになることを授業の目的とする。詳細は受講生の研究テーマとの関連で決める。必要に応じて台湾・香港等に関する文献を取り上げることもある。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

中国政治とそれに関連する事項について広く知識を修得し、専門的な見地から議論できる。

《高い問題解決能力と表現力》

中国政治とそれに関連する事項について先行研究を収集できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

中国政治とそれに関連する事項について修得した知識・技能を生かして、広い視野から国際社会について考えることができる。

教科書 /Textbooks

下記を予定しているが、受講生の研究テーマに応じて変更することがある。

菱田雅晴・鈴木隆『超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス』東京大学出版会、2016年

下野寿子『中国外資導入の政治過程 - 対外開放のキーストーン』法律文化社、2008年(○)

山本真『近現代中国における社会と国家 - 福建省での革命、行政の制度化、戦時動員』創文社、2016年

川島真『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』岩波新書、2017年(○)

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

受講生の研究テーマによって別途紹介するが、視点の違いによって下記のような文献がある(一例)。

天児慧『中国の歴史第11巻 巨龍の胎動 - 毛沢東vs.鄧小平』講談社、2004年(○)

加茂具樹他編著『中国改革開放への転換 - 「一九七八年」を越えて』慶應義塾大学出版会、2011年(○)

毛里和子『現代中国政治』名古屋大学出版会、2004年(○)

田原史起『中国農村の権力構造-建国初期のエリートの再編』御茶の水書房、2004年(○)

現代中国政治研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

※受講生の研究テーマに応じて、一部変更することがある。また、各回において、関連する論文を合わせて読み、議論することもある。

- | | | |
|-----|----------------------------------|-----------|
| 1回 | イントロダクション | |
| 2回 | 菱田他『超大国・中国のゆくえ3 共産党とガバナンス』序章・第1章 | |
| 3回 | ” | 第2章 |
| 4回 | ” | 第3章 |
| 5回 | ” | 第4章 |
| 6回 | ” | 第5章 |
| 7回 | ” | 第6章・終章 |
| 8回 | 下野『中国外資導入の政治過程-対外開放のキーストーン』前半 | |
| 9回 | ” | 後半 |
| 10回 | 山本『近現代中国における社会と国家』序章・第1~5章 | |
| 11回 | ” | 第6・7章 |
| 12回 | ” | 第8~11章、終章 |
| 13回 | 川島『中国のフロンティア-揺れ動く境界から考える』前半 | |
| 14回 | ” | 後半 |
| 15回 | まとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・発表50%、課題提出物50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題文献をしっかりと読み込んでレジюмеを作成し、授業に臨むこと。
授業の議論について必ず振り返りを行なうこと。

履修上の注意 /Remarks

現代中国の近現代史・政治・経済・社会などについて基礎的な知識を備えていることが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治研究【昼】

担当者名 李 東俊 / LEE DONGJUN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東アジアの国際政治について、専門的な知見を有している。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジアの国際政治について、社会科学的な調査や分析を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジアの国際政治に関して、修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア国際政治研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、日韓国交正常化交渉を切り口として、脱植民地化と冷戦の論理の相剋によって規定されてきた戦後東アジア地域秩序の構図を、近年公開された新資料を使って理解するうえでいくつかの視座を提供したい。換言すれば、戦後東アジアの国際規範でもあったサンフランシスコ講和条約に示された、いわゆる分離地域に対する法理とその精神が、日韓国交正常化交渉の場ではいかに議論されたのか、また、その帰結はイタリヤ講和条約などの他地域の例とどう異なったのかを比較検証することで、戦後東アジアにおける脱植民地化の論理を探り出したい。新資料とは、近年公開された日韓およびアメリカ政府の外交資料である。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

外交文書に接し、かかる読解力を高める。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく、進んで調べることができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。適宜、各回の授業で指示する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

浅野豊美 編 『戦後日本の賠償問題と東アジア地域再編：請求権と歴史認識問題の起源』（東京：慈学社、2013年）

李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化I：東アジア冷戦編』（東京：法政大学出版局、2011年）

李鍾元・木宮正史・浅野豊美 編 『歴史としての日韓国交正常化II：脱植民地化編』（東京：法政大学出版局、2011年）

その他、授業の進捗度や受講生の関心に応じて適宜紹介する。

東アジア国際政治研究【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロ (授業の趣旨および進め方、資料の紹介、報告順番の決定など)
- 第2回 帝国日本の解体と戦後日韓関係
- 第3回 サンフランシスコ講和条約の適用と日韓関係
- 第4回 2つの講和条約と日韓交渉における植民地主義
- 第5回 日韓会談における被害補償交渉の過程分析
- 第6回 日韓請求権交渉と「米国解釈」
- 第7回 日韓会談の政治決着と米国
- 第8回 韓国の対日導入資金の最大化と最適化
- 第9回 日韓国交正常化交渉における基本関係問題
- 第10回 戦後日本のポツダム宣言解釈と朝鮮の主権
- 第11回 日韓会談と文化財問題
- 第12回 日韓会談と在日朝鮮人
- 第13回 日韓会談と領土問題
- 第14回 未完の日韓会談：残された問題
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか(70%)と期末レポート(30%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して適切に評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を適切に行うこと。

履修上の注意 /Remarks

授業で指示する文献を授業開始前までに熟読したうえで討論に臨むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア国際政治、脱植民地化、冷戦、解放、分離、日韓国交正常化交渉、賠償、請求権、サンフランシスコ講和条約

日本社会史研究【昼】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本の文化が形成される近世社会の歴史に関心を持ち、歴史を社会と生活文化の視点から捉えることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 著書や論文などの文献にとどまらず、実際にくずし字史料を解読して実証的な研究を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 単に一国史の視点にとどまることなく、アジアやヨーロッパと比較する視点を持つことによって世界史の中に位置づけることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

江戸～明治時代の対外関係の背後にある社会経済的背景を当時の史料から理解します。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸～明治時代の史料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし。プリントやコピーを配布します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『日本都市生活史料集成』(学習研究社)
- 『日本庶民生活史料集成』(三一書房)
- 『日本近代思想体系12 対外観』(岩波書店)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 江戸時代の対外関係
- 第3回 明治期の対外関係
- 第4回 江戸時代の史料購読①
- 第5回 江戸時代の史料購読②
- 第6回 江戸時代の史料購読③
- 第7回 江戸時代の史料購読④
- 第8回 江戸時代の史料購読⑤
- 第9回 明治時代の史料購読①
- 第10回 明治時代の史料購読②
- 第11回 明治時代の史料購読③
- 第12回 明治時代の史料購読④
- 第13回 明治時代の史料購読⑤
- 第14回 まとめ
- 第15回 まとめ

日本社会史研究【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業の事前・事後学習が授業にどの程度反映されているか（70%）と期末レポート（30%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布された史料を下読みして意味を調べておくこと。
事後に史料の読み方と意味をデータに入力して添付ファイルで担当教員に送ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代日本政治外交史研究 【昼】

担当者名 /Instructor 小林 道彦 / KOBAYASHI MICHIIHIKO / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 近代日本政治外交史に加え、広く世界に関する知識を修得している。現代世界が抱える問題について、歴史的な見地から議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 研究テーマに関して、先行研究を踏まえ、草書体史料などの一次史料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 近代日本政治外交史に関する知識を国際社会で実践的に生かすことができる。歴史認識の多様性を理解し、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

近代日本政治外交史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代日本政治外交史研究に必須の技術である、草書体（崩し字）の解読技術を習得してもらう。また、関連する研究書を読み進めていく。

教科書 /Textbooks

こちらで準備するが、山県有朋・桂太郎・寺内正毅・児玉源太郎書翰の写真版を用いる。『くずし字解読事典』（東京堂書店）は、各自購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

『演習古文書選・近代編』上巻（吉川弘文館）、『逆引き広辞苑』など。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 オリエンテーション
 第2回～14回は、毎回一通ずつ書翰を読んでいく。
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常的な授業への取り組み...50%、読解能力の確認...50%。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に配布したプリントを読んでくること。講義の内容を踏まえて、読めなかった箇所を復習しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

近代文書

東南アジア近現代史研究 【昼】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代世界とのつながりのなかで、東南アジア近現代史を理解することができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として応用することができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア近現代史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、植民地期の島嶼部東南アジアを中心に、東南アジアの近現代史を扱う。まず、19世紀から20世紀にかけて伝統的な港市国家が近代的な植民地国家に再編された過程をおさえる。そのうえで、その過程で展開した社会変容への対応、自立の模索、人やモノの越境などのテーマを中心的に取り上げ、受講生による報告・討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア近現代史についての基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

東南アジア近現代史に関する資料を収集・分析し、論理的な議論を組み立てて問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア近現代史に関する理解を、現代世界における普遍的な課題への対応策として自律的かつ主体的に応用することができる。

教科書 /Textbooks

弘末雅士『東南アジアの港市世界-地域社会の形成と世界秩序』岩波書店、2004年。
杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房、1996年。
加納啓良ほか編『植民地経済の繁栄と凋落（岩波講座東南アジア史第6巻）』岩波書店、2002年。
池端雪浦ほか編『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開（岩波講座東南アジア史第7巻）』岩波書店、2002年。
後藤乾一ほか編集『国民国家形成の時代（岩波講座東南アジア史第8巻）』、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○東南アジア史学会40周年記念事業委員会編『東南アジア史研究の展開』山川出版社、2009年。
このほかにも授業中に別途指示する。

東南アジア近現代史研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入
- 2回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 3回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(2) 第2章～第4章
- 4回 『東南アジアの港市世界』の輪読、討論(3) 第5章～終章
- 5回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(1) 序章～第1章
- 6回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(2) 第2章、第3章
- 7回 『アジア間貿易の形成と構造』の輪読、討論(3) 第9章、第10章
- 8回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(1) 【開発】
- 9回 『植民地経済の繁栄と凋落』から論文を選び、輪読、討論(2) 【貿易】
- 10回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(1) 【抵抗運動】
- 11回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(2) 【ナショナリズム】
- 12回 『植民地抵抗運動とナショナリズムの展開』から論文を選び、輪読、討論(3) 【革命】
- 13回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論(1) 【脱植民地化】
- 14回 『国民国家形成の時代』から論文を選び、輪読、討論 【国家形成】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 % レポート ... 50%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキストに基づく討論が授業の主な内容となります。テキストを事前に熟読しておくこと。授業の後には、テキストの内容を自分の研究にどのように活かすことができそうか考えてみましょう。

履修上の注意 /Remarks

東南アジアについて基礎的な知識がない受講者は、担当者が学部（国際関係学科）で開講している「東南アジア研究概論」、「東南アジアの社会と歴史」、「東南アジアの政治と外交」などを受講のうえ本科目を受講するか、これらの科目を本科目と並行して受講すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア地域研究I 【昼】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代国際社会における地域研究的アプローチの重要性を認識し、自ら運用できる知見と能力を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観できる能力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 各研究テーマに即して、研究と実践との相関関係を把握する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究 I

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東南アジアを対象としながら、地域研究的なアプローチのあり方を考え、その上で、自己の研究テーマへの方法論的還元を目指す。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

東南アジア地域についての基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

東南アジア研究全般にわたり、広く研究史を概観して問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

東南アジア研究全般にわたり、自律的かつ主体的に広く研究史を概観することができる。

教科書 /Textbooks

適宜指定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：地域研究の起源【起源】
- 第3回：地域研究と社会諸科学との関係【社会諸科学との関係】
- 第4回：地域研究における総合的認識【総合的認識】
- 第5回：地域研究における全体像の把握【全体像の把握】
- 第6回：地域研究における文化主義的認識【文化主義的認識】
- 第7回：東南アジア研究の視点（風土・生態系）【風土・生態系】
- 第8回：東南アジア研究の視点（宗教・世界観）【宗教・世界観】
- 第9回：東南アジア研究の視点（人間関係）【人間関係】
- 第10回：東南アジア研究の視点（歴史）【歴史】
- 第11回：地域研究における総合的認識に関する文献の輪読・議論【総合的認識】
- 第12回：文化相対主義に関する文献の輪読・議論【文化相対主義】
- 第13回：ミャンマー人の世界観に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の世界観】
- 第14回：ミャンマー人の人間関係に関する文献の輪読・議論【ミャンマー人の人間関係】
- 第15回：まとめ

東南アジア地域研究I 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50%
報告内容50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

地域研究

アメリカ社会研究 【昼】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会理解に必要な知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会に関わる現実の諸課題を考察するため、資料を収集し、社会科学の立場から分析する力を修得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会を分析する知識と理解をもとに、主体性をもって社会に働きかけられる力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

アメリカ社会研究

授業の概要 /Course Description

21世紀アメリカ社会の現状を概観した上で、その分析のための政治学的手法について講義する。講義の前半は、1981年のレーガン政権成立から今日のトランプ政権までの政治基調を見た後、そうした保守政治の社会基盤をグローバリゼーション、IT技術の発展、アメリカ社会の人種的・宗教的構成の変化に注目して分析する。それに続いてアメリカ政治の制度的特質について述べ、講義の後半では、そうした保守政治が20世紀前半の自由主義政治と異なっていたことを指摘する。その上で、その変化のダイナミズムを分析する枠組みとして1980年代に歴史的制度論として知られるようになったアメリカ政治発展論の諸議論を紹介する。歴史的な知識を身に付けるとともに、社会変化を分析する技術を取得することがこの講義の目的である。

D Pに基づく三つの到達目標。

《高度な専門的知識・技能》 アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。

《高い問題解決能力と表現力》 自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》 受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

久保文明ほか著『アメリカ政治』(有斐閣アルマ 2017年)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

オリエンテーションで参考文献リストを配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス【研究史整理】【方法論】
- 第2回 現在の保守主義政治【保守主義】
- 第3回 トランプ政権の政治【保守主義】
- 第4回 オバマ政権の政治
- 第5回 合衆国憲法体制の形成【合衆国憲法】
- 第6回 合衆国憲法体制の変容—市民権の発展と福祉国家【市民権】
- 第7回 大統領制・議会・裁判所
- 第8回 政策過程【世論】【利益政治】
- 第9回 歴史的制度論の発展【歴史的制度論】
- 第10回 政党再編をめぐるさまざまな議論【政党再編】
- 第11回 1970年代における政党編成のゆらぎ【政党再編】
- 第12回 アメリカ自由主義の伝統【自由主義】
- 第13回 保守主義者の自由主義政治への挑戦【保守主義】
- 第14回 21世紀における新しい社会的争点の登場【社会的争点】
- 第15回 講義の総括

アメリカ社会研究 【昼】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に教科書の該当箇所を学習しておくこと。事後に授業中の指示に従ってレポート等を作成すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ政治だけでなく歴史とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ 政治

国際経済研究 【昼】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際経済に関する諸問題を理解するために必要な専門知識を習得する。グローバル社会が抱える諸問題を経済学の視点から理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 経済学の分析手法を身につけ、国際経済の現実問題に応用して議論を行うことができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能を生かし、国際的な視野に立って物事を考える。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

大学院レベルの国際経済理論、とくにミクロ経済側面の国際貿易理論を学習する。貿易発生の仕組み、貿易政策の経済効果、海外直接投資の分析を中心に、国際経済の諸問題を経済学の視点から理解できることを目標としている。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

① 国際経済に関する知識を養い、経済分析の手法を身につける。

② 現実の国際経済問題を経済学の視点から説明できる。

③ 国際経済の数理モデルを理解できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

中西訓嗣著『国際経済学・国際貿易編』（ミネルヴァ書房）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

木村福成著『国際経済学入門』（日本評論社）

伊藤元重・大山道広著『国際貿易』（岩波書店）

国際経済研究 【昼】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 比較優位(1)【分業の利益】【貿易均衡】
- 3回 比較優位(2)【生産可能性フロンティア】【貿易利益】
- 4回 比較優位(3)【オファーカーブ】【貿易均衡】
- 5回 貿易自由化と所得分配【要素間所得分配】【産業間所得分配】
- 6回 貿易政策分析(1)【関税】【交易条件】
- 7回 貿易政策分析(2)【輸出補助金】【数量制限】
- 8回 不完全競争と貿易(1)【国内独占】【国際複占】
- 9回 不完全競争と貿易(2)【産業内貿易】【製品差別化】【独占的競争】
- 10回 生産要素の国際移動【海外直接投資】
- 11回 自由貿易と保護貿易【最適関税】【幼稚産業保護】【戦略的貿易政策】
- 12回 貿易交渉とWTO(1)【関税交渉】【貿易救済措置】
- 13回 貿易交渉とWTO(2)【地域貿易協定】【経済統合】
- 14回 経済成長と貿易【成長パターン】【異時点間貿易】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(20%)、レポート(20%)と課題(60%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分などの経済数学の知識が必要。

毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際機構研究 【昼】

担当者名
/Instructor

休講

履修年次
/Year

単位
/Credits

2単位

学期
/Semester

2学期

授業形態
/Class Format

演習

クラス
/Class

対象入学年度
/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際機構の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際機構に関する先行研究を踏まえ、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際機構をめぐる実践的な問題に関心を持ち、適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際機構研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

教科書 /Textbooks

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

成績評価の方法 /Assessment Method

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

社会心理学に関連する研究を進めていくための基礎的な指導を行う。研究テーマを絞り、研究史をまとめる作業を行いつつ、研究方法の予備的検討を行う。

DPに基づく到達目標
 (高度な専門的知識・技能)
 自分自身の研究に関連して、研究法の特徴と先行研究の内容を理解している。
 (高い問題解決能力と表現力)
 自分自身の研究に関連して、独自の論理を展開できる。
 (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
 受け身ではなく主体的に学び、研究を進め、議論に参加する。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 オリエンテーション
- 2～14回目 発表や討論など
- 15回目 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容50%、研究遂行上の積極性50%によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

《高度な専門的知識・技能》
研究に必要な基礎的な方法論を理解する。
《高い問題解決能力と表現力》
批判的思考力とは何かを理解する。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
自身の研究関心や意図を具体的に伝えられるようになる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。個別の研究計画にあわせて授業内で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 各会の授業内容とは別に、毎週の執筆課題を課す。
- 外部講師による特別授業等で、スケジュールが変更する場合がある。

- 第一回：オリエンテーションと研究倫理の確認。
- 第二回：批判的思考の訓練（読み方）
- 第三回：批判的思考の訓練（書き方-その1）
- 第四回：批判的思考の訓練（書き方-その2）
- 第五回：データの収集方法（検索編）
- 第六回：データの収集方法（管理編）
- 第七回：学術論文の構成（基礎編）
- 第八回：学術論文の構成（応用編）
- 第九回：研究計画書の作成（研究課題の設定）
- 第十回：研究計画書の作成（先行研究について）
- 第十一回：研究計画書の作成（方法論-計量調査）
- 第十二回：研究計画書の作成（方法論-フィールドワーク）
- 第十三回：研究計画書の作成（方法論-テキスト分析）
- 第十四回：研究計画の報告（資料作成編）
- 第十五回：研究計画の報告（報告の方法と質疑応答）

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の執筆課題 (75%) ・ 授業への積極的な参加 (25%) によりシラパスの到達目標をどの程度達している を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題については図書館などを利用し、必要な参考文献やデータの検索や収集を積極的に実施すること。授業で検討した内容は、その後必ず自身で振り返り、次の課題に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 演習で指定する課題や講読する文献、検討する資料には外国語 (英語) を含む。
- 2) 演習には個人のラップトップコンピューターを持参することが望ましい。
- 3) 授業では図書館を積極的に利用する予定である。
- 4) 履修者の習熟度に応じ、個別の課題を課すことがある。
- 5) 週末や休暇中に学外研究活動を行うことがある (学会への参加も含む) 。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究のツールとして、PCやタブレット端末を積極的に活用することを心がけて下さい。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題を押さえた上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

実践を社会教育研究など分析枠組みを用いて捉えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

実践事例を自分自身の研究テーマに応用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究調査や先行研究を研究倫理に基づいて取り扱い、研究としてまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

研究倫理教育を実施した後、以下のテーマに関して2～3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)

(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していかうとする実践について理解を深める。

(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。

(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。

(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。

(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。

(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する

授業への取り組み…40%、課題への取り組み…40%、討議…20% によりシラバスの到達目標をどの程度理解しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料等の検討、論点の整理

事後は、講義内容を踏まえて、資料の再検討、論点に関する自己の見解の明確化

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法の習得するために、テーマに関する文献収集とその検討や研究手法に関する指導を行う。

教科書 /Textbooks

なし。
資料は初回の授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究計画の検討1【研究目的・課題をめぐって】
- 3回 研究計画の検討2【研究方法をめぐって】
- 4回 修士論文に関わる文献の購読1【修士論文・課題】
- 5回 修士論文に関わる文献の購読2【修士論文・方法】
- 6回 修士論文に関わる文献の購読3【日本教育制度学会・学会誌掲載論文】
- 7回 修士論文に関わる文献の購読4【日本教育政策学会・学会誌掲載論文】
- 8回 修士論文に関わる文献の購読5【移民政策学会・学会誌掲載論文】
- 9回 修士論文に関わる文献の購読6【日本教育学会・学会誌掲載論文】
- 10回 修士論文に関わる文献の購読7【日本教育社会学会・学会誌掲載論文】
- 11回 研究方法1【フィールドワーク・学校】
- 12回 研究方法2【フィールドワーク・学校外教育】
- 13回 研究計画の検討3【先行研究の検討(研究目的・課題をめぐって)】
- 14回 研究計画の検討4【先行研究の検討(研究方法をめぐって)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度や発表によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料は事前によく読んでおくこと。
発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための基礎力を身につけることを目的とする。
DPに基づく3つの到達目標
《高度な専門的知識・技能》
自分の研究領域に関する文献をレビューすることができる。
《高い問題解決能力と表現力》
自分の研究領域の中から問題の所在を明確化し文章化することができる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
自ら積極的に研究領域の文献を収集・分析することができる。

教科書 /Textbooks

特に使用しない。プリントを配布する予定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの設定と討論①
- 第3回 研究テーマの設定と討論②
- 第4回 研究テーマの設定と討論③
- 第5回 研究テーマの設定と討論④
- 第6回 関連資料の講読と討論①
- 第7回 関連資料の講読と討論②
- 第8回 関連資料の講読と討論③
- 第9回 関連資料の講読と討論④
- 第10回 関連資料の講読と討論⑤
- 第11回 関連資料の講読と討論⑥
- 第12回 関連資料の講読と討論⑦
- 第13回 関連資料の講読と討論⑧
- 第14回 関連資料の講読と討論⑨
- 第15回 関連資料の講読と討論⑩

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論(100%)によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は自分の修士論文に関する資料をレジユメ形式で作成する。
事後学習として、レジユメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジユメを作成し、授業終了後はレジユメ等に目を通しながら理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文を作成していくための基本的知識、論文作成方法、調査方法、研究倫理等を、社会福祉・社会保障分野の論文、文献を素材にして修得する。

教科書 /Textbooks

授業の中で適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 本授業の研究領域についての説明
- 3回 授業参加者の問題意識、研究内容について報告①
- 4回 授業参加者の問題意識、研究内容について報告②
- 5回 研究倫理について
- 6回 文献講読による論文作成方法の修得①
- 7回 文献講読による論文作成方法の修得②
- 8回 文献講読による論文作成方法の修得③
- 9回 文献講読による研究方法の修得①
- 10回 文献講読による研究方法の修得②
- 11回 文献講読による研究方法の修得③
- 12回 研究テーマの設定と討論①
- 13回 研究テーマの設定と討論②
- 14回 研究テーマの設定と討論③
- 15回 研究計画の作成

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業でその都度指定または紹介する論文、文献、研究資料を事前に熟読し、事後は授業の内容をまとめること。

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、二年間の修士課程における《高度な専門的知識・技能》《高い問題解決能力と表現力》《高い倫理観に基づいた自律的行動力》の獲得を到達目標として、その基礎を培うための取り組みを行う。

具体的には、

- ①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得
 - ②研究を進めていく上で求められる研究方法と研究倫理の修得
という課題を中心にして取り組みを進めていきたい。
 - 本年度に関しては、①ボンディングとボンディング障害に対する理解と支援、②親子分離を体験した乳幼児とその保護者との家族の再統合、③発達障害の子どもとインクルーシブ保育、などの問題に視点を当てながら検討していきたい。
- なお、参加者の希望をきいて、それを授業内容に組み込んでいく予定である。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 研究倫理について
- 4回 実践事例の検討 その1
- 5回 実践事例の検討 その2
- 6回 実践事例の検討 その3
- 7回 参加者の研究計画の検討 その1
- 8回 参加者の研究計画の検討 その2
- 9回 参加者の研究計画の検討 その3
- 10回 実践報告の検討 その1
- 11回 実践報告の検討 その2
- 12回 実践報告の検討 その3
- 13回 フィールドワーク その1
- 14回 フィールドワーク その2
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での報告と意見交流を通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文の執筆に向けて、計画的に文献検索と事例・実践の収集に取り組んでいただきたい。

履修上の注意 /Remarks

2年間の研究活動を見通して、問題意識をしっかりとって参加してほしい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究計画、研究方法、研究倫理、事例検討

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 /Class クラス 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

福祉を素材テーマとして扱いながら、社会科学としての研究を行っていく上での基礎的知識の理解、及び基礎的研究能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

授業時に詳しく紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究方法(1) 【問題意識】
- 3回 研究方法(2) 【方法論】
- 4回 研究計画書
- 5回 研究計画書作成(1)
- 6回 研究計画書作成(2)
- 7回 文献検索
- 8回 文献レビュー(1)
- 9回 文献レビュー(2)
- 10回 文献レビュー(3)
- 11回 研究計画書の発表
- 12回 文献レビュー(4)
- 13回 文献レビュー(5)
- 14回 文献レビュー(6)
- 15回 研究発表

成績評価の方法 /Assessment Method

課題の提出・・・50% 研究発表・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
事前課題に必ず取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加を求めます。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これから研究していくための基礎づくりを、一緒に取り組んでいきましょう。また、学外での研究会や学会について紹介をさせていただきますので、こちらも積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

研究方法、社会福祉学

特別研究基礎 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

研究テーマ・研究課題の設定方法、課題に応じた資料の収集方法や、調査方法等の論文作成に必要な知識について学び、課題の明確化と研究への着手を進める。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

自分自身の研究テーマに関連する基礎理論について調べ、整理することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

複数の理論の関連性を理解し、自らの研究の位置付けをとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自らの研究テーマを洗練することができる。

教科書 /Textbooks

授業の中で紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 論文作成にあたって(概要説明)
- 第2回 問題意識の整理
- 第3回 研究方法1(研究の種類)
- 第4回 研究方法2(研究の進め方)
- 第5回 研究計画書の書き方
- 第6～10回 研究計画書の発表(第1回目)
- 第11～14回 研究計画書の修正(第2回目)
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表と授業への積極的関与により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究テーマと研究計画について必ず整理してくる。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

この授業では、自らの研究課題に関連する論文（レポート）の作成に向けて、以下の準備作業を行う。

- (1) 研究テーマ・問い、論証戦略の確定
- (2) 調査方法の検討
- (3) 自らの研究テーマ・問いについての既存の研究の整理
- (4) 調査法の習得

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

自らの研究関心に即してテーマを設定し、その領域に関する概念や理論枠組について理解することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

調査倫理を身につける。受け身の学習ではなく進んで調べたりレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて、適宜、紹介する。

特別研究基礎 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマ・問いの確認
- 第3回 既存の研究の探索
- 第4回 既存の研究の検討
- 第5回 文献リストの作成
- 第6回 基本仮説・作業仮説の検討
- 第7回 論証戦略の検討
- 第8回 調査法の整理
- 第9回 調査法の検討
- 第10回 文献レビュー(テキスト批評) 1
- 第11回 文献レビュー(テキスト批評) 2
- 第12回 文献レビュー(テキスト批評) 3
- 第13回 文献レビュー(テキスト批評) 4
- 第14回 調査の計画
- 第15回 研究報告

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(20%)およびレポート(80%)によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に指定した文献を読んでおくこと。(必要な学習時間の目安は、120分。)
報告者はレジユメを用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
 - 第2回社会調査に必要な研究倫理
 - 第3回周辺領域の文献収集の方法
 - 第4回文献リストの作成
 - 第5回 先行研究に関する批判
 - 第6回先行研究に関する総論
 - 第7回調査計画
 - 第8回調査計画の再検討
 - 第9回仮説作成
 - 第10回 仮説作成の再検討
 - 第11回予備調査
 - 第12回予備調査の再検討
 - 第13回先行研究との関連性
 - 第14回本調査への準備
 - 第15回 まとめ
- 予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。
- ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50%
各自の調査研究 ... 50%
上記の成果によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究基礎 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

自然と人間の関係について各自の研究領域の知識を広げることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自然環境と人々を調査して実態や課題を明らかにすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自主的に研究テーマを設定し、客観的で有意義な考察を導くことができる。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス 研究方法と研究倫理
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 まとめ

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加状況を含めた平常点（40％）と事前調査を含めた発表内容（60％）によりシラバスの到達目標にどの程度到達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標：多くの作品を読破することで、自分の扱う作品やテーマを絞り込み、それらに対する批評方法を意識化できるようになること。

①英米語圏の文学の知識を応用し、論文作成の基本能力を養うこと。

②英米語圏の文学作品や批評理論の資料を分析できる技能を修得すること。

③英米語圏の文学の課題を主体的に分析できる態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 導入。受講生と相談の上、1学期の予定表を作成します。
- 第2回 テーマに沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
- 第3回 前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
- 第4回 前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
- 第5回 前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
- 第6回 前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
- 第7回 前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
- 第8回 前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
- 第9回 前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
- 第10回 前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
- 第11回 前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
- 第12回 前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
- 第13回 前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
- 第14回 前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
- 第15回 総括。修士論文の題目を決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書（80%）と授業への参加度など（20%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置きつつ、修論作成に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎1）
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎2）
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎3）
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎4）
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（基礎5）
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開1）
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開2）
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開3）
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開4）
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（展開5）
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用1）
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用2）
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用3）
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用4）
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導（応用5）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業参加・課題エッセイ

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前 1000～1200字程度のエッセイを用意する。
- 事後 指摘された内容に従い、エッセイを書き直す。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

課題を準備してくること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文学作品の読解、批評論文の読解を通して、アメリカ文学を分析する際の手法を理解し、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味の所在を踏まえたうえで決定するが、本年度はジョン・スタインベックの小説の精読を行う予定である。また、修士論文の執筆に必要な資料の収集、読解、活用に関する指導と、修士論文の構想の作成に関する指導も行なう。

教科書 /Textbooks

受講生の研究の実状を踏まえた上で、和文、英文の各種資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の研究の実状を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性に関する詳細の決定
- 2回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：図書館
- 3回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：ネット活用
- 4回 最初に決めたテーマと関連した資料収集：他大学蔵書
- 5回 最初に決めたテーマと関連した作品の読解
- 6回 最初に決めたテーマと関連した作品の分析
- 7回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の読解
- 8回 最初に決めたテーマと関連した日本語資料の分析
- 9回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の精読
- 10回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の読解
- 11回 最初に決めたテーマと関連した英語資料の分析
- 12回 修論のテーマに関する指導
- 13回 修論の構想に関する指導：章構成について
- 14回 修論の構想に関する指導：各章の内容について
- 15回 レポートの提出・講評

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の学習状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

夏休み中に修士論文の構想を確定し、夏休み明けの最初の授業時に発表する必要がある。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題に取り組むための準備として十分な文献講読を行い、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等の基礎を指導する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

文献講読により専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

文献・資料の収集・調査方法等を適切に行える。

教科書 /Textbooks

未定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 文献講読とディスカッション(1)
- 5回 文献講読とディスカッション(2)
- 6回 文献講読とディスカッション(3)
- 7回 文献講読とディスカッション(4)
- 8回 文献講読とディスカッション(5)
- 9回 文献講読とディスカッション(6)
- 10回 文献講読とディスカッション(7)
- 11回 文献講読とディスカッション(8)
- 12回 文献講読とディスカッション(9)
- 13回 学生による研究報告(1)
- 14回 学生による研究報告(2)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況（50%）、レポート（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の課題を主体的に分析できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、これから大学院での研究活動を始めるにあたって必要な基礎力を身に着けるためのお手伝いをしたいと思います。あくまでも研究の主体は受講生ですから、こちらから何かを教えるというのではなく、主体的に取り組んでこられたことを確認し、発展させるための手助けをしたいと思います。これから2年間しっかりがんばりましょう。

【高度な専門的知識・技能】

英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文作成の基本能力を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し問題を解決できる技能を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英米語圏の言語、文学、文化の課題を自律的かつ主体的に分析することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディスカッションの中で、必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究方針の確認(1)
- 第02回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(1)
- 第03回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(2)
- 第04回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(3)
- 第05回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(4)
- 第06回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(5)
- 第07回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(6)
- 第08回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(7)
- 第09回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(8)
- 第10回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(9)
- 第11回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(10)
- 第12回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(11)
- 第13回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(12)
- 第14回 1週間のリサーチ報告と、それを受けてのディスカッション(13)
- 第15回 学期末小論文の作成準備協議(7)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業での平常点のみでシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学び理解することを目標とする。扱う作品は、漢詩、漢文、近世白話小説、古小説など中国古典文学の範疇に属するものとする。また研究論文を読むこともある。

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者作成の資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 作品や論文の精読(1)
- 第2回 作品や論文の精読(2)
- 第3回 作品や論文の精読(3)
- 第4回 作品や論文の精読(4)
- 第5回 作品や論文の精読(5)
- 第6回 作品や論文の精読(6)
- 第7回 作品や論文の精読(7)
- 第8回 作品や論文の精読(8)
- 第9回 作品や論文の精読(9)
- 第10回 作品や論文の精読(10)
- 第11回 作品や論文の精読(11)
- 第12回 作品や論文の精読(12)
- 第13回 作品や論文の精読(13)
- 第14回 作品や論文の精読(14)
- 第15回 作品や論文の精読(15)

※具体的な内容は、受講者と相談のうえ決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料の作成。
資料の訂正や考え直し。
参考資料などを用いて中国古典文学に関して理解を深める。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国古典文学

特別研究基礎 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる基礎的知識を修得し、論文作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 現代中国語と漢文資料を収集し、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
【高度な専門的知識・技能】
 中国語教育に関する文献を読む・理解することができる。
【高い問題解決能力と表現力】
 文献資料を読む過程において、日本における中国語教育の諸問題から興味のある課題を見出すことができる。
【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
 アンケート調査や実践授業を行うことによって、外国語教育研究における資料収集・データ分析・論文作成することができる。

教科書 /Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

史有为 著 『寻路汉语——语言习得与对外汉语教学研究』 商务印书馆、2013年
 胡玉華 著 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成-「わかる」中国語から「できる」中国語へ』 東方書店、2009年
 竹内理・水本篤 編著 『外国語教育研究ハンドブック(改訂版)』 松柏社、2014
 黄南松・胡文译・何宝璋著 『对外汉语教学语法疑难解析』 北京大学出版社、2015年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス+日本における中国語教育の現状
 第2回～5回 文献講読+資料収集方法
 第6～10回 文献講読+データ分析方法
 第11～14回 文献講読+論文作成方法
 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)と課題の完成度(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

必ず予習すること。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本宗教史の領域の中から重要なテーマに関する代表的研究論文を読み、その内容について報告してもらう。さらに報告内容について議論をする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。

《高い問題解決能力と表現力》

文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

使用しない。授業時にプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 日本宗教史研究の課題(概説)
- 3回 報告と議論1
- 4回 報告と議論2
- 5回 報告と議論3
- 6回 報告と議論4
- 7回 報告と議論5
- 8回 報告と議論6
- 9回 報告と議論7
- 10回 報告と議論8
- 11回 報告と議論9
- 12回 報告と議論10
- 13回 報告と議論11
- 14回 報告と議論12
- 15回 報告と議論13

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容 50% 授業への取り組み 50%によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告にあたっては十分な準備をして臨むこと。全員指定された論文を事前に読んで疑問点等を整理しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析研究できるようにする。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようにする。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、大学院生活の最初の段階として必要な研究への取り組みの基礎固めをおこなう。受講者と相談のうえ、文献収集とその精査を中心におこなっていく。最終的な目標は修士論文のテーマの可能性をできるだけ広い視野のもとで明確にしていくことである。

高度な専門的知識・技能
 大衆文化・メディア文化研究の専門的知識と研究方法を習得する
 高い問題可解決能力と表現力
 論文作成のための資料探索能力、記述能力を習得する
 高い倫理観に基づいた自律的行動力
 自主的に研究テーマの反省的検討をおこない、必要な研究倫理を習得する

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
 第2回～第4回 研究計画の作成と基本文献の収集
 第5回～第7回 基本文献の講読と精査
 第8回～第10回 関連文献の講読と精査
 第11回～第13回 テーマ構想の可能性についての検討
 第14回～第15回 授業の総括と今後の研究計画の構築

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点50% レポート50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習
 事後：テキスト講読の復習

履修上の注意 /Remarks

授業で出された課題について、情報収集を綿密におこなうことが求められる。授業外時間での情報収集能力の向上を意識してほしい。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 1学期
 授業形態 /Class Format: 演習
 クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
 《高い問題解決能力と表現力》
 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

This course will be an introduction to comparative cultural analysis. We will cover different modes of analysis and interpretation for research. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course. The goal is the acquisition of research concepts and fundamentals for later application. Students will be encouraged to focus on their chosen areas of research for presentation and discussion.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

特別研究基礎 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Introduction
- 2回 Research Fundamentals A
- 3回 Research Fundamentals B
- 4回 Research Fundamentals C
- 5回 Introduction of research student research topics and materials.
- 6回 Discussions and Presentations A
- 7回 Discussions and Presentations B
- 8回 Discussions and Presentations C
- 9回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 10回 Student Discussion and Presentation A
- 11回 Student Discussion and Presentation B
- 12回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
- 13回 Student-led Discussion and Presentation A
- 14回 Student-led Discussion and Presentation B
- 15回 Student-led Discussion and Presentation C

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、どのような課題について論文を書くか、また、その受講生のこれまでの学習・研究状況に応じて、必要な講義と文献講読を行う。同時に、言語学の分野における論文執筆作法の基礎を身につける。言語学の下位分野1領域の興味のある課題について、小さな論文をまとめる。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
 その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 言語学の対象と目的【規範文法・記述文法・理論言語学】
- 第3回 音声学【調音音声学・音響音声学・聴音音声学】
- 第4回 音韻論【文節音素・超分節音素・音節構造】
- 第5回 形態論1【屈折形態論・形態音素規則】
- 第6回 形態論2【派生形態論・複合語形成】
- 第7回 統語論1【項構造・句構造】
- 第8回 統語論2【原則と媒介変項の理論】
- 第9回 意味論1【真理条件・含意・前提】
- 第10回 意味論2【照応・作用域】
- 第11回 語用論1【発話行為論】
- 第12回 語用論2【グライス理論・関連性理論・ポライトネス理論】
- 第13回 言語学上の問題の発見と分析方法【仮説演繹体系】
- 第14回 学生による発表
- 第15回まとめ

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への準備状況および参加度...30% 課題...30% レポート...40%

「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）

事後学習：課題の提出

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、言語学の下位分野の中から、興味のある課題を選び、論文を作成する。受講生が選んだテーマに応じて、必要な文献講読を行うとともに、言語学に関する論文作成の基礎を身につける。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門知識・技能》
比較言語研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
- 《高い問題解決能力と表現力》
比較言語研究に関する必要な基礎的研究能力を修得する。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
グローバルな視野で言語の問題を考察できるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
 その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第10回 文献講読
- 第11回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50%）とレポート（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習
 事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

履修上の注意 /Remarks

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較文化研究に関する必要な基礎的専門知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 比較文化研究に必要な基礎的研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ グローバルな視野で文化の問題を考察できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談の上、言語学の下位分野の中から興味のある分野を選び、研究課題に取り組むための準備として十分な文献購読を行う。また、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識、及び文献や資料の収集・調査方法の基礎を身につける。

到達目標は、以下の通りである。

- ・ 高度な専門的知識・技能：興味のある分野における必要な基礎的・理論的知識を習得すること
- ・ 高い問題解決能力と表現力：論文や課題作成に向けて、根拠づけられた主張をまとめてその考えを示すことができること
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：倫理規則を受け入れた上で、何が正しいのかを自ら判断できること

教科書 /Textbooks

授業時に指定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 - 第3回 研究テーマについて
- 第4回 - 第12回 文献購読とディスカッション
- 第13回 - 第14回 学生による研究報告
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の方法により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

授業への参加度：50%
レポート：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習や必要な資料の収集
事後学習：授業で扱った内容の整理、及び関連文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究報告と研究指導を行う。

【高度な専門的知識・技能】

修士論文に関連する分野の研究文献と一次史料を判読できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説としてまとめることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、論文の構成を思考できる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし、研究課題に即して指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論により (100%)、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究報告を準備し、報告後に課題整理を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けて基礎的な指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

研究テーマ以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究テーマに関する文献や一次資料を収集し、整理することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、自他の意見の違いを踏まえて研究を進めることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関心に応じて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究関心の確認、問題設定について
- 3回～14回 指定した文献の輪読・報告・議論。
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・発表50%、課題レポート50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題文献を丁寧に読み込むこと。

疑問点・意見を整理して、授業で議論出来るように準備すること。

履修上の注意 /Remarks

修士論文作成に向けて計画的に履修すること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

中国や新興国経済理解のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能

中国をはじめとする新興国に関する知識、実証研究に必要なスキルを身に着ける。

高い問題解決能力と表現力

先行研究への貢献、実証分析に基づく政策提言を行う力を養う。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

受け身の形ではなく、主体的に先行研究を収集し、自らの問題意識と分析のアイデアを実証的に検証する力を養う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
田中隆一 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 2018年
矢野剛 『中国の企業間信用 経済発展とオルタナティブ金融』2015年
この他講義の際に紹介する。

特別研究基礎 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。

事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

履修上の注意 /Remarks

（主にミクロ）経済学、統計学及び計量経済学等の学部レベルの知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

先行研究の探し方、先行研究のまとめ方、史料の探し方についての基礎作業を行う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代社会が抱える諸問題について議論を行うことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

現代社会が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

教科書 /Textbooks

初回に指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

別途目録を配布する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第5回 先行研究の探し方

第6回～第10回 先行研究のまとめ方

第10回～第15回 史料の探し方

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(4000字)(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に先行研究の論文・著書を読んで来ること。事後に史料をワープロに入力しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理と、「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

修士論文に関連した事象について専門的な知識を備えるとともに、それに関する先行研究を体系的に整理できる。

《高い問題解決能力と表現力》

必要な資料を収集・分析する力を備えるとともに、分析結果を論理的に正確に伝える表現力を備えている。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自ら主体的に学術上の問題を設定し、それを解明することができる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
2回～14回 修士論文の経過報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

論文執筆が順調に進むよう、計画的に作業を進めていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

各自が研究対象とする地域と課題を設定し、基本的な文献を収集・読破する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。

【高い問題解決能力と表現力】

研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究する上での基本的姿勢（講義）
- 第3回：課題設定における諸注意（講義）
- 第4回～第14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容50%
レポート50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

特別研究基礎 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

受講生の必要に応じて開講する。

戦後東南アジアの国際関係、政治や社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生による報告と議論を行う。それを通して、【大学院生として身につけておくべき基礎的・初歩的知識の獲得】を目指す。
同時に、修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法（文献検索や参考文献の提示の仕方などの細かい点も含めて）を教示し、論文もしくは課題研究を完成させることを目指す。
また何度か短い課題レポートを科し、添削をして返却する。

DPに基づく3つの到達目標

- 【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の史資料を読むことができる。
- 【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく、進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、以下を考えている。

- (1) 清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年。
- (2) 岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。
- (3) Amitav Acharya, Constructing a Security Community in Southeast Asia, Routledge, 2001.
- (4) 服部民夫・船津鶴代・鳥居高編『アジア中間層の生成と特質』アジア経済研究所、2002年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 村田翼夫編『東南アジア諸国の国民統合と教育』東信堂、2001年。
- 大阪市立大学経済研究所監修『アジアの大都市シリーズ』日本評論社、1998年～2000年。
バンコク編、ジャカルタ編、クアラルンプール・シンガポール編、マニラ編の4冊がある。
- Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

その他、受講生の問題関心に依じて、適宜指示する。本学図書館の「東南アジアを知るコーナー」の図書も参考にしたい。

特別研究基礎 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～4回 『東南アジア現代政治入門』を3回に分けて輪読、議論する
- 第5～7回 『アジア政治とは何か』を3回に分けて輪読、議論する
- 第8～10回 Constructing a Security Community in Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
- 第11～13回 『アジア中間層の生成と特質』を3回に分けて輪読、議論する
- 第14回 これまでの議論を踏まえて各人の課題レポートを決め、その内容を報告する
- 第15回 まとめの議論

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%
- これらにより、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価をする。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前に指定した文献を読むこと。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

- 東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究基礎 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

近現代アメリカ合衆国を中心とした社会の諸問題について各自が報告を行い、その報告や質疑応答を通してアメリカ史に関する高度な専門的知識を修得する。また報告準備をする中で、自分の意見を的確に表現する力を養いつつ、剽窃等に注意を払い、自律的に論文を書く方法を学ぶ。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方などについての話し合い
- 2回 論文の書き方、資料収集方法などについての確認
- 3回 受講者による発表・討議
- 4回 文献講読と解説
- 5回 文献講読と解説
- 6回 受講者による発表・討議
- 7回 文献講読と解説
- 8回 文献講読と解説
- 9回 受講者による発表・討議
- 10回 文献講読と解説
- 11回 文献講読と解説
- 12回 受講者による発表・討議
- 13回 文献講読と解説
- 14回 文献講読と解説
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (30%)、発表 (70%) により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けて資料収集を行い、参考文献を読む。事後は指摘されたことやさらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意 /Remarks

発表者は必ず、レジュメを作って発表にのぞむこと。

特別研究基礎 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。
《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス
第2回 文献紹介
第3回 文献の背景説明
第4-8回 一冊目の輪読
第9回 文献の背景説明
第10-14回 二冊目の輪読
第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会概論とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究基礎 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆に向けて、準備作業を行う。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた先行研究と一次資料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分で研究テーマを設定し、解明するとともに、その内容を口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めるとともに、自身の研究を研究史に適切に位置づけることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論執筆に向けた基礎的な指導(1)
- 3回 修論執筆に向けた基礎的な指導(2)
- 4回 修論執筆に向けた基礎的な指導(3)
- 5回 修論執筆に向けた基礎的な指導(4)
- 6回 修論執筆に向けた基礎的な指導(5)
- 7回 修論執筆に向けた基礎的な指導(6)
- 8回 修論執筆に向けた基礎的な指導(7)
- 9回 修論執筆に向けた基礎的な指導(8)
- 10回 修論執筆に向けた基礎的な指導(9)
- 11回 修論執筆に向けた基礎的な指導(10)
- 12回 修論執筆に向けた基礎的な指導(11)
- 13回 修論執筆に向けた基礎的な指導(12)
- 14回 修論執筆に向けた基礎的な指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究基礎 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に授業準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究基礎 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究基礎

授業の概要 /Course Description

不完全競争市場下の貿易政策の経済分析を学習する。部分均衡分析の手法を用いて、国際貿易政策の分析に応用できることを期待している。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

- ① 不完全競争の市場構造を理解できる。
- ② 貿易政策の経済分析の基本ツールを身につける。
- ③ 現実の貿易政策を調査し、経済学の視点から分析できる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

Helpman E. and P.R. Krugman 『Trade Policy and Market Structure』(MIT Press)
和訳：大山道広訳 『現代の貿易政策』(東洋経済新報社)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

伊藤元重・清野一治他著 『産業政策の経済分析』(東京大学出版社)
柳川範之著 『戦略的貿易政策』(有斐閣)

特別研究基礎 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 貿易政策と市場支配力【戦略的效果】【生産効率】
- 3回 完全競争下の貿易政策I【関税】【輸入割当】【輸出補助金】
- 4回 完全競争下の貿易政策II【最適関税理論】
- 5回 保護と国内市場支配力I【国内独占】【関税】【輸入割当】
- 6回 保護と国内市場支配力II【国内寡占】
- 7回 外国企業による市場支配I【外国独占】【関税】【数量制限】
- 8回 外国企業による市場支配II【クールノー型寡占】【ベルトラン型寡占】
- 9回 外国企業による市場支配III【寡占のもとでの割当】
- 10回 戦略的輸出政策I【戦略的輸出補助金政策】【レントシフト】
- 11回 戦略的輸出政策II【価格競争】【規模の経済】
- 12回 戦略的輸入政策I【関税】【輸入割当】
- 13回 貿易政策調査発表I
- 14回 貿易政策調査発表II
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (30%) と課題提出 (数回) (70%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

ミクロ経済学、学部レベルの国際経済論の知識を事前に習得すること。図解と数式を用いて解説を進めるので、微分など経済数学の知識が必要。
毎回授業後の復習も必須。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際貿易、直接投資、経済統合

特別研究基礎 【夜】

担当者名 大平 剛 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 専攻領域以外にも広く関心を持ち、現代世界が抱える諸問題について議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する基礎的な文献や一次資料を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究基礎

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この演習では、修士課程の1年生が修士論文を作成する上で必要となるスキルを身に付けることを目指します。論文とはいかなるものであるかをまずは学び、論文作成上のアカデミック・ルールを身に付けます。次いで、実際に学術論文をもとに、論文の内容把握とともに、論理展開の方法について学習します。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：アカデミック・スキルについて正しく理解することができる。

高い問題解決能力と表現力：高度な学術論文を読んで内容を理解し、その内容を簡潔にまとめて表現できる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：アカデミック・スキルの中でも、剽窃行為を回避する方法を修得することを目指し、高い倫理観をもって学術論文が執筆できる力を養います。

教科書 /Textbooks

川崎剛『社会科学系のための「優秀論文」作成術』勁草書房、2010年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特になし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半部分は上記テキストを用い、後半部分では学術論文のコピーを教材として使用します。

- 第1回 イントロダクション
- 第2回 テキスト第1章、第2章
- 第3回 テキスト第3章、第5章
- 第4回 テキスト第7章
- 第5回 論文執筆のアカデミック・ルール
- 第6回 学術論文の解剖①(1)(日本語論文)(内容把握)
- 第7回 学術論文の解剖①(2)(日本語論文)(論理展開の分析)
- 第8回 学術論文の解剖②(1)(日本語論文)(内容把握)
- 第9回 学術論文の解剖②(2)(日本語論文)(論理展開の分析)
- 第10回 学術論文の解剖③(1)(日本語論文)(内容把握)
- 第11回 学術論文の解剖③(2)(日本語論文)(論理展開の分析)
- 第12回 学術論文の解剖④(1)(英語論文)(内容把握)
- 第13回 学術論文の解剖④(2)(英語論文)(論理展開の分析)
- 第14回 学術論文の解剖⑤(1)(英語論文)(内容把握)
- 第15回 学術論文の解剖⑤(2)(英語論文)(論理展開の分析)

特別研究基礎 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・・・70% 日常の授業への取り組み・・・30%により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行います。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、配布された資料に目を通してから授業に臨んでください。事後学習としては、学んだ内容を実際の論文等で確認する作業をしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉獵とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

DPに基づく到達目標

- (高度な専門的知識・技能)
自分自身の研究に関連して、研究方法の特徴と先行研究の内容を理解している。
- (高い問題解決能力と表現力)
自分自身の研究に関連して、独自の論理を展開できる。
- (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
受け身ではなく主体的に学び、研究を進め、議論に参加する。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 % によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

《高度な専門的知識・技能》
論文執筆のための研究計画を構想できる。
《高い問題解決能力と表現力》
研究のための適切な方法論を知ることができる。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
自主的なりサーチにより研究に必要な資料やデータを取得できる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。個別の研究計画にあわせて授業内で紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- ・ 各会の授業内容とは別に、毎週の執筆課題を課す。
- ・ 外部講師による特別授業等で、スケジュールが変更する場合がある。

第一回：オリエンテーションと研究倫理の確認。
第二回：研究計画書の検討（研究課題の最終検討）
第三回：研究計画書の検討（先行研究とその整理）
第四回：研究計画書の検討（調査計画の完成）
第五回：予備調査結果の検討（資料編）
第六回：予備調査結果の検討（先行研究編-その1）
第七回：予備調査結果の検討（先行研究編-その2）
第八回：予備調査結果の検討（調査方法論と分析手法-その2）
第九回：予備調査結果の検討（調査方法論と分析手法-その2）
第十回：研究計画書の完成（その1）
第十一回：研究計画書の完成（その2）
第十二回：研究発表の方法（報告編-その1）
第十三回：研究発表の方法（投稿編-その1）
第十四回：研究発表の方法（投稿編-その2）
第十五回：次年度の研究にむけた計画の策定

成績評価の方法 /Assessment Method

毎週の執筆課題（75%）と授業への積極的な参加（25%）によりシラパスの到達目標をどの程度達しているを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

課題については図書館などを利用し、必要な参考文献やデータの検索や収集を積極的に実施すること。授業で検討した内容は、その後必ず自身で振り返り、次の課題に活用すること。

履修上の注意 /Remarks

- 1) 演習で指定する課題や講読する文献、検討する資料には外国語（英語）を含む。
- 2) 演習には個人のラップトップコンピューターを持参することが望ましい。
- 3) 演習では図書館を積極的に利用する予定である。
- 4) 履修者の習熟度に応じ、個別の課題を課すことがある。
- 5) 週末や休暇中に学外研究活動を行うことがある（学会への参加や研究報告を含む）。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

研究のツールとして、PCやタブレット端末を積極的に活用することを心がけて下さい。

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人間が、歴史的社会的文脈の中に自己の存在を位置づけていく自己実現と相互承認の編成過程を分析することを課題としている。そのために、(1) グローバルな視点や歴史的な視点で課題をpushした上で、(2) 地域レベルでの行動の課題を、文化・教育・福祉・環境など幅広い分野における学習の契機や条件として把握し、検討する。(3) これらを踏まえて、現代社会における、人間そのものや、人間関係について、その到達点と可能性を明らかにしていく。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

実践を社会教育研究など分析枠組みを用いて捉えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

実践事例を自分自身の研究テーマに応用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究調査や先行研究を研究倫理に基づいて取り扱い、研究としてまとめることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 雑誌『月刊 社会教育』旬報社
- 雑誌『公民館』全国公民館連合会
- 雑誌『社会教育』日本青年館

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

文献購読や、生涯教育・社会教育の基礎理論をテーマとした演習を行う。

研究倫理教育を実施した後、以下のテーマに関して2~3回で進めていく。(1: ガイダンス、2: 動向検討、3: 論点整理)

(1) 「自分づくりの危機」の時代といわれる今日的課題について教育学的検討を行い、そのメカニズムを解明し、克服していこうとする実践について理解を深める。

(2) 子どもから成人にわたる教育の論理(学習過程の独自性)について検討を行う。

(3) 生活課題や地域課題について理解を深め、地域づくりの課題と可能性を解明する。

(4) 地域における教育の構造や、その連関について理解を深める。

(5) NPOやNGOについての理解を深め、社会参画やボランティア活動について検討を行う。

(6) 生涯学習社会における学校教育・家庭教育・社会教育について理解を深め、生涯学習関連の諸活動・制度と、その連携・ネットワークについて検討する。

特別研究 1 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及び発表内容等を総合して評価する

授業への取り組み…40%、課題への取り組み…40%、討議…20% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料等の検討、論点の整理、論文等の収集

事後は、講義内容を踏まえて、既存研究の再検討、多角的な視点からの検討

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

概要

特別研究基礎の成果及び出てきた課題をふまえ、研究論文の作成に向け、必要な基礎的・理論的知識及び研究法を習得する。

目標

- ① 研究に必要な知識を習得する。
- ② より効果的な研究法を選択、吟味し、実践する。

教科書 /Textbooks

なし。
資料は初回の授業で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 文献の検討 1【研究論文・課題】
- 3回 文献の検討 2【研究論文・方法】
- 4回 文献の検討 3【日本子ども社会学会・学会誌掲載論文】
- 5回 文献の検討 4【日本教育学会・学会誌掲載論文】
- 6回 文献の講読 5【日本比較教育学会・学会誌掲載論文】
- 7回 文献の講読 6【異文化間教育学会・学会誌掲載論文】
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究方法 1【フィールドワーク・学校】
- 10回 研究方法 2【フィールドワーク・学校外教育】
- 11回 研究方法 3【面接・質問事項の精査】
- 12回 研究方法 4【面接・聞き取りの手法】
- 13回 研究計画の検討 1【先行研究の検討(研究目的・課題)】
- 14回 研究計画の検討 2【先行研究の検討(研究方法)】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度 ...50%
発表報告...50%

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布資料は事前によく読んでおくこと。
発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジюме等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

《高度な専門的知識・技能》

自分の研究領域に関する文献をレビューすることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分の研究領域の中から問題の所在を明確化し文章化することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自ら積極的に研究領域の文献を収集・分析することができる。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読と討論①
- 第3回 文献講読と討論②
- 第4回 文献講読と討論③
- 第5回 文献講読と討論④
- 第6回 文献講読と討論⑤
- 第7回 文献講読と討論⑥
- 第8回 文献講読と討論⑦
- 第9回 文献講読と討論⑧
- 第10回 文献講読と討論⑨
- 第11回 研究デザインと討論①
- 第12回 研究デザインと討論②
- 第13回 研究デザインと討論③
- 第14回 研究デザインと討論④
- 第15回 研究デザインと討論⑤

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論 (100%) によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は自分の修士論文に関する資料をレジユメ形式で作成する。
事後学習として、レジユメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジユメを作成し、授業終了後はレジユメ等に目を通しながら理解を深めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究対象とすべき課題を吟味する。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第 1～5回 社会福祉研究の動向に関する討論
第 6～10回 研究方法に関する検討
第11、12回 研究課題に関する報告と討論
第13、15回 研究論文の意味と位置

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告を総合して判断するが、特に自らの考えが明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては研究方法に関する文献を読むこと。事後学習としては各回の授業内容について不明な点を整理・調査し、次の授業につなげること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、二年間の修士課程における《高度な専門的知識・技能》《高い問題解決能力と表現力》《高い倫理観に基づいた自律的行動力》の獲得を到達目標として、その基礎を培うための取り組みを行う。

修士課程の一年目の二学期に開講されるこの授業では、①参加者の修士課程での研究テーマの基礎となる知見の修得、②研究を進めていく上で求められる研究方法と研究倫理の修得、③修士論文に関わる実践事例や実践報告の検討、の三点の課題を中心にして取り組みを進めていく。

また、修士論文の執筆に向けて、論文の全体構想を明確していく。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 参加者の問題意識の交流
- 3回 参加者の研究計画の検討その1
- 4回 参加者の研究計画の検討その2
- 5回 参加者の研究計画の検討その3
- 6回 実践報告の検討 その1 乳児院
- 7回 実践報告の検討 その2 助産院での取り組み
- 8回 実践報告の検討 その3 t@h s@4 - e h
- 9回 参加者の研究計画の再検討 その1
- 10回 参加者の研究計画の再検討 その2
- 11回 参加者の研究計画の再検討 その3
- 12回 修士論文構想の検討 その1
- 13回 修士論文構想の検討 その2
- 14回 修士論文構想の検討 その3
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加者の報告と意見交流、修士論文構想の検討を通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

翌年度の修士論文の執筆に向けて、計画的な文献収集と購読、実践事例や事例の収集の努めること。

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

研究活動の基礎、論文構想、研究方法、事例・実践報告の検討

特別研究 1 【夜】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

福祉を素材テーマとして扱いながら、社会科学としての研究を行っていく上での基礎的知識の理解、及び基礎的研究能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

授業時に詳しく紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 文献レビュー(1)
- 3回 文献レビュー(2)
- 4回 文献レビュー(3)
- 5回 研究発表(1)
- 6回 研究発表(2)
- 7回 文献レビュー(4)
- 8回 文献レビュー(5)
- 9回 文献レビュー(6)
- 10回 研究発表(3)
- 11回 研究発表(4)
- 12回 文献レビュー(7)
- 13回 文献レビュー(8)
- 14回 研究発表(5)
- 15回 研究発表(6)

成績評価の方法 /Assessment Method

文献レビュー発表・・・50% 研究発表・・・50%
(注)上記の発表の違いについては、ガイダンス時に説明をさせていただきます。
上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。
事前課題に必ず取り組むこと。

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加を求めます。

また、次年度の6月頃に開催される日本社会福祉学会九州部会研究大会での研究発表を目指して、研究を進めていただきます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

学会における研究発表を目指して、一緒に研究を進めていきましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉学

特別研究 1 【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題の整理と、研究方法の精緻化を進める。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

自分自身の研究テーマに関連する応用理論について調べ、整理することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自らの研究の問題点や課題を見出すことができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究による知見を実践に活かす準備ができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 特別研究の進め方(概要説明)

第2～6回 研究計画の修正と進捗報告

第7～14回 関連文献・関連論文の報告

第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価をおこなう。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

必ず報告の準備をしてくること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者の問題関心にそった論文（レポート）の作成をめざす。

そのため、以下のことを行う。

- (1) 自らの研究関心に関連する文献のレビュー（テキスト批評）
- (2) 調査法の習得
- (3) 論文（レポート）の執筆

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門知識・技能 >

自らの研究関心に即してテーマを設定し、その領域に関する概念や理論枠組について理解することができる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

調査倫理を身につける。受け身の学習ではなく進んで調べたりレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 問いと論証戦略の確認
- 第 3 回 既存の研究の整理 (文献リストの作成)
- 第 4 回 文献のレビュー (テキスト批評) 1
- 第 5 回 文献のレビュー (テキスト批評) 2
- 第 6 回 調査法の検討
- 第 7 回 文献のレビュー (テキスト批評) 3
- 第 8 回 文献のレビュー (テキスト批評) 4
- 第 9 回 文献のレビュー (テキスト批評) 5
- 第 10 回 研究報告 1
- 第 11 回 文献のレビュー (テキスト批評) 6
- 第 12 回 文献のレビュー (テキスト批評) 7
- 第 13 回 文献のレビュー (テキスト批評) 8
- 第 14 回 文献のレビュー (テキスト批評) 9
- 第 15 回 研究報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (20%) およびレポート (80%) によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定した文献・論文を読んでくること。(必要な学習時間の目安は、120分)
報告者はレジユメを作成すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 1年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

フィールドワークを主体とした「人類学」研究の場である。ゼミ生はそれぞれ自分の研究テーマと調査地をもつ。研究テーマは、人と文化に関するあらゆる分野(もちろん社会・環境・福祉・教育・心理・言語・宗教・芸術などすべてここに含まれる)のなかから自分のもつとも関心のあるものを選ぶ。調査の基本は異文化における世界認識を自分の身体経験を通して客体化するフィールドワークの手法である。ゼミでは自分の必要に応じて調査の内容あるいは文献の紹介をおこない、それをもとに参加者全員でディスカッションをする。つかいふるされたテキストではなくフィールドの体験から一次データを収集しそれを分析していく過程をへて、われわれが最終的に目指すものは、既存の価値観をくつがえす新しいパラダイムを発見することである。もしかしたらそれはあなたの生き方まで変えてしまうかもしれない。人間について知りたい、未知の世界を発見したいという意欲があり、自分自身でそれを遂行できる人のみ受け入れる。

研究のスタイルを確立し論文の作成に向けての基礎

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに応じて随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回オリエンテーション：研究計画
- 第2回本調査データの検討
- 第3回周辺領域の文献
- 第4回文献リストの作成
- 第5回 先行研究に関する批判
- 第6回先行研究に関する総論
- 第7回補足調査計画
- 第8回補足調査計画の再検討
- 第9回中間発表準備および章立ての作成
- 第10回 章立ての再検討
- 第11回論文指導
- 第12回論文指導
- 第13回論文指導
- 第14回論文指導
- 第15回 まとめ

予備調査をかねて広くさまざまな地域をまわり、調査地との関係をつくる。そこでえられたデータをもとに講義をとおして議論をおこない論文の構成をととのえていく。

ゼミこそが本来の大学らしい教育と研究の場所であり、ものごとを議論し探求する楽しさを学んでほしいと考えている。

特別研究 1 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ゼミでのディベートとディスカッション ... 50 %
各自の調査研究 ... 50 %
上記の成果によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備をすること。議論の結果を論文にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

本を読むこと。議論をすること。野に出ること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

ゼミとは講義を受ける場所ではなくて、ひとつの問題についてできるだけ多くの意見を交換し互いに考察を深める場である。したがって、毎回のゼミで発表者に対してなんらかのコメントをつけることは、最低限の礼儀と考えてほしい。

キーワード /Keywords

人類学
フィールドワーク

特別研究 1 【夜】

担当者名 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係に係わる諸課題について調査できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定めることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

環境社会学に関する研究のために、調査方法、論文作成方法を理解し、自主的に研究をすすめることができるようにする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

自然と人間の関係について各自の研究領域の知識を広げることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自然環境と人々を調査して実態や課題を明らかにすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自主的に研究テーマを設定し、客観的で有意義な考察を導くことができる。

教科書 /Textbooks

とくに使用しないが、必要に応じて論文やプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心テーマに合わせて紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究の分担発表、討論
- 3回 研究の分担発表、討論
- 4回 研究の分担発表、討論
- 5回 研究の分担発表、討論
- 6回 論文講読の分担発表、討論
- 7回 論文講読の分担発表、討論
- 8回 論文講読の分担発表、討論
- 9回 論文講読の分担発表、討論
- 10回 研究の分担発表、討論
- 11回 研究の分担発表、討論
- 12回 研究の分担発表、討論
- 13回 研究の分担発表、討論
- 14回 研究の分担発表、討論
- 15回 修士論文発表会への参加

特別研究 1 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加状況を含めた平常点（40％）と事前調査を含めた発表内容（60％）によりシラバスの到達目標にどの程度到達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

分担発表に関連する文献調査や現地調査を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に、発表までの作業計画をたてて準備し、発表資料を作成すること。
各自の研究テーマの関連文献を自主的に読み進めること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

During the second course of the first year of graduate study, we will focus on your own research interests. This class will be devoted to helping you explore your own research interests and in learning to become more proficient in reading academic articles and critically assessing them. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: Research schedules
- Week 3: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 4: Student-led research presentation
- Week 5: Student-led research presentation
- Week 6: Thesis-writing help
- Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 8: Student-led research presentation
- Week 9: Student-led research presentation
- Week 10: Thesis-writing help
- Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 12: Student-led research presentation
- Week 13: Student-led research presentation
- Week 14: Thesis-writing help
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

A 3000-word paper (50%); Presentations (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will learn more about teaching and second language acquisition after this course.

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために必要な基礎的知識を体得すると同時に、研究のための理論を習得します（例えばエコクリティシズム、フェミニスト批評、ポストコロニアル批評等々）。

修士論文で扱う作家、作品、関心のあるテーマなどを絞り込むことで、2年次からの論文作成の実践に備えます。

様々な資料を通じて理論を学びつつ、関心のある作家、作品、関心のあるテーマを深めるための資料なども読破していきます。

★到達目標： 多くの作品の中から自分の扱う作品やテーマを決定し、それらに対して批評方法を実践し、方向性を見出せるようになること。

- ①英米語圏の文学の知識を応用し、論文完成の基本能力を養うこと。
- ②英米語圏の文学や批評理論の資料を分析し、研究に応用できるようになること。
- ③英米語圏の文学に関する課題を主体的に考える態度を養うこと。

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	導入。担当学生と相談の上、2学期の予定表を作成します。
第2回	1学期に決定した修士論文の題目に沿って課題1の発表。コメント。課題2の確認。
第3回	前回のコメントを踏まえた調整。課題2の発表。コメント。課題3の確認。
第4回	前回のコメントを踏まえた調整。課題3の発表。コメント。課題4の確認。
第5回	前回のコメントを踏まえた調整。課題4の発表。コメント。課題5の確認。
第6回	前回のコメントを踏まえた調整。課題5の発表。コメント。課題6の確認。
第7回	前回のコメントを踏まえた調整。課題6の発表。コメント。課題7の確認。
第8回	前回のコメントを踏まえた調整。課題7の発表。コメント。課題8の確認。
第9回	前回のコメントを踏まえた調整。課題8の発表。コメント。課題9の確認。
第10回	前回のコメントを踏まえた調整。課題9の発表。コメント。課題10の確認。
第11回	前回のコメントを踏まえた調整。課題10の発表。コメント。課題11の確認。
第12回	前回のコメントを踏まえた調整。課題11の発表。コメント。課題12の確認。
第13回	前回のコメントを踏まえた調整。課題12の発表。コメント。課題13の確認。
第14回	前回のコメントを踏まえた調整。課題13の発表。コメント。
第15回	総括。修士論文のおおよその流れの決定。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書(80%)と授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置き、修論作成に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に活用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

毎回、各自の研究内容に沿い、1000～1200字程度のエッセイ課題を出す。課題は授業の1日前にemailによって提出してもらう。提出されたエッセイの内容をもとにしてチュータリング方式で指導する。

教科書 /Textbooks

テキスト、参考文献は、研究内容の展開に応じて指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第2回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第3回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第4回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第5回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第6回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第7回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第8回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第9回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第10回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第11回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第12回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第13回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第14回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導
- 第15回 エッセイ内容についてのディスカッションと指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート、平素

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 【事前】1000～1200字程度のエッセイ
- 【事後】指摘された内容に従ってエッセイの書き直し

履修上の注意 /Remarks

毎回、1000～1200字のエッセイ課題を用意してくること。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

前期に引き続き、アメリカ文学、特に小説を分析する際の研究方法に関する理解を深め、身に付けることを目的とする。授業の詳細に関しては、出席者の研究テーマと興味のある箇所を踏まえたうえで決定し、可能な限り、修士論文の作成につながる形での授業を行いたい。本年度はスタインベックの小説と批評論文の精読を行う予定である。前期に引き続き、修士論文執筆に必要な資料の読解と、収集に関する指導を継続する。後期は、夏休み明けに提出してもらう修士論文の構想を入念に検討し、その構想を確定する作業も行いたい。

教科書 /Textbooks

受講生の研究の実情を踏まえた上で、和文、英文の各種資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

初回の授業時に、受講生の研究の実情を踏まえた上で指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション、授業のテーマと方向性の決定
- 2回 夏季休業中の研究に関する報告
- 3回 夏季休業中の研究に関する指導
- 4回 修士論文のテーマに関する指導
- 5回 修士論文の構想に関する指導
- 6回 修士論文執筆に必要な資料の収集
- 7回 修士論文執筆に必要な資料の読解
- 8回 修士論文執筆に必要な資料の分析
- 9回 修士論文で取り上げる作品の精読：ストーリー展開
- 10回 修士論文で取り上げる作品の精読：人物描写
- 11回 修士論文で取り上げる作品の精読：伝記との関連性
- 12回 修士論文で取り上げる作品の精読：社会背景との関連性
- 13回 修士論文の構想の確定
- 14回 全体のまとめ
- 15回 次年度の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート50% 平素の研究状況50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所を事前に読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

研究課題を具体化する能力の養成を目的に、修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識及び文献・資料の収集・調査方法等を指導する。社会言語学的手法を用いて、人間の言語行動と彼らの属する社会との係わりを探究する課題の研究指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

文献講読により専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

修士論文（又は特定課題研究）の作成において必要な基礎的・理論的知識を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

文献・資料の収集・調査方法等を適切に行える。

教科書 /Textbooks

未定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 研究テーマについて(1)
- 3回 研究テーマについて(2)
- 4回 方法論について検討(1)
- 5回 方法論について検討(2)
- 6回 方法論について検討(3)
- 7回 方法論について検討(4)
- 8回 方法論について検討(5)
- 9回 課題研究(1)
- 10回 課題研究(2)
- 11回 課題研究(3)
- 12回 課題研究(4)
- 13回 課題研究(5)
- 14回 学生による研究報告
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況（50％）、レポート（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化の知識を応用し、論文完成の基本能力を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化の資料を分析し、研究に応用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に考える態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「特別研究」は、大学院での学びの中核となる修士論文作成を視野に、そのためのsupervisionを行っていくために設定されたものです。本学期から本格的な研究活動が始まります。来年度の修士論文を視野に準備を進めていきましょう。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しません。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ディスカッションの中で、必要に応じて指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 研究状況・課題の確認
- 第02回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(1)
- 第03回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(2)
- 第04回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(3)
- 第05回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(4)
- 第06回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(5)
- 第07回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(6)
- 第08回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(7)
- 第09回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(8)
- 第10回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(9)
- 第11回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(10)
- 第12回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(11)
- 第13回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(12)
- 第14回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(13)
- 第15回 学生によるプレゼンテーションに基づく協議と指導(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

通常授業の平常点のみによって評価します。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

特別研究ですから、1週間ごとの進捗状況を授業時に報告していただきます。それをもとに協議し、そこで課題を確認し、次の授業までの間にリサーチしていただき、それをさらに次回の授業で報告してもらう、という形態で行なっていきますので、事前、事後ともにしっかりと研究活動を続けていって下さい。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

作品の読解力の養成および作品の読み方、資料の調べ方、研究論文の探し方など中国古典文学を研究するために必要なことを学び理解することを目標とする。扱う作品は、漢詩、漢文、近世白話小説、古小説など中国古典文学の範疇に属するものとする。また研究論文を読むこともある。

教科書 /Textbooks

プリント配布、またはなし。
受講者作成の資料。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ここには記さないが、授業中に適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 作品や論文の精読(1)
- 第2回 作品や論文の精読(2)
- 第3回 作品や論文の精読(3)
- 第4回 作品や論文の精読(4)
- 第5回 作品や論文の精読(5)
- 第6回 作品や論文の精読(6)
- 第7回 作品や論文の精読(7)
- 第8回 作品や論文の精読(8)
- 第9回 作品や論文の精読(9)
- 第10回 作品や論文の精読(10)
- 第11回 作品や論文の精読(11)
- 第12回 作品や論文の精読(12)
- 第13回 作品や論文の精読(13)
- 第14回 作品や論文の精読(14)
- 第15回 作品や論文の精読(15)

※具体的な内容は、受講者と相談のうえ決める。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み (50%) + レポート (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料の作成。
資料の訂正や考え直し。
参考資料などを用いて中国古典文学に関して理解を深める。

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国古典文学

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関するあらゆる専門的知識を修得し、論文の構想と作成の基本能力を養う。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学の専門分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門的知識・技能】

外国語教育に関する理論及び研究論文を読む・理解することができる。

【高い問題解決能力と表現力】

「特別研究基礎」で見出した課題を熟考し、その解決方法を探り、仮説を立てることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アンケート調査や実践授業を行い、その結果をレポートにまとめ、発表することができる。

教科書 /Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

吉島茂・大橋理枝 訳 『外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠』 朝日出版社、2004年

冯胜利・施春宏 著 『三一语法：结构・功能・语境——初中级汉语语法点教学指南』 北京大学出版社、2015年

東京大学外国語教育学研究会編著 『外国語教育学研究のフロンティア—四技能から異文化理解まで』 成美堂、2009

竹内理・水本篤編著 『外国語教育研究ハンドブック(改訂版)』 松柏社、2014

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス+世界における中国語教育の動き
- 第2～第8回 文献講読
- 第9～11回 課題についての議論
- 第12～14回 論文発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)と課題の完成度(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

文献の予習と発表の事前準備が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

授業中の積極性を高く評価する。

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生が各自興味関心のある日本宗教史に関する原典資料を選択し、それを読解・報告する。報告内容について全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。

《高い問題解決能力と表現力》

文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論 1
- 3回 報告および議論 2
- 4回 報告および議論 3
- 5回 報告および議論 4
- 6回 報告および議論 5
- 7回 報告および議論 6
- 8回 報告および議論 7
- 9回 報告および議論 8
- 10回 報告および議論 9
- 11回 報告および議論 10
- 12回 報告および議論 11
- 13回 報告および議論 12
- 14回 報告および議論 13
- 15回 報告および議論 14

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50% によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告にあたっては十分準備しておくこと。報告内容について事前に相談を受けること。報告で不十分な点については後日補足しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究 1 【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文執筆のための基礎的な力を養う。受講者は具体的な構想を随時発表していく。

- 高度な専門的知識・技能
- 修論執筆のための専門知識と研究方法を習得する
- 高い問題解決能力と表現力
- 修論執筆のための問題設定をおこなう力とそれをプレゼンする力を習得する
- 高い倫理観に基づいた自律的行動力
- 教員、受講生の見解をよく聞き、自分の意見を積極的に述べる力を習得する

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 ガイダンス
- 第 2 回 研究テーマについての討議①
- 第 3 回 研究テーマについての討議②
- 第 4 回 研究テーマについての討議③
- 第 5 回 研究テーマについての討議④
- 第 6 回 研究方法についての討議①
- 第 7 回 研究方法についての討議②
- 第 8 回 研究方法についての討議③
- 第 9 回 研究方法についての討議④
- 第 1 0 回 資料解釈についての討議①
- 第 1 1 回 資料解釈についての討議②
- 第 1 2 回 資料解釈についての討議③
- 第 1 3 回 資料解釈についての討議④
- 第 1 4 回 資料解釈についての討議⑤
- 第 1 5 回 総括と今後の課題の確認

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 5 0 パーセント レポート 5 0 %

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキストを読んでレジユメを作成する
事後：演習内容の復習

履修上の注意 /Remarks

授業外時間では綿密な情報収集を心がけること。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 1年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 演習
 クラス /Class: 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
 《高い問題解決能力と表現力》
 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

This course will be an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. We will investigate different modes of analysis and interpretation for each student topic. Discussions and presentations in English will center on materials selected by students for their thesis. Students will lead the discussion in presenting their own interpretations. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials to be supplied by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Orientation and Introduction.
- 2回 Guidance for thesis research A
- 3回 Guidance for thesis research B
- 4回 Guidance for thesis research C
- 5回 Introduction of student thesis topics and materials.
- 6回 Discussions and Presentations A
- 7回 Discussions and Presentations B
- 8回 Discussions and Presentations C
- 9回 Discussion centered on methods of analysis and interpretation
- 10回 Student Discussion and Presentation A
- 11回 Student Discussion and Presentation B
- 12回 Orientations and Guidelines for Presentations to be led by students based on the contents of materials.
- 13回 Student-led Discussion and Presentation A
- 14回 Student-led Discussion and Presentation B
- 15回 Student-led Discussion and Presentation C

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

論文指導を受けたい受講生と相談のうえ、修士論文作成の予備研究としての研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。そして、可能であれば複数の言語学関連教員の前での発表を通して、発表技術（ハンドアウト、発表、質疑応答への対応など）を身につける。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、言語現象を分析できるようにする。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようにする。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生との相談
- 第2回 - 第9回 文献講読
- 第10回 - 第13回 課題研究
- 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度...45% 課題...10% レポート...45%
「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：文献の予習（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
- 事後学習：課題の提出および次回に行われる前回の内容に基づく質疑応答への準備

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談のうえ、修士論文作成のための予備研究を開始する。そのために必要な文献講読を行う。文献講読を通して、受講生の選んだテーマについて理解を深めながら、最後は、先行研究の概要をレポートとしてまとめる。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門知識・技能》
論文の構想と作成に必要な言語に関する専門知識を修得し、基本能力を養う。
- 《高い問題解決能力と表現力》
言語に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
比較言語の専門分野に関するグローバルな課題を考察する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 受講生と相談
- 第2回 - 第11回 文献講読
- 第12回 - 第14回 受講生による発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 (50%) と レポート (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：文献の予習
- 事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

特別研究 1 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 永末 康介 / Kosuke NAGASUE / 基盤教育センター

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生と相談の上、修士論文（又は特定課題研究）作成のための予備研究を行う。そのために必要な文献購読などを通して、関連テーマについての基礎的・理論的知識を深めていく。

到達目標は、以下の通りである。

- ・ 高度な専門的知識・技能：興味のある分野における必要な基礎的・理論的知識を習得すること
- ・ 高い問題解決能力と表現力：論文や課題作成に向けて、根拠づけられた主張をまとめてその考えを示すことができること
- ・ 高い倫理観に基づいた自律的行動力：倫理規則を受け入れた上で、何が正しいのかを自ら判断できること

教科書 /Textbooks

授業時に指定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜授業時に紹介。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 イン트로ダクション
- 第2回 - 第3回 研究テーマについて
- 第4回 - 第9回 文献講読
- 第10回 - 第14回 学生による課題研究の発表
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

以下の方法により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

研究発表・平常の学習状況：50%
レポート：50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：文献の予習
- 事後学習：授業で扱った内容の整理、及び関連文献の講読

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 堀地 明 / 中国学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための研究発表と研究指導を行う。

【高度な専門的知識・技能】

修士論文に関連する分野の研究文献と一次史料を判読できる。

【高い問題解決力と表現力】

研究課題を設定し、問題を掘り下げ、自説としてまとめることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

研究を自ら進展し、論文の構成を思考できる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし、研究課題に即して指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究報告と指導
- 第3回 研究報告と指導
- 第4回 研究報告と指導
- 第5回 研究報告と指導
- 第6回 研究報告と指導
- 第7回 研究報告と指導
- 第8回 研究報告と指導
- 第9回 研究報告と指導
- 第10回 研究報告と指導
- 第11回 研究報告と指導
- 第12回 研究報告と指導
- 第13回 研究報告と指導
- 第14回 研究報告と指導
- 第15回 研究報告と指導

成績評価の方法 /Assessment Method

研究報告と討論(100%)により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備を入念に行うこと、事後に論点整理と課題を明確にすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 下野 寿子 / SHIMONO, HISAKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための指導を行う。論文構成に繋がるテーマの文献を輪読し、論文の「問い」の作り方を学び、修士課程に相応の高度な専門知識と論理的思考力を養う。レポート課題を通じて、論文作成ルールの定着を図る。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、自他の見解の違いを踏まえて適切に研究を進めることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマに基づいて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生の関研究テーマに基づいて適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

以下のスケジュールで進める。

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 設問と論文構成について
- 3回～13回 指定した文献の輪読・報告・議論(この間に小レポートを課す)
- 14回 各自の研究テーマについて、授業の課題文献・議論を踏まえて発表
- 15回 期末レポート提出とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・発表・小レポート50%、期末レポート50%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業準備を周到に行うこと。
 疑問点・意見を整理して、授業で議論できるように準備すること。
 授業後は、授業での議論と研究テーマとの関連を再確認すること。

履修上の注意 /Remarks

計画的に修士論文を作成すること。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 白石 麻保 / 中国学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国や新興国経済研究のための実証分析の手法を身につけ、それを自身の研究に応用する。
個別に設定されたテーマについて中国経済に対する社会科学的・実証的な分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能

中国をはじめとする新興国に関する知識、実証研究に必要なスキルを身に着ける。

高い問題解決能力と表現力

先行研究への貢献、実証分析に基づく政策提言を行う力を養う。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

受け身の形ではなく、主体的に先行研究を収集し、自らの問題意識と分析のアイデアを実証的に検証する力を養う。

教科書 /Textbooks

履修生のテーマに沿って取り扱う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
田中隆一 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 2018年
矢野剛 『中国の企業間信用 経済発展とオルタナティブ金融』 京都大学出版会 2015年
この他講義の際に紹介する。この他は講義の際に紹介する。

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
- 2回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 3回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 4回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 5回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 6回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 7回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 8回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 9回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 10回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 11回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 12回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 13回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 14回 テキスト輪読、研究報告、ディスカッション
- 15回 まとめ

* 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション，ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成及び報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。

事後学習：文献（論文）の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

履修上の注意 /Remarks

（主にミクロ）経済学、統計学及び計量経済学等の学部レベルの知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のための指導の時間です。
くずし字法の習得により修士論文に必要な古文書の解読を行います。

まず16か月間の研究計画を立てて、研究史の整理（先行研究の比較と分析）を報告してもらいます。その後、修士論文のために集めた史料を紹介してもらいます。それに基づいて分析と解読を行います。

DPに基づく3つの到達目標
《高度な専門的知識・技能》
研究テーマを広く専門領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
《高い問題解決能力と表現力》
研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

見玉幸多編『くずし字解読辞典 普及版』（東京堂出版）

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 研究計画①
- 第3回 研究計画②
- 第4回 研究史の整理①
- 第5回 研究史の整理②
- 第6回 研究史の整理③
- 第7回 基本史料の紹介①
- 第8回 基本史料の分析①
- 第9回 基本史料の紹介②
- 第10回 基本史料の分析②
- 第11回 基本史料の紹介③
- 第12回 基本史料の分析③
- 第13回 基本史料の紹介④
- 第14回 基本史料の分析④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業における研究史の整理と史料の解説のまとめ(50%)と期末レポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に史料を読んでおくこと。事後に史料をワープロに入力して次の授業までに添付ファイルで送ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 篠崎 香織 / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の指導を行う。先行研究の整理を引き続き行い、論文のテーマとなる「問い」と「仮説」の設定、それを実証する方法について検討する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

修士論文に関連した事象について専門的な知識を備えるとともに、それに関する先行研究を体系的に整理できる。

《高い問題解決能力と表現力》

必要な資料を収集・分析する力を備えるとともに、分析結果を論理的に正確に伝える表現力を備えている。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自ら主体的に学術上の問題を設定し、それを解明することができる。

教科書 /Textbooks

受講生の関心に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講生に対して個別に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
2回～14回 修士論文の経過報告
15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み ... 50 % レポート ... 50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文の執筆が順調に進むよう、計画的に作業をしていきましょう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 伊野 憲治 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成へ向け、研究史を丹念にフォローし、論点を整理したうえで、課題を明確化する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。

【高い問題解決能力と表現力】

研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

教科書 /Textbooks

適宜指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
- 第2回：研究史の作り方（講義）
- 第3回～14回：各自の報告・議論
- 第15回：まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告 50%
レポート 50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

適宜指示する。

履修上の注意 /Remarks

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後東南アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治、社会に関する英語および日本語文献を輪読、受講生を中心とする報告と討論を通して、【大学院生として身につけておくべき学問的素養】を身につける。同時に、【修士論文もしくは課題研究を執筆するために必要な技法を教示し、論文を完成させること】を目指す。

また課題レポートをいくつか科す。レポートは添削・評価をして返却し、修士論文作成の技能を高めていく。

DPに基づく3つの到達目標

- 【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の史資料を読むことができる。
- 【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の修士論文（もしくは課題レポート）のテーマによって相談して決定するが、以下が候補となる。

- (1)Ho Khai Leong and Samuel C. Kuo ed.,China and Southeast Asia, ISEAS, 2005.
- (2)岩崎育夫編『アジアと民主主義』アジア経済研究所、1997年。
- (3)山影進『ASEAN/パワー：アジア太平洋の中核へ』東京大学出版会、1997年。
- (4)田村慶子他編『東南アジア現代政治入門』（改訂版）ミネルヴァ書房、2016年、

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年
 - * 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。
- アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。
 - * 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

その他、受講生の問題関心に応じて、適宜指示する。

特別研究 1 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 テキストとスケジュールの相談、説明
- 第2～4回 China and Southeast Asiaを3回に分けて輪読、議論する
- 第5～7回 『アジアと民主主義』を3回に分けて輪読、議論する
- 第8～10回 『ASEANパワー：アジア太平洋の中核へ』を3回に分けて輪読、議論する
- 第11～12回 これまでの議論を踏まえて、各自のテーマを決定して報告
- 第13～14回 報告に対する総括と全体の議論を2回に分けて行う
- 第15回 補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- 課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%
- これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前に文献を読むこと、事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

- 大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。

キーワード /Keywords

- 東南アジア、国民統合、国家建設、中間層、民主化、ASEAN

特別研究 1 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講生の修士論文のテーマに沿った文献講読ならびにプレゼンテーションを行う。講読やプレゼンテーションを通して、アメリカ史に関する高度な専門的知識を修得する。また、自分の意見を的確に表現する力を養いつつ、剽窃等に注意を払い、自律的に論文を書く力を身につける。

教科書 /Textbooks

原則として、各自で用意する。また、適宜必要な文献・資料を紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて、各自で調査・収集する。また、適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回	授業の進め方などについての説明
2回	論文作成方法や資料収集方法の確認
3回	プレゼンテーションと討議
4回	文献講読と解説
5回	文献講読と解説
6回	プレゼンテーションと討議
7回	文献講読と解説
8回	文献講読と解説
9回	プレゼンテーションと討議
10回	文献講読と解説
11回	文献講読と解説
12回	プレゼンテーションと討議
13回	文献講読と解説
14回	文献講読と解説
15回	総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(30%)、プレゼンテーション(70%)により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に発表に向けた資料収集を行い、参考文献を読み。事後に指摘されたことや、さらに興味を持ったことについて各自で調べる。

履修上の注意 /Remarks

プレゼンテーションの際には、レジユメを作成すること。

特別研究 1 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 中野 博文 / Hirofumi NAKANO / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向け、参加者の関心に沿って文献の輪読を行う。

《高度な専門的知識・技能》アメリカ研究の資料を収集し、地域研究の立場から分析することができる。
 《高い問題解決能力と表現力》自分自身の研究テーマを学術的に再構成し、考察内容とその結論を社会科学の立場から表現することができる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》受け身の学習ではなく進んで調べたり図表をつくることのできる先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

参考文献リストをオリエンテーション時に配布する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 文献紹介
- 第3回 文献の背景説明
- 第4-8回 一冊目の輪読
- 第9回 文献の背景説明
- 第10-14回 二冊目の輪読
- 第15回 講義の総括

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 ... 70 % レポート ... 30 %
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回、予習内容を支持するので、それに沿って勉強すること。また、関連事項を参考書等で復習すること。

履修上の注意 /Remarks

この講義はアメリカ社会研究とあわせて履修すると効果的です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成を行う。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた先行研究と一次資料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分で研究テーマを設定し、解明するとともに、その内容を口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めるとともに、自身の研究を研究史に適切に位置づけることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて各自で調査する。個別の相談に応じる。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修論作成に向けた指導(1)
- 3回 修論作成に向けた指導(2)
- 4回 修論作成に向けた指導(3)
- 5回 修論作成に向けた指導(4)
- 6回 修論作成に向けた指導(5)
- 7回 修論作成に向けた指導(6)
- 8回 修論作成に向けた指導(7)
- 9回 修論作成に向けた指導(8)
- 10回 修論作成に向けた指導(9)
- 11回 修論作成に向けた指導(10)
- 12回 修論作成に向けた指導(11)
- 13回 修論作成に向けた指導(12)
- 14回 修論作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告の準備、指摘された問題点の確認を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

事前に報告準備を十分に整え、事後にその回の課題を完了させておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 1

授業の概要 /Course Description

各自興味ある研究課題を見つけ、修士論文を作成するためのスキルを身につける。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

- ① 国際経済の数理モデルの分析アプローチを理解できる。
- ② 諸経済理論により現実の国際経済問題を説明できる。
- ③ 学習したスキルを応用できる。
- ④ 実証分析と併せて国際経済理論の理解を深める。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく進んで調べたり図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生の研究テーマを考慮して決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

清田耕造・神事直人著『実証から学ぶ国際経済』(有斐閣)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 ガイダンス

第2回～第14回 受講生による報告・討論

第15回 課題の提出・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り込み(60%)と課題の提出(40%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

大学院レベルのミクロ・マクロ経済学を事前に履修することが望ましい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 1 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 1 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 1年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 2学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 1年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 1

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、新興国の台頭によって国際的な秩序の再編が進みつつある現状を踏まえ、「グローバル・サウス」を支える様々な国際機関に焦点を当て、躍動する「グローバル・サウス」の実態把握に努める。そのことによって、我々の西欧中心史観に修正を加えるとともに、「グローバル・ノース」と「グローバル・サウス」の間に認められる国際政治力学について考察する。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：21世紀における国際開発協力の実情を正しく理解できる。

高い問題解決能力と表現力：自分自身の研究テーマとの比較の視点から物事を捉えることができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルを用いて、先行研究を客観的視点によってまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Jacqueline Anne Braveboy-Wagner, Institutions of the Global South, Routledge, 2009.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ヴィジャイ・ブラシャド『褐色の世界史』水声社、2013年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 NAMについて
- 第3回 G77について
- 第4回 OPECについて
- 第5回 汎アメリカ主義について
- 第6回 汎アフリカ主義について
- 第7回 汎アラブ主義と汎イスラムについて
- 第8回 サブ地域コミュニティ：ラテンアメリカとカリブ海
- 第9回 サブ地域コミュニティ：アフリカ
- 第10回 サブ地域コミュニティ：東南アジア、南アジア、西アジア、大洋州
- 第11回 関連英語文献①
- 第12回 関連英語文献②
- 第13回 関連英語文献③
- 第14回 関連英語文献④
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と貢献度（合わせて100%）により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究 1 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

不慣れな領域だと思われるので、事前に日本語のサイトなどで調べ物しておくこと。また、事後学習としては、毎回のテーマに沿って簡単な課題を出すので、翌週までに調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

受講者各自が研究を進めることが目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉獵とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

DPに基づく到達目標

- (高度な専門的知識・技能)
自分自身の研究に関連して、研究法の特徴と先行研究の内容を理解している。
- (高い問題解決能力と表現力)
自分自身の研究に関連して、独自の論理を展開できる。
- (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
受け身ではなく主体的に学び、研究を進め、議論に参加する。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 % によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 田中 信利 / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

臨床心理学領域の修士論文を書くのに必要とされる知識・理論の習得や、問題の所在を明確化して研究デザインを導き出すための力を身につけることを目的とする。

教科書 /Textbooks

教科書は使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 文献講読と討論①
- 第3回 文献講読と討論②
- 第4回 文献講読と討論③
- 第5回 文献講読と討論④
- 第6回 文献講読と討論⑤
- 第7回 文献講読と討論⑥
- 第8回 文献講読と討論⑦
- 第9回 文献講読と討論⑧
- 第10回 文献講読と討論⑨
- 第11回 研究デザインと討論①
- 第12回 研究デザインと討論②
- 第13回 研究デザインと討論③
- 第14回 研究デザインと討論④
- 第15回 研究デザインと討論⑤

成績評価の方法 /Assessment Method

授業での発表・討論等の平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は自分の修士論文に関する資料をレジユメ形式で作成する。
事後学習として、レジユメに目を通しながら理解を深める。

履修上の注意 /Remarks

授業開始前までに研究計画や研究資料に関するレジユメを作成し、授業終了後はレジユメ等に目を通しながら理解を深めること。

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」

社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究論文の作成について検討を深める。

教科書 /Textbooks

指定しない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 論文作成と社会福祉研究の動向に関する討論
- 第 6～10回 研究・調査方法に関する検討
- 第11、12回 論文作成に関する報告と討論
- 第13、15回 論文内容の討論および吟味

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告を総合して判断するが、特に自らの考えが明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

研究課題を明確にするための先行研究について精査する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名
/Instructor

坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

福祉を素材テーマとして扱いながら、社会科学としての研究を行っていく上での基礎的知識の理解、及び基礎的研究能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

授業時に詳しく紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表(1)
- 3回 研究発表(2)
- 4回 研究発表(3)
- 5回 研究発表(4)
- 6回 研究発表(5)
- 7回 研究発表(6)
- 8回 研究発表(7)
- 9回 研究発表(8)
- 10回 研究発表(9)
- 11回 研究発表(10)
- 12回 研究発表(11)
- 13回 研究発表(12)
- 14回 研究発表(13)
- 15回 研究発表(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・・・50%、ディスカッションへの参加・・・50%
上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題に必ず取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加を求めます。修士論文の作成に向けて、学会発表や論文投稿にも挑戦していただきます。

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文の執筆に向けて、一緒に研究を進めていきましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉学、社会福祉政策、社会保障、地域福祉

特別研究 2 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題を見定め整理できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のため、個別的な指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

<技能>

自らの研究関心にそって問いをたて、調査・分析できる。

<態度>

自らの研究関心にそって社会の諸問題を定位し整理できる。

<知識・理解>

自らの研究領域に関連する諸概念、理論枠組、先行研究について専門的な知識を備える。

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域、調査方法（量的 / 質的）に応じて決定する。

特別研究 2 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 オリエンテーション
- 第 2 回 問いと論証戦略の確認
- 第 3 回 既存の研究の整理 (文献リストの作成)
- 第 4 回 文献のレビュー (テキスト批評) 1
- 第 5 回 文献のレビュー (テキスト批評) 2
- 第 6 回 調査法の検討
- 第 7 回 文献のレビュー (テキスト批評) 3
- 第 8 回 文献のレビュー (テキスト批評) 4
- 第 9 回 文献のレビュー (テキスト批評) 5
- 第 10 回 研究報告 1
- 第 11 回 文献のレビュー (テキスト批評) 6
- 第 12 回 文献のレビュー (テキスト批評) 7
- 第 13 回 文献のレビュー (テキスト批評) 8
- 第 14 回 文献のレビュー (テキスト批評) 9
- 第 15 回 研究報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%
 期末レポート (80%) と授業の事前・事後学習が授業への取り組みにどの程度反映されているか (20%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを総合的に判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告準備をすること。(必要な学習時間の目安は、120分)
 課題について事前に調べておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究1」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために具体的に個別指導を行うことで、多くの文献を集め「文献の網羅」をすると同時に、「コンテンツの確定」、ならびに修士論文の概略の作成を目指します。

DPに基づく3つの到達目標

- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。》
- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。》
- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。》

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初に論文作成計画書を作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入、1学期間の計画書の作成(1)
- 第2回 計画書の作成(2)
- 第3回 計画書に従い、指導など(1)
- 第4回 計画書に従い、指導など(2)
- 第5回 計画書に従い、指導など(3)
- 第6回 計画書に従い、指導など(4)
- 第7回 計画書に従い、指導など(5)
- 第8回 計画書に従い、指導など(6)
- 第9回 計画書に従い、指導など(7)
- 第10回 計画書に従い、指導など(8)
- 第11回 計画書に従い、指導など(9)
- 第12回 計画書に従い、指導など(10)
- 第13回 計画書に従い、指導など(11)
- 第14回 計画書に従い、指導など(12)
- 第15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書(80%)と授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置き、修論作成に活かしてください。

特別研究 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を応用し、論文完成に必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する資料を分析する能力を養い、研究に適用できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決できる態度を養う。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文完成に向けての個別指導を対面形式で行う。最初は、確定した修士論文の構想に沿って、引用文献の収集と分析、テキストの再分析を行ってもらい、修士論文執筆に向けての基礎固めを行ってもらう。それらの作業の進捗状況を授業時に報告してもらい、修士論文の執筆開始後は、毎回、新たに執筆された箇所に関する指導を行う。毎回、修士論文の完成へと向けた課題を与える予定である。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、修士論文のテーマと関連した和文、英文の評論文をプリントの形で配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引き 第5版 (北星堂)
 修士論文中の引用は上記に記載されている規則に則って行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーション
- 2回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 1
- 3回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 2
- 4回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 3
- 5回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 4
- 6回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 5
- 7回 修士論文の構想に沿ったテキストの再読・引用文献の購読 6
- 8回 修士論文の執筆状況の報告と指導 1
- 9回 修士論文の執筆状況の報告と指導 2
- 10回 修士論文の執筆状況の報告と指導 3
- 11回 修士論文の執筆状況の報告と指導 4
- 12回 修士論文の執筆状況の報告と指導 5
- 13回 修士論文の執筆状況の報告と指導 6
- 14回 修士論文の執筆状況の報告と指導 7
- 15回 夏休み中の研究に関する指導

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指導に沿って、修論の下書きを執筆しておくこと。
 事後学習：下書きに関して、指導を踏まえつつ改訂を加えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

修士論文執筆開始前は修士論文執筆に向けての基礎固めの進捗状況、修士論文執筆開始後は執筆状況を授業時に説明できるようにしておくこと。

特別研究 2 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究 2

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文のテーマに従い、論文の構成章節を決めて、論点と資料を確認する。そのうえで、論文を作成していく。

教科書 /Textbooks

授業ごとに学生が用意する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに配る

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、授業ごとに、修士論文の章節に従って、資料を確認して、できあがた部分を読み合せて、添削修正する。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の進展 80%、授業への構え 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

先生の具体的な指示に従い、論文を修正する。

履修上の注意 /Remarks

最後の頑張り

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

資料の分析能力を身に着けること。

キーワード /Keywords

新味、創造、独自性

特別研究 2 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 2年 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成にむけて日本宗教史に関する原典資料や論文を選択し、それを読解・報告する。報告内容について全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標

- 《高度な専門的知識・技能》
論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
- 《高い問題解決能力と表現力》
文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
- 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論 1
- 3回 報告および議論 2
- 4回 報告および議論 3
- 5回 報告および議論 4
- 6回 報告および議論 5
- 7回 報告および議論 6
- 8回 報告および議論 7
- 9回 報告および議論 8
- 10回 報告および議論 9
- 11回 報告および議論 10
- 12回 報告および議論 11
- 13回 報告および議論 12
- 14回 報告および議論 13
- 15回 報告および議論 14

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究 2 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に報告の準備をしておくこと。
事後、授業の内容を踏まえてまとめておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究2 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○	論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。
			特別研究2

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

設定した修士論文のテーマに沿った既存研究を調べる。また必要な分析を行う。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回
 修士論文テーマに沿った既存研究を調べる。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された論文を読むこと。紹介した文献を読むこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むために労働経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 2

授業の概要 /Course Description

7月の中間報告の準備と1月末締め切りの修士論文執筆の指導を行います。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

先行研究の文献目録の作成を指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中間報告準備①
- 第2回 中間報告準備②
- 第3回 中間報告準備③
- 第4回 中間報告準備④
- 第5回 中間報告準備⑤
- 第6回 中間報告準備⑥
- 第7回 中間報告準備⑦
- 第8回 中間報告準備⑧
- 第9回 中間報告準備⑨
- 第10回 中間報告準備⑩
- 第11回 中間報告準備⑪
- 第12回 論文指導①
- 第13回 論文指導②
- 第14回 論文指導③
- 第15回 論文指導④

成績評価の方法 /Assessment Method

中間報告と論文原稿の内容により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

チェック・添削された原稿を次回までに修正してメールで送ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のため、個別的な指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講者の研究領域に応じて決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究領域に応じて決定する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 研究テーマの確認と文献の紹介
- 第3回 既存の研究の整理 (文献リストの作成)
- 第4回 文献のレビュー 1
- 第5回 文献のレビュー 2
- 第6回 研究テーマの検討
- 第7回 文献のレビュー 3
- 第8回 文献のレビュー 4
- 第9回 文献のレビュー 5
- 第10回 研究報告 1
- 第11回 文献のレビュー 6
- 第12回 文献のレビュー 7
- 第13回 文献のレビュー 8
- 第14回 文献のレビュー 9
- 第15回 研究報告 2

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み・・・20% レポート・・・80%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告準備をすること。
課題について積極的に事前に調べておくこと。

特別研究 2 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成に向けた指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教員と相談しながら、受講生が各自で決める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修士論文作成に向けた指導(1)
- 3回 修士論文作成に向けた指導(2)
- 4回 修士論文作成に向けた指導(3)
- 5回 修士論文作成に向けた指導(4)
- 6回 修士論文作成に向けた指導(5)
- 7回 修士論文作成に向けた指導(6)
- 8回 修士論文作成に向けた指導(7)
- 9回 修士論文作成に向けた指導(8)
- 10回 修士論文作成に向けた指導(9)
- 11回 修士論文作成に向けた指導(10)
- 12回 修士論文作成に向けた指導(11)
- 13回 修士論文作成に向けた指導(12)
- 14回 修士論文作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表準備を十分に行い、授業後は指摘された内容をよく確認・理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 研究テーマを広く専攻領域から俯瞰し、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 研究テーマに関する専門的な文献を収集し、整理する技能を有する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 2

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文研究の下地準備と論文作成の指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

国際経済の数理モデルの分析アプローチをできる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な学術文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 修士論文の準備状況の報告、研究テーマの確認
- 2 回 既存研究の整理、データの収集
- 3 回～ 1 4 回 文献調査報告、研究報告
- 1 5 回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (50%) と報告内容 (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前に報告のレジュメを作成し、準備しておくこと。

課題に積極的に取り組むこと。

文献・資料を購読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 2 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成に関する基本能力を磨く。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国に関するあらゆる資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	中国学の様々な分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			特別研究2

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

【知識・理解】

外国語教育に関する理論及び研究論文を読む・理解することができる。

【技能】

「特別研究1」で考案した問題解決方法の推敲、仮説を検証するための計画を立て、先行実験を行うことができる。

【態度】

実践授業や仮説検証の結果を考察することによって、自ら課題の深化或は新しい課題の発見ができる。

教科書 /Textbooks

随時配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

外国語教育研究ハンドブック(改訂版) 竹内理 水本篤 編著 松柏社 2014

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス+仮説の確立
- 第2～第4回 仮説検証についての計画及び議論
- 第5～第14回 先行実験の報告及び議論
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)と課題の完成度(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業実験に関連する情報(先行研究など)の収集及び分析を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

文献の予習と発表の事前準備が必要。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 2 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究3

授業の概要 /Course Description

受講者各自の研究テーマを論文として結実させることが、特別研究基礎、特別研究1、特別研究2、特別研究3を通じた目標である。受講前に研究をどの程度行ってきたかや、採用する研究方法等によって進め方は異なるために、共通した授業内容としてここに表記することは困難である。しかし基本的には、研究テーマの絞り込み、関連する先行研究の渉猟とまとめ、問題の明確化、実験・調査の計画と実施、データの分析、論文の執筆、という流れであり、これらを受講者が互いに発表、議論しながら進めていく。

DPに基づく到達目標
 (高度な専門的知識・技能)
 自分自身の研究に関連して、研究方法の特徴と先行研究の内容を理解している。
 (高い問題解決能力と表現力)
 自分自身の研究に関連して、独自の論理を展開できる。
 (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
 受け身ではなく主体的に学び、研究を進め、議論に参加する。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1回～15回 受講者の研究の進捗状況に沿って進めていく

成績評価の方法 /Assessment Method

研究内容 ... 50 % 研究への積極的取り組み等 ... 50 % によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に課題の準備や復習が必要である。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 2年次 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文を完成させることが主要な目的となる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

特に指定しない。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回 修士論文の進捗状況の確認と今後の進め方
 第2回～第15回 修士論文の作成状況に合わせて、その都度、授業内容を協議の上決めて行う。

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の成績によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

修士論文の進捗状況に合わせて、その都度、指示する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

「社会福祉の実践と研究の視角」
社会福祉の（ないしは社会福祉問題に近接する）領域において頻繁に取り上げられる実践上および研究上の課題を取り上げ、それらを多角的に検討することによって、この領域における研究論文の作成について検討を深める。

教科書 /Textbooks

適時指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1～5回 社会福祉研究における論文の位置に関する討論
- 第 6～10回 研究・調査方法に関する検討
- 第11、12回 論文作成に関する報告と討論
- 第13、15回 論文内容の討論および吟味

成績評価の方法 /Assessment Method

論文作成やレポートおよび報告を総合して判断するが、特に自らの考えが明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

先行研究との整合性を確認する

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

福祉を素材テーマとして扱いながら、社会科学としての研究を行っていく上での基礎的知識の理解、及び基礎的研究能力の習得を目指します。

教科書 /Textbooks

授業時に詳しく紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス
- 2回 研究発表(1)
- 3回 研究発表(2)
- 4回 研究発表(3)
- 5回 研究発表(4)
- 6回 研究発表(5)
- 7回 研究発表(6)
- 8回 研究発表(7)
- 9回 研究発表(8)
- 10回 研究発表(9)
- 11回 研究発表(10)
- 12回 研究発表(11)
- 13回 研究発表(12)
- 14回 研究発表(13)
- 15回 研究発表(14)

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・・・50%、ディスカッションへの参加・・・50%
上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前課題に必ず取り組むこと。

履修上の注意 /Remarks

積極的な参加を求めます。修士論文の作成に向けて、学会発表や論文投稿にも挑戦していただきます。

特別研究3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

修士論文の執筆に向けて、一緒に研究を進めていきましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉学、社会福祉政策、社会保障、地域福祉

特別研究 3 【夜】

担当者名 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 人間の基本的特性の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間関係の諸課題について調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題について実践的に対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のために、個別的・具体的な指導を行う。

DPに基づく3つの到達目標

<技能>

自らの研究関心にそって問いをたて、調査・分析できる。

<態度>

自らの研究関心にそって社会の諸問題を定位置し整理できる。

<知識・理解>

自らの研究領域に関連する諸概念、理論枠組、先行研究について専門的な知識を備える。

教科書 /Textbooks

必要に応じて個別に指導する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて個別に指導する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初の授業において提示する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と研究報告の内容により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを総合的に判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

与えられた課題について調べておくこと。(必要な学習時間の目安は、120分。)

報告の準備をすること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /2 Years 単位 /Credits 2単位 /2 Credits 学期 /Semester 2学期 /2 Semesters 授業形態 /Class Format 演習 /Seminar クラス /Class 2年 /2 Years

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

During the second course of the second year of graduate study, we will focus on your own research interests. This class will be devoted to helping you explore your own research interests and in learning to become more proficient in reading academic articles and critically assessing them. Some classes will focus explicitly on helping you write your thesis.

教科書 /Textbooks

No textbook necessary. Readings will be selected by the teacher and the students.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

So as to deepen and develop independent study skills, students will be expected to make full use of the research facilities at their disposal whenever possible.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- Week 1: Introduction
- Week 2: Research schedules
- Week 3: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 4: Student-led research presentation
- Week 5: Student-led research presentation
- Week 6: Thesis-writing help
- Week 7: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 8: Student-led research presentation
- Week 9: Student-led research presentation
- Week 10: Thesis-writing help
- Week 11: Dr. Larson-Hall's research presentation
- Week 12: Student-led research presentation
- Week 13: Student-led research presentation
- Week 14: Thesis-writing help
- Week 15: Review

成績評価の方法 /Assessment Method

A 3000-word paper (50%); Presentations (50%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation necessary for this course; You will learn more about teaching and second language acquisition after this course.

履修上の注意 /Remarks

特別研究 3 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

SLA, language acquisition, teaching language, teacher training

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

1年次の「特別研究基礎」、「特別研究1」、及び2年次1学期の「特別研究2」の成果を踏まえつつ、修士論文を作成するために、具体的に個別指導を行い、論文の完成を目指します。（講義全体のキーワードは「修士論文作成」「論の拡大」などです。）

DPに基づく3つの到達目標

- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら専門分野の研究者として必要な能力を修得する。》
- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。》
- 《英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。》

教科書 /Textbooks

適宜、指示します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

最初にこれまでの進捗状況を確認した上で、2学期の論文作成計画書を新たに作成し、それによって指導をしていきます。

- 第1回 導入、担当学生と相談の上、計画書を作成
- 第2回 前回作成した計画書に従い、指導など(1)
- 第3回 計画書に従い、指導など(2)
- 第4回 計画書に従い、指導など(3)
- 第5回 計画書に従い、指導など(4)
- 第6回 計画書に従い、指導など(5)
- 第7回 計画書に従い、指導など(6)
- 第8回 計画書に従い、指導など(7)
- 第9回 計画書に従い、指導など(8)
- 第10回 計画書に従い、指導など(9)
- 第11回 計画書に従い、指導など(10)
- 第12回 計画書に従い、指導など(11)
- 第13回 計画書に従い、指導など(12)
- 第14回 計画書に従い、指導など(13)
- 第15回 総括。

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回の報告書(80%)と授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究 3 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回出す課題をしっかりとこなして行ってください。また、授業で学習したことは常に念頭に置き、修論作成に活かしてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 英米語圏の言語、文学、文化に関する専門知識を駆使し、論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する論文を完成させながら、専門分野の研究者として必要な分析研究の技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 英米語圏の言語、文学、文化に関する課題を主体的に解決し、専門分野の研究者として必要な態度を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成のための詳細な個別指導を継続的に対面形式で行う。個別指導に沿った加筆訂正を原稿に加え続けることにより、修士論文を無理なく完成させることを目指す。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、和文、英文のプリントを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

MLA 英語論文の手引(第5版) (北星堂)
修士論文中の引用は上記の書物を参照した上で行うこと。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 1
- 2回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 2
- 3回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 3
- 4回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 4
- 5回 修士論文草稿の全体的構成に関する指導 5
- 6回 修士論文草稿の章立に関する指導 1
- 7回 修士論文草稿の章立に関する指導 2
- 8回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 1
- 9回 修士論文草稿の段落構成に関する指導 2
- 10回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 1
- 11回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 2
- 12回 修士論文草稿に関する指導：センテンスレベル 3
- 13回 修士論文草稿に関する指導：単語レベル
- 14回 修士論文草稿に関する指導：引用文献リスト
- 15回 完成した修士論文の最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の執筆状況に関する報告100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：指導に沿って、修論の下書きを執筆しておくこと。
事後学習：下書きに関して、指導を踏まえつつ改訂を加えておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 鄧 紅 / DENG HONG / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の最後のスパート。論文を細かくチェックして、論文を完成させる

教科書 /Textbooks

授業ごとに資料を配る。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業ごとに指定して、自分で探す。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第一回から第十五回まで、毎回論文の進捗を確認して、十五回目の授業の時に、最終チェックを入れる。

成績評価の方法 /Assessment Method

論文の完成度、論点の確立状況による

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

調べた資料をよく分析して吟味すること。

履修上の注意 /Remarks

修士論文を完成しないと、本授業の単位をもらえないので、論文の完成に努力せよ。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最後の頑張りが大事。

キーワード /Keywords

完成度、独自性、発見

特別研究 3 【夜】

担当者名 胡 玉華 / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 中国学に関する専門的知識を駆使して、論文の完成を目指し、中国学の研究者と専門職の職業人としての能力の完成に到達する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ あらゆる資料を使い、中国に関する多分野の研究に役立つ分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 中国学のすべての分野に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

【知識・理解】

外国語教育に関する文献を読む・理解することができる。

【技能】

先行研究を参考に、新しい問題を発見することができる。また、その問題の解決方法を提案し、教育実践を通して検証することができる。

【態度】

修論作成において自ら進んで新たな問題提起ができる。

教科書 /Textbooks

授業中に指定。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時配布

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス+仮説の確立
第2～第10回 仮説検証の報告及び議論
第11～14回 新たな問題提起及び解決方法の提案
第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50％）と課題の完成度（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業実験に関連する情報（先行研究など）の収集及び分析を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文作成にむけて研究内容を報告する。
報告内容について全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標
《高度な専門的知識・技能》
論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
《高い問題解決能力と表現力》
文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

教科書 /Textbooks

使用しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

必要に応じて指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の進め方
- 2回 報告および議論 1
- 3回 報告および議論 2
- 4回 報告および議論 3
- 5回 報告および議論 4
- 6回 報告および議論 5
- 7回 報告および議論 6
- 8回 報告および議論 7
- 9回 報告および議論 8
- 10回 報告および議論 9
- 11回 報告および議論 10
- 12回 報告および議論 11
- 13回 報告および議論 12
- 14回 報告および議論 13
- 15回 報告および議論 14

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容 50% 平常の学習態度 50%によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

特別研究 3 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

報告に先立ち、面談して指導を受けること。
報告で指摘された問題点について、補足学習すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本の宗教文化

特別研究 3 【夜】

担当者名 /Instructor: ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year: 2年次
 単位 /Credits: 2単位
 学期 /Semester: 2学期
 授業形態 /Class Format: 演習
 クラス /Class: 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 論文の構想と作成に必要な文化に関する専門的知識を修得し、基本能力を養う。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 文化に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎ 比較文化の専門分野に関するグローバルな課題を考究する能力を修得する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

選定したテーマにしたがい修士論文を執筆する。

教科書 /Textbooks

適宜、論文を指定します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回～第15回
 分析をすすめ修士論文を執筆する。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表 100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された分析を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

労働経済学に関する論文を読むために労働経済学の基礎知識が必要です。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 八百 啓介 / YAO Keisuke / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 修士論文作成にあたり、研究テーマに関する専門的な知識を修得するとともに、専門の見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 修士論文作成にあたり、先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

特別研究 3

授業の概要 /Course Description

この時間は修士論文の仕上げを指導する時間です。

教科書 /Textbooks

なし

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序論確認
- 第2回 第1章確認
- 第3回～第4回 史料講読
- 第5回～第8回 第3章確認
- 第9回～第12回 第4章確認
- 第13回 論文チェック
- 第14回 終論確認
- 第15回 論文最終チェック

成績評価の方法 /Assessment Method

修士論文の内容により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

チェック・添削された原稿を次回までに修正して添付ファイルで送ること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 修士論文作成にあたり、研究テーマに関する専門的な知識を修得するとともに、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 修士論文作成にあたり、先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究 3

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文の作成に向けた指導を行う。

教科書 /Textbooks

受講生の研究分野に応じて決める。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

教員と相談しながら、受講生が決める。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 修士論文作成に向けた指導(1)
- 3回 修士論文作成に向けた指導(2)
- 4回 修士論文作成に向けた指導(3)
- 5回 修士論文作成に向けた指導(4)
- 6回 修士論文作成に向けた指導(5)
- 7回 修士論文作成に向けた指導(6)
- 8回 修士論文作成に向けた指導(7)
- 9回 修士論文作成に向けた指導(8)
- 10回 修士論文作成に向けた指導(9)
- 11回 修士論文作成に向けた指導(10)
- 12回 修士論文作成に向けた指導(11)
- 13回 修士論文作成に向けた指導(12)
- 14回 修士論文作成に向けた指導(13)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表内容(100%)

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の準備を十分に行い、授業後は指摘された内容をよく確認・理解すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

特別研究 3 【夜】

担当者名 魏 芳 / FANG WEI / 経済学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ 修士論文作成にあたり、研究テーマに関する専門的な知識を修得するとともに、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	◎ 修士論文作成にあたり、先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	◎ 現代世界が抱える諸問題を、修得した知識・技能をもとに議論するとともに、積極的に適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

特別研究3

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

修士論文研究の指導を行い、論文の執筆を完成させる。

DPに基づく3つの到達目標

< 高度な専門的知識・技能 >

国際経済の数理モデルの分析アプローチをできる。

< 高い問題解決能力と表現力 >

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

< 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >

受け身の学習ではなく、自ら進んで調べたり図表を作ったりして、高度な学術文章を執筆することができる。

教科書 /Textbooks

なし。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中適宜指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 論文の執筆状況の確認
- 2回～14回 論文の作成・提出と報告
- 15回 修士論文の最終稿提出、プレゼンテーション

成績評価の方法 /Assessment Method

日常授業への取り組み (50%) と報告内容 (50%) によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回事前に報告のレジュメを作成し、準備しておくこと。

課題を積極的取り組むこと。

文献・資料を購読し、事後学習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

特別研究 3 【夜】

キーワード /Keywords

社会システム総合概論 【夜】

担当者名 /Instructor 伊野 憲治 / 基盤教育センター, 後藤 尚久 / Naohisa Goto / 経済学科
武井 満幹 / 中国学科, 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科

履修年次 1年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス 1年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	経済・経営に関する高度な知識を修得し、専門職業人及び研究者として、複雑化しグローバル化する経済社会を解明できるようになる。	○ 社会システムにおける基礎的で共通の知識を修得し、各専攻での専門的な知識や理解の礎を形成できるようになる。
技能	経済・経営の専門家として、必要な情報を収集し適切に分析できるようになる。	△ 各専攻での専門的な課題に対して、適切な分析の基礎が修得できるようになる。
態度	高度な専門知識を生かして、経済・経営の抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 各専攻で修得する専門的知識を駆使して、社会の様々な課題に主体的に取り組む姿勢を修得できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会システム総合概論

※現代経済専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本概論は、社会、文化、経済などの広範囲にわたる現代社会の様々な事象を研究するための基礎的な技能と、そのために把握しておくべき基本的なアカデミック・ルールを習得することを目的としている。個々の分野についての専門知識を深めるだけではなく、それぞれの事象が現代社会ではどのように関係し合っているのかについても理解する。概論は原則として、複数の担当教員がそれぞれのテーマに沿ったオムニバス形式で実施する。今後研究に取り組んでいく際の基本的な姿勢、考え方を学ぶ。各教員の講義やディスカッション等を通じて、各自が自らの研究計画を練り直していく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

社会システムにおける基礎的で共通の知識と各専攻での専門的知識を理解している。

【高い問題解決能力と表現力】

各専攻での専門的な課題に対して、適切な分析と表現によって解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

高い倫理観に基づき社会の様々な課題に主体的かつ自律的に取り組む行動力を持っている。

教科書 /Textbooks

概論全体での教科書は特に指定しない。担当教員が適時資料等を配布することがある。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

担当教員がトピックに合わせて紹介する。

但し、第7回についてはNHK特集「らいは不治にあらず」、第8回については原田正純『裁かれるのは誰か』世織書房、第9回に関しては宗澤忠雄『地域に活かす私たちの障害福祉計画』中央法規、小賀久『障がいのある人の地域福祉政策と自立支援』法律文化社を参照。

社会システム総合概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：オリエンテーション
 - 第2回：図書館ツアー：学内の資料・情報の利用方法について
 - 第3回：アカデミック・スキル：剽窃行為の防止と論文の執筆方法
 - 第4回：研究の方法（1）-経済学・経営学を中心に-（後藤担当）
 - 第5回：研究の方法（2）-データの活用方法-（後藤担当）
 - 第6回：研究成果のまとめ方（後藤担当）
 - 第7回：研究の立場性について① - ハンセン病隔離政策を通して-（小賀担当）
 - 第8回：研究の立場性について② - 水俣病の原因究明や認定のあり方を通して-（小賀担当）
 - 第9回：研究（運動）とは何か-社会福祉計画の策定と実施を通して-（小賀担当）
 - 第10回：中国古典文学の研究（武井担当）
 - 第11回：研究の基礎-中国古典詩の読み方-（武井担当）
 - 第12回：中国古典と日本（武井担当）
 - 第13回：地域研究の現在（伊野担当）
 - 第14回：ミャンマー研究の現在（伊野担当）
 - 第15回：自己の研究の位置づけと課題（伊野担当）
- 但し、途中でディスカッション、発表等を組み込む可能性あり。

成績評価の方法 /Assessment Method

研究計画書（レポート）の作成4回（25%×4）
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：当該テーマについての独自の文献検索。
- 事後学習：自らの研究計画の見直し、レポート作成。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田島 司 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○		○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 社会の諸問題にかかわる社会心理学の専門知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間関係に係わる諸課題を社会心理学的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間関係に係わる諸課題に対して社会心理学の観点から対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

社会心理学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

基本的には講義形式の形態をとりつつも、それほど受講者数が多くない場合には参加型の形態を織り交ぜて進めていく予定である。社会心理学の基礎的な理論、考え方、研究方法などを理解し、受講者が各自の研究テーマとの関連に気づくことが目的である。受講者の発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から議論する。

DPに基づく到達目標

- (高度な専門的知識・技能)
- 社会心理学の研究法の主な特徴と社会心理学の複数の研究群の内容を理解している。
- (高い問題解決能力と表現力)
- 社会心理学の研究と自分自身の研究テーマとの関連を理解し、説明できる。
- (高い倫理観に基づいた自律的行動力)
- 受け身ではなく主体的に学び、議論に参加する。

教科書 /Textbooks

特に定めない

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時紹介する。

社会心理学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

前半（7, 8回程度）の講義では社会心理学の概論的なテキストを用いて進める。社会心理学の概論的な授業をする場合には、受講者からテキストの各節（参加人数によって、各自の担当ページ数や進度は異なる）の内容を報告してもらい、その内容について補足の講義を行う。その後、皆で議論する。

後半（7, 8回程度）は受講者各自の研究テーマの発表を交えながら様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする。受講者が8名以下であれば，1回の授業に1名の発表となる。4名以下であれば発表回数は2回になる。

また，受講者各自の研究テーマの発表を交えながら，様々な研究テーマについて社会心理学的視点から講義，及び議論をする場合もある。

- 1回 オリエンテーション他
- 2回 社会心理学の特徴1【実験】
- 3回 社会心理学の特徴2【統計】
- 4回 動機づけと感情1【外発的動機づけ】
- 5回 動機づけと感情2【内発的動機づけ】
- 6回 人格と個性
- 7回 人格と文化
- 8回 社会的行動1【役割】
- 9回 社会的行動2【集団間関係】
- 10回 社会心理学と認知心理学との関連
- 11回 社会心理学と教育心理学との関連
- 12回 社会心理学と臨床心理学との関連
- 13回 社会心理学と福祉心理学との関連
- 14回 社会心理学と福祉学，教育学，社会学，人類学等との関連
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

発表内容 ... 50 % 議論への参加等 ... 50 %によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前後に演習内容の準備や復習が必要である

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

生涯学習論【夜】

担当者名 恒吉 紀寿 / Norihisa Tsuneyoshi / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○		○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○ 生涯にわたる学習の特性や理論について専門的知識を修得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 学習者の課題発見・解決プロセスを理解・分析する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 学習者の課題発見・解決プロセスを支援・促進する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

生涯学習論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

文献や各種調査結果や事例を手がかりにして、生涯学習についての理論的な理解を深める。
生涯学習や成人教育学の様々な理論について検討することを通して、自己決定型学習や意識変容の学習、またそれへの援助について理解を深める。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

実践を社会教育研究など分析枠組みを用いて捉えることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

実践事例を自分自身の研究テーマに応用することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

研究調査や先行研究を研究倫理に基づいて取り扱い、研究としてまとめることができる。

教科書 /Textbooks

必要に応じて、適宜、紹介する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○パトリシア・クラプトン『おとなの学びを拓く』鳳書房

○社会教育推進全国協議会『社会教育・生涯学習ハンドブック』エイデル研究所

その他、学会年報や紀要など

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 ガイダンス
- 2 生涯学習とは何か
- 3 政策動向と論点
- 4 社会教育学としての研究動向
- 5 生涯学習としての研究動向
- 6 国際的な政策・研究動向と論点
- 7 成人教育論の理論展開
- 8 成人教育論の論点
- 9 子どもの教育学と成人教育学
- 10 意識変容の学習とは
- 11 自己決定型学習とは
- 12 学習と学習支援
- 13 学習支援者の専門性と役割
- 14 学習成果の還元、学習社会とは
- 15 まとめ

生涯学習論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度と質疑応答…70%、レポート…30% によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前は、配付資料を検討し、論点を明確化してのぞむ
事後は、講義内容を踏まえて、関連の論文などを検討する

履修上の注意 /Remarks

資料や関連文献の整理、課題への対応、自分なりの意見のまとめ

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

成人の学びや活動の展開について考えていきます。

キーワード /Keywords

生涯学習、社会教育、地域、成人教育

臨床心理学【夜】

担当者名 /Instructor 田中 信利 / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 臨床心理学に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 人間関係に係わる諸問題を臨床心理学の観点から調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 人間関係に係わる諸問題に臨床心理学の観点から解決策を提案できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床心理学

授業の概要 /Course Description

家族関係に関する心理学の文献講読及び討論を通して、生涯発達における家族の役割と特徴を明確にするとともに、新たな研究主題を見いだすことを目的とする。具体的には、教員が提示する文献を受講者が選択して発表し、全員で討論する形式で実施する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

文献中の心理学的専門用語の意味を理解し活用することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマと関連付けて解釈し自分の見解を述べるすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

関連資料を自ら調べて指定文献と関連付けて発表することができる。

教科書 /Textbooks

特に指定しない。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業の中で、適宜紹介する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション：演習の概要説明、発表の順番決め
- 第2回～第4回 家族とは何か【家族システム論】【ジェノグラム】
- 第5回～第7回 家族の発達【配偶者選択】【夫婦】
- 第8回～第10回 家族と臨床的諸問題【DV】【児童虐待】
- 第11回～第13回 家族と臨床的諸問題(2)【家族療法】【ダブルバインド】
- 第14回～第15回 総括：全体討論

成績評価の方法 /Assessment Method

発表及び討論への参加度(70%)と期末レポート(30%)により、シラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習として、発表者は発表内容に関するレジュメを作成する。それ以外の者は、事前に配布された資料に目を通して自分なりに理解し、疑問点を整理しておく。

事後学習として、レジュメに目を通しながら理解を深める。

臨床心理学 【夜】

履修上の注意 /Remarks

発表者は、レジユメを作成すること。また、それ以外の者も事前に資料を配布するので、前もって読み、疑問点や問題点等を明確にしておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

社会福祉援助論【夜】

担当者名 小賀 久 / Hisashi KOGA / 人間関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 人間の生活困難に関して調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

社会福祉援助論

授業の概要 /Course Description

現代における社会福祉研究の動向を踏まえ、社会福祉援助の枠組みの制度的変化や意味について吟味し、社会福祉援助に関する方法的検討を中心とした理論的検討を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

社会福祉援助の理解に必要な専門的知識を備えている。

【高い問題解決能力と表現力】

人間の生活困難に関する問題を調査・分析によって解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

生活困難な状態にある人の人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業で指定する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適時紹介する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～3回	社会福祉とは何かに関する文献講読と討論
4～8回	社会福祉の援助論、特に1960～70年代の文献講読
9～13回	社会福祉の援助論、特に1980年代以降の文献講読
12～15回	まとめの討論

成績評価の方法 /Assessment Method

レポートおよび報告内容を総合して判断するが、特に自らの考えが常に明示されているかを中心にしてシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価する

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習は授業で指定する文献・論文を読了し、不明な事柄について整理しておくこと。事後学習は不明な事柄について明確にできる様に指定する文献を講読すること。

社会福祉援助論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

文献購読が一定量必要となるので覚悟のこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

人間環境学【夜】

担当者名 /Instructor 野井 英明 / Hideaki Noi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△ 人間と文化の環境との関わりに関する諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

人間環境学

授業の概要 /Course Description

環境は地質時代、先史時代、歴史時代を通して変動しており、文明は環境に深く関わりをもっていると考えられています。環境と文明の関連を考えることは、現代の環境問題、ひいては現代文明の行く末を見きわめる手がかりともなります。例年、様々な環境について取り上げてきましたが、今年度の人間環境学演習では、地震学者と歴史学者が書いた2冊の地震に関する本を用いて、大地震と歴史の関わりについて地震学と歴史学の2つの視点から考えます。

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 環境と文明の関わりについて専門的に考えることができる。
 《高い問題解決能力と表現力》
 自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 環境と文明の関わりに関する諸問題を自ら進んで調べ考察することができる。

教科書 /Textbooks

- 山岡耕春著「南海トラフ地震」岩波書店、2016年、780円
- 保立道久著「歴史の中の大地動乱一奈良・平安の地震と天皇制」岩波書店、2012年、820円

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 鈴木康弘著「原発と活断層」岩波書店、2013年、1430円

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1～15回
 最初の授業で、テキストの分担箇所と発表日を決め、そのスケジュールで進めます。
 テキストを読んで発表・討論することになりますが、必要に応じて関連する情報を提供します。

成績評価の方法 /Assessment Method

普段の授業における積極性(30%)と発表内容(70%)によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

発表の担当でない回でもテキストを読んでおいてください。また、新聞やインターネット情報などに目を通し、関連する記事があれば読んでおいてください。授業後は、授業中に作成したノートを整理し、配布された資料などを再度読んで理解した後、これらが今後の資料として使えるよう整理しておきましょう。

履修上の注意 /Remarks

人間環境学 【夜】

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文化社会学【夜】

担当者名 /Instructor 濱野 健 / Takeshi Hamano / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎	文化と人間関係の関連について理解するための専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	文化と人間関係の関わりを見定め調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	△	文化と人間関係の関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

文化社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

授業の概要

社会学領域において必須とされる社会理論・文化理論・批判理論の基礎理論を中心として、現代社会の様々な事象を批判的に分析する方法について能動的に学び、学位論文にむけた理論的・方法的な能力を養う。

毎回、履修者は指定されたテキストの要旨と論点をまとめたディスカッションペーパーを持参してもらった上で、講義および全体討論を実施する。

到達目標

《高度な専門的知識・技能》

社会理論の基礎を知る。

《高い問題解決能力と表現力》

社会学的思考を自身の研究に活用できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

必要な文献や資料の調査方法を構想できる。

教科書 /Textbooks

最初の数回は講読資料を担当教員が事前に配布する。その後は履修者の個別の研究計画などを鑑みて妥当なものを決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義中に適時紹介する。

文化社会学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回：オリエンテーションと研究倫理について
- 2回：社会理論の基礎
- 3回：社会理論（前編）
- 4回：社会理論（中編）
- 5回：社会理論（後編）
- 6回：文化理論の基礎（前編）
- 7回：文化理論の基礎（後編）
- 8回：文化理論（前編）
- 9回：文化理論（中編）
- 10回：文化理論（後編）
- 11回：批判理論の基礎（前編）
- 12回：批判理論の基礎（後編）
- 13回：批判理論（前編）
- 14回：批判理論（中編）
- 15回：批判理論（後編）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業内評価（50%）とディスカッションペーパーによる全体議論への参加（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定する講読資料は英文の場合もあるのでその旨を理解しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

都市社会学【夜】

担当者名 /Instructor 稲月 正 / INAZUKI TADASHI / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 都市社会と人間との関わりについて理解するための理論的な枠組みを学習し、都市の社会的分析に関する専門的知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 都市社会と人間との関わりについて調査・分析する基礎的技能を習得する。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	○ 都市社会と人間との関わりに関する現代的課題を整理し実践的な対応策を提示する態度を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

都市社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では、都市社会学の基本的な見方・考え方・分析技法を学ぶことを目的とする。
 具体的には、以下の事柄について理解する。
 (1) 産業化と都市化の関係
 (2) 都市社会学の2大潮流としてのシカゴ学派都市社会学と新都市社会学の基本的な考え方
 (3) さまざまな社会現象における「都市的なもの」の意味
 (4) 都市計画の課題と可能性
 (5) 都市における社会現象を把握する技法
 なお、授業は演習形式も交えて行う。

DPに基づく3つの到達目標
 <高度な専門知識・技能>
 都市社会学に関する概念や理論枠組について理解することができる。
 <高い問題解決能力と表現力>
 都市の社会問題について自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。
 <高い倫理観に基づいた自律的行動力>
 受け身の学習ではなく進んで調べたりレポートを作成できる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

適宜レジュメを配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『都市の社会学 - 社会がかたちをあらわすとき』, 町村敬志・西澤晃彦著, 2000, 有斐閣
- 『よくわかる都市社会学』, 中筋直哉・五十嵐泰正編著, 2013, ミネルヴァ書房, ¥3024

都市社会学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 近代都市の誕生
- 第3回 都市へのまなざし
- 第4回 都市的世界の構造
- 第5回 個性化のメカニズム
- 第6回 階級・階層生成のダイナミクス
- 第7回 都市生活の基盤
- 第8回 居住点から広がる社会
- 第9回 郊外という迷宮
- 第10回 政治権力と都市
- 第11回 見える都市、見えない都市
- 第12回 都市の計画と再生
- 第13回 ユートピアとしての都市
- 第14回 都市研究の方法
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み (30%) およびレポート (70%) によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

テキスト、配付資料等をよく読んでおくこと。(必要な学習時間の目安は、予習60分、復習60分。)
文献について報告してもらうので、報告者は、(1) 概要、(2) 内容要約、(3) 論点整理、(4) 議論を記したレジユメを用意すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

コミュニティ、都市問題、シカゴ学派、人間生態学、アーバニズム、ネットワーク分析、新都市社会学、構造分析、集合的消費、社会階層、社会移動、社会的資源、エスノグラフィー、社会地図、参与観察、NPO、町内会、都市レジーム、地域開発、都市計画、再開発、反都市主義

教育制度論【夜】

担当者名 /Instructor 児玉 弥生 / KODAMA, Yayoi / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 教育の制度に関する理論的な枠組みを学習、専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

教育制度論

授業の概要 /Course Description

概要

教育の制度についての文献の検討や討論を通して、専門的知識を習得し、研究の進め方を学ぶ。
 授業前半は教育の制度に関わる共通の文献資料（研究論文）を提示し、参加者による報告発表を起点に討論する。
 後半は教育の制度に関連する文献・資料の収集を実習、収集した中から講読文献を決め、参加者による報告発表を起点に討論する。

到達目標

- 【高度な専門的知識・技能】
教育の制度を研究する上で必要な専門的知識を習得する。
- 【高い問題解決能力と表現力】
教育の制度に係わる諸課題を見定め、調査・分析によって解決することができる。
- 【高い倫理観に基づいた自律的行動力】
教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を自律的に提示することができる。

教科書 /Textbooks

なし。
資料は初回に配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、紹介する。

教育制度論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨン
- 2回 教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 3回 学校教育の制度（日本）に関する研究論文の検討
- 4回 教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 5回 学校教育の制度（英語圏）に関する研究論文の検討
- 6回 学校教育の制度（英語圏以外の欧州）に関する研究論文の検討
- 7回 学校教育の制度（東・東南アジア）に関する研究論文の検討
- 8回 中間まとめ
- 9回 収集した文献・資料の検討1【日本の学校教育】
- 10回 収集した文献・資料の検討2【日本の社会教育】
- 11回 収集した文献・資料の検討3【英語圏の教育制度】
- 12回 収集した文献・資料の検討4【東・東南アジアの教育制度】
- 13回 収集した文献・資料の検討5【学校とコミュニティ】
- 14回 収集した文献・資料の検討6【教育と福祉】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

参加度と発表報告によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

資料は事前によく読んでおくこと。

発表者は事前の準備を行い、発表当日はレジュメ等、プレゼン資料を準備すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

臨床教育学【夜】

担当者名 /Instructor 楠 凡之 / Hiroyuki Kusunoki / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△	子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的な理解を持っている。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	様々な課題を抱える子ども・青年の抱える課題を分析しつつ、その援助を行っていくための基本的な技能を修得している。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	子ども・青年に対して人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく意欲と態度を持っている。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

臨床教育学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では、二年間の修士課程における《高度な専門的知識・技能》《高い問題解決能力と表現力》《高い倫理観に基づいた自律的行動力》の獲得を到達目標として、その習得に向けての具体的な取り組みを行う。

本授業では、①今日子ども・青年の中で生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導、援助の課題、②乳幼児の愛着形成過程、及び養育者のアタッチメントスタイルが育児に及ぼす影響について、文献講読と事例検討を通じて深めていく。
本年度は中でも愛着障害の問題を中心に検討していきたいと考えている。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

子ども・青年の中に生じてくる様々な臨床的な問題の発生機序とその克服に向けての指導の課題について、基本的専門的な知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】

教育の制度に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示することによって解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

子ども・青年に対して高い倫理観と人権尊重の理念に根ざした尊敬の態度で関わっていく自律的行動力を持っている。

教科書 /Textbooks

参加者と相談の上、決定する。
現在のところ、臨床教育学会の学会誌を使用する予定である。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に適宜、指示する。

臨床教育学【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 全体オリエンテーション
- 2回 事例検討 その1 児童期の不登校生徒の事例
- 3回 事例検討 その2 児童期の発達障害の事例
- 4回 事例検討 その3 児童期の愛着障害の事例
- 5回 事例検討 その4 思春期の不登校生徒の事例
- 6回 事例検討 その5 思春期の不登校生徒の事例
- 7回 講読演習 テキスト 第一章
- 8回 講読演習 テキスト 第二章
- 9回 講読演習 テキスト 第三章
- 10回 講読演習 テキスト 第四章
- 11回 講読演習 テキスト 第五章
- 12回 講読演習 テキスト 第六章
- 13回 実践報告の検討 その1 乳児院の実践
- 14回 実践報告の検討 その2 助産院の実践
- 15回 まとめ
- 15回 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

文献購読とその意見交流、また、参加者の実践報告の検討などを通して、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講読テキストについては報告でない場合でも必ずしっかり読み込んで、疑問点などを確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

福祉コミュニティ論【夜】

担当者名 /Instructor 坂本 毅啓 / Takeharu Sakamoto / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	◎ 福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	△ 福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

福祉コミュニティ論

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

地方創生や地域包括ケアといった流れは、改めて現代社会における地域という存在、特にコミュニティという存在が求められるようになってきている。本科目では、地域にある福祉問題について取り上げながら、具体的な解決方法としてコミュニティワークを活用して、どのように地域にある福祉問題の解決に向けた動きを作っていくのかを考える。

- ◎地域福祉に関する社会福祉学についての専門知識を修得する。
- 地域の福祉問題を分析し、それについて表現し、他者へ伝える能力を修得する。
- アカデミック・ルールに基づき自律的に地域福祉の課題の解決に向けて、考えることができるようになる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

福祉コミュニティの理解に必要な専門的知識を習得している。

【高い問題解決能力と表現力】

福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題を調査・分析によって解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

福祉コミュニティにおける人間関係に係わる諸課題について実践的な対応策を自律的に提示することができる。

教科書 /Textbooks

講義時に指示する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

志賀信夫・畠中亨『地方都市から子どもの貧困をなくす』旬報社
白波瀬達也『貧困と地域 あいりん地区から見る高齢化と孤立死』中央公論新社
岡村重夫『地域福祉論』光生館
その他、適宜講義時に提示する。

福祉コミュニティ論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第 1 回 現代社会における福祉問題【福祉問題】【福祉ニーズ】
- 第 2 回 現代社会における地域福祉【地域福祉】
- 第 3 回 地域における福祉問題①【高齢化】
- 第 4 回 地域における福祉問題②【少子化】
- 第 5 回 地域における福祉問題③【子どもの貧困】
- 第 6 回 地域における福祉問題④【障害児・者】【ノーマライゼーション】
- 第 7 回 地域における福祉問題⑤【精神保健福祉】
- 第 8 回 地域における福祉問題⑥【社会的排除】
- 第 9 回 福祉コミュニティ実践論①【社会的包摂】
- 第 10 回 福祉コミュニティ実践論②【コミュニティワーク】
- 第 11 回 福祉コミュニティ実践論③【ボランティア】
- 第 12 回 福祉コミュニティ実践論④【地域福祉調査】
- 第 13 回 福祉コミュニティ実践論⑤【地域包括ケア】
- 第 14 回 北九州における福祉コミュニティの課題【地域福祉課題】
- 第 15 回 北九州における福祉コミュニティの実践【地域福祉計画】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の課題提出.....50%、期末レポート.....50%
上記によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定・配布された資料を事前に読むようにしましょう。事後学習としては、その日に学んだことを踏まえて、受講者の周囲にある地域福祉の課題について考えたり、自ら積極的にそのような課題に関わるようにしましょう。

履修上の注意 /Remarks

双方向型の授業を予定しています。積極的な参加を望みます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

地域にある福祉問題について、コミュニティを形成し、どのようにして解決を図っていくのか、実践的に共に考えましょう。

キーワード /Keywords

社会福祉学、地域福祉、コミュニティ

司法福祉論【夜】

担当者名 深谷 裕 / 地域戦略研究所
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	非行や犯罪と社会および福祉の関係性に関する専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	司法福祉に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	司法福祉と福祉制度・実務に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

司法福祉論

授業の概要 /Course Description

非行や犯罪にかかわるあらゆる現象について、司法福祉をキーワードに、主に心理社会的及び福祉的視点から検討していく。地域性、文化、価値観はもちろんのこと、司法制度、教育制度、医療制度、雇用制度、福祉制度等さまざまな社会制度のあり方が、非行や犯罪にどのように関わっているのかを理解する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

福祉的にかかわりの必要な触法者に対する関わりや制度について理解している。

《高い問題解決能力と表現力》

触法者にかかわる地域課題について、複数の視点から検討し整理することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

犯罪者のない社会に向けて必要な要素を提示することができる。

教科書 /Textbooks

授業中に紹介する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

加藤博史/水藤昌彦編「司法福祉を学ぶー総合的支援による人間回復への途」(ミネルヴァ書房 2013年)

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 犯罪や非行に対するとらえ方
- 第3回 歴史の中の司法福祉
- 第4回～7回 司法福祉の理論と実践
- 第8回～12回 司法福祉に関わる制度と組織
- 第13回～14回 司法福祉の国際比較
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点70%および期末レポート30%により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

予習内容を指定するので、必ず目を通して授業にのぞむこと。

基本的には講義形式の形態をとるが、受講数が少ない場合は、参加型の形態をとりつつ進めて行く。

司法福祉論 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

フィールドワーク論 【夜】

担当者名 /Instructor 竹川 大介 / Takekawa Daisuke / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	諸文化の相対性と、人類の生物学的普遍性に関する最新の研究をリファアーする。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	◎	参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査を遂行できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと展開する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

フィールドワーク論

授業の概要 /Course Description

人類学や社会学など社会科学の分野で広くおこなわれている質的調査の方法論のひとつであるフィールドワークについて書籍や実地のデータを用いながら学習する。各自の研究テーマを題材にして、フィールドでのデータの収集・考察の手法を学ぶ

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

フィールドワークに必要な専門的知識を持っている。

【高い問題解決能力と表現力】

参与観察とインタビューを通してフィールドワークに基づく長期の質的調査によって課題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

フィールドワークでえられた知見を分析し、個別具体的な事例から人間性の諸問題に関する普遍的な議論へと主体的に展開することができる。

教科書 /Textbooks

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の研究テーマを考慮し文献を選択する。

フィールドワーク論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1講 研究テーマの確認とオリエンテーション
- 第1講 フィールドワークに関する基本的文献
- 第2講 実際のデータの活用のされ方と分析手法
- 第3講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【基礎】
- 第4講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【実践】
- 第5講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション1 【応用】
- 第6講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【基礎】
- 第7講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【実践】
- 第8講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション2 【応用】
- 第9講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【基礎】
- 第10講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【実践】
- 第11講 文献のプレゼンとそれに基づくディスカッション3 【応用】
- 第12講 各自の研究に関するディスカッション
- 第13講 各自の研究に関するプレゼンテーション
- 第14講 問題点の抽出
- 第15講 全体のまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

- ディスカッション 70%
 - レポート 30%
- 上記の成果によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あたえられた文献を読み発表の準備をすること。議論の結果を考察にまとめていくこと

履修上の注意 /Remarks

- 毎回、事前に必要な文献を読んでおくこと。
- 実際の調査データを収集する

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

最先端の研究にふれましょう

キーワード /Keywords

- フィールドワーク
- 社会調査

臨床社会学【夜】

担当者名 /Instructor 西田 心平 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	△ 臨床現場の諸課題や実践にかかわる専門的知識を備える。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○ 臨床現場の諸課題や実践について社会的に調査・分析できる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎ 臨床現場の社会的な考察を踏まえ、実践的な対応策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

臨床社会学

授業の概要 /Course Description

社会学の一つのアプローチをなす「臨床社会学」の考え方について学ぶ。「逸脱の社会学」や「社会問題の社会学」では、何がどう議論されてきたのか。こうした論点を整理しながら、社会問題研究の先端に位置づく臨床社会学の可能性について議論する。

DPに基づく3つの到達目標

- < 高度な専門的知識・技能 >
- 社会病理学や逸脱の社会学の論文等を読むことができる。
- < 高い問題解決能力と表現力 >
- 自分の研究関心とかわらせながら議論することができる。
- < 高い倫理観に基づいた自律的行動力 >
- 受け身の学習ではなく進んで臨床社会学の研究を調べることができる。

教科書 /Textbooks

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

受講者の研究テーマに応じて適宜紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 テーマの設定
- 2回 臨床社会学の議論の概要
- 3回 研究文献の選定①
- 4回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 5回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 6回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 7回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 8回 中間まとめ
- 9回 研究文献の選定②
- 10回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 11回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 12回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 13回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 14回 プレゼンテーションおよびディスカッション
- 15回 全体のまとめ

臨床社会学 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

ディスカッション…100%
シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

講義の理解に有益な読書、映像視聴等をおこなうこと。

履修上の注意 /Remarks

発表者はプレゼンテーションの準備を入念に取り組んでください。
参加者は事前にディスカッションに必要な資料を各自で集めて準備してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

環境社会学【夜】

担当者名 /Instructor 岩松 文代 / IWAMATSU FUMIYO / 人間関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	人間の基本的特性について理解を深めていくために、個人や集団に関する理論的な枠組みを学習し、社会的・文化的諸課題に関する専門的知識を備える。	○	人間社会と自然環境・文化的環境に関する専門知識を習得する。
技能	人間関係に係わる諸課題を見定め、調査・分析できる。	○	人間社会と自然環境・文化的環境に関する調査・分析ができる。
態度	人間関係に係わる諸課題を見定め、整理し、実践的な対応策を提示できる。	◎	人間社会と自然環境・文化的環境に関する問題や対策を提示できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

環境社会学

※地域コミュニティ専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

自然環境のなかでも、とくに日本の風土を特徴づける森林環境を主な対象とする。「森林」環境の関係領域は広く、広義の概念である「やま(山)」、さらに森や杜、林業・林産業、竹林、原野、山村などの要素も含まれている。この演習では、文献講読によって、森林に関わる生活様式や民俗慣習、農山村の集落社会、農林業経済や政策などの実態把握を行い、森林に関する様々な人間社会の営みから文化を読み取れるようになることが目標である。

《高度な専門的知識・技能》

自然と人間の関係について各自の研究領域の知識を広げることができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自然環境と人々を調査して実態や課題を明らかにすることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自主的に研究テーマを設定し、客観的で有意義な考察を導くことができる。

教科書 /Textbooks

各自の関心テーマにあわせて選択する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

各自の関心分野に合わせて適宜、紹介する。

環境社会学 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 研究分野のガイダンス、文献の選択と進め方の決定
- 2回 森林と文化に関わる研究史、研究方法と研究倫理
- 3回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 4回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 5回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 6回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 7回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 8回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 9回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 10回 森林と文化の新しい研究について
- 11回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 12回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 13回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 14回 文献講読（文献の読み取りと討論）
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

討論への参加状況を含めた平常点（50％）と事前調査を含めた発表内容（50％）によりシラバスの到達目標にどの程度到達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

森林（山林）、林業、山村（農村、村）等をキーワードに、関心のある分野の文献を各自で読み進めていくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究概論 【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科, アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に必要な高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

歴史的な視点、現代的な視点の両方からイギリス文学を研究、分析していくための基礎的な素養を獲得することを主目的とする。文学は大きく詩、劇、小説に分けられるが、Hailesが劇を、木原が詩を、田部井が小説を担当する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

イギリス文学研究に必要な高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

イギリス文学研究に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

イギリス文学研究に関する課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

特に中心に置くテキストはないが、毎回ハンドアウトを用意する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

講義の中で適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回目 (Hailes) Introduction to Shakespeare: Theatre and the Renaissance Imagination
- 2回目 (Hailes) Shakespeare and Gender: Twelfth Night
- 3回目 (Hailes) Shakespeare and Sexuality: A Midsummer Night's Dream
- 4回目 (Hailes) Shakespeare and Sovereignty: Richard III
- 5回目 (Hailes) Shakespeare and Pleasure: Macbeth
- 6回目 (木原) W. B. Yeats: Introduction
- 7回目 (木原) W. B. Yeats、前期ケルトの薄明の詩
- 8回目 (木原) W. B. Yeats、後期象徴主義詩
- 9回目 (木原) W. B. Yeatsとアイルランド、ナショナルアイデンティティー
- 10回目 (木原) W. B. Yeatsと能
- 11回目 (田部井) 導入： D.H.Lawrence 全般について
(イギリス小説全般の中の異端児として：階級、性、ジェンダー、エコロジー)
- 12回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第一の島)
- 13回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第二の島)
- 14回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (第三の島)
- 15回目 (田部井) "The Man Who Loved Islands" を読む (まとめ)

イギリス文学研究概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

各教員が3分の1ずつ評価し、最終的にそれを合計する。各教員により課題や小テストなどの方法は異なる。

シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

【事前】担当教員によって課せられた作品を読み、それについて発表できる用意をすること。

【事後】授業でのディスカッションを振り返り、自分の考えを再考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文学研究概論 【夜】

担当学者名 /Instructor アーノルド・ウェイ / ARNOLD Wayne E. / 英米学科, 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科
齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ文学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学の全体像を理解してもらい、アメリカ文学に関する研究方法と専門的知識を身に付ける。
DPに基づく3つの到達目標は以下の通りである。

知識・理解

英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。

◎アメリカ文学に関する専門的知識を広範に修得する。

技能

高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。

◎アメリカ文学に関する専門的な研究方法と分析手法を修得する。

態度

専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

○アメリカ文学が有する先見性に対する理解を深める。

教科書 /Textbooks

1回目からは5回目まではプリントを使用してを、6回目から10回目まではOf Mice and Men (John Steinbeck) 南雲堂 (ISBN: 9784523054160)を、11回目から15回目まではThe Turn of the Screw (Henry James) W. W. Norton & Co. (ISBN: 9780393959048)を使用するので事前にアマゾンや生協で発注して購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- | | | |
|------------------|-------------|-------|
| ○『アメリカ文学思潮史』 | 福田陸太郎 | 中教出版 |
| ○『アメリカ文学史 1、2、3』 | 亀井俊介 | 南雲堂 |
| ○『アメリカ文学必須用語辞典』 | スティーブン・マタソン | 松柏社 |
| ○『アメリカ文学案内』 | 寺門泰彦/渡辺信二 | 朝日出版社 |

必要に応じて、各担当教員からも別途、参考書リストが配布される場合がある。

アメリカ文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1	アメリカ小説研究	オリエンテーション/ Stephen Crane: "An Experiment in Misery"
Week 2:	アメリカ小説研究	Jacob Riis: from How the Other Half Lives
Week 3:	アメリカ小説研究	Henry Miller: "The Fourteenth Ward"
Week 4:	アメリカ小説研究	Vladimir Nabokov: "Signs and Symbols"
Week 5:	アメリカ小説研究	Edith Wharton: "After Holbien"
Week 6	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の暴力描写の特徴
Week 7	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の女性描写の特徴
Week 8	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の過去の位置づけ
Week 9	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の読者に対する戦略
Week 10	アメリカ小説研究	Of Mice and Men の叙述の戦略性について
Week 11	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の語りの構造
Week 12	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の幽霊表象
Week 13	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の女性表象
Week 14	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw におけるジェンダー問題
Week 15	アメリカ小説研究	The Turn of the Screw の映像化作品の分析

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み...100%
以上により、シラバスの到達目標の達成度を判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前には、教員から与えられた課題を行うこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

三人の教員のリレー講義の形を取るため、授業計画に多少の変更が生じる可能性があります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

American literature
Modernism
Literary studies

英語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語学に関する知識を持ち、研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		英語学研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義は英語という言語を様々な視点から観察し、英語学研究に必要な基本的知識と理論を受講生が習得することを目的とする。英語史（英語の歴史）、英語音声学（英語の発音・強勢・リズム・イントネーション）、音韻論（英語発音の規則）、社会言語学（英語の地域変種・社会変種、英語の変化）等の分野に焦点を当てる。各研究分野の基本的理論を理解し、英語学研究分野に関する知識を深めることを目指す。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

英語学研究に必要な基本的知識と理論を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

英語という言語を様々な視点から観察することができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

理論に基づき、受講生自らが分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

（予定）山内信幸・北林利治 共編著（2014）『現代英語学へのアプローチ』英宝社。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介します。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 インTRODクシヨN
- 2回 地球語としての英語・英語の誕生
- 3回 近代英語の誕生
- 4回 英語の新大陸への進出
- 5回 英語の地域的変種
- 6回 英語の地球的拡散
- 7回 英語の社会的変種I (社会階級 ; 年齢)
- 8回 英語の社会的変種II (性差)
- 9回 英語の音声と音韻の仕組み
- 10回 英語の語彙と意味
- 11回 英語の文構造-生成文法の観点から-
- 12回 研究発表(1)
- 13回 研究発表(2)
- 14回 研究発表(3)
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況（50%）、レポート（50%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

英語学研究概論 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語教育学に関する高度な知識を身に付け、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。

【高い問題解決能力と表現力】

理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、高度な英語力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

英語教育法研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Assessment (JLH & NY)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention and noticing (JLH)
 Week 6: Vocabulary (JLH)
 Week 7: Second Language Pragmatics (JLH)
 Week 8: Explicit and Implicit Learning (NY)
 Week 9: Corrections and recasts (NY)
 Week 10: Individual differences (NY)
 Week 11: Social approaches (NY)
 Week 12: Diversity in EFL classrooms (NY)
 Week 13: Teacher development I (ICT skills) (NY)
 Week 14: Teacher development II (Literature in EFL classroom) (NY)
 Week 15: Presentations of research papers(JLH & NY)

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper: 40%
 In-class participation & discussion:10%
 Presentations (2):20%
 Weekly quizzes: 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare every week by reading the chapter. Then we will have a quiz in class the following week. You will also choose a research topic early in the semester and work on a paper throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○	英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

英語表現法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
 Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
 Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
 Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
 Week 5: Research paper literature review
 Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
 Week 7: Research paper Questions & Variables
 Week 8: Research paper Participants & Materials
 Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
 Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
 Week 11: Data analysis & data commentary language focus
 Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
 Week 13: The evil of Power Point (informational design)
 Week 14: Getting published
 Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

- 《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
- 《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
- 《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

現代イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(イメージの起源)
- 3回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(死)
- 4回 イメージの起源(死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵)(再生)
- 5回 文学テキストへの応用(Charles Dickens)
- 6回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(イメージと神話)
- 7回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(歴史)
- 8回 芸術の神話(果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学)(古代芸術)
- 9回 文学テキストへの応用(P. B. Shelley)
- 10回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(スペクトル)
- 11回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(映像)
- 12回 スペクトル後(ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法)(遠隔視)
- 13回 文学テキストへの応用(W. B. Yeats)
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文化研究 【夜】

担当者名 アダム・ヘイルズ / Adam Hailes / 英米学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立つ能力を修得する。	○ イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 国々の間の文化、考え方を交換するための架け橋となる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス文化研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

The purpose of this course is to direct students through an exploration into the relationships that exist between the theatre of Shakespeare and Renaissance society. This exploration will take place in an English language environment. A Shakespearean tragedy will be selected to serve as the base from which to conduct research into Renaissance culture. The initial twelve classes will focus upon analysis of the primary source alongside reference to historical/socio-historical events and key texts in the field of literary criticism. The final three classes will follow a similar format, but will be led by students. Instruction in English for Academic Purposes will constitute a further component of the course.

On successfully completing the course students will be able to conduct new historicist investigations into Renaissance literature and communicate the process and outcome of such investigations in academic presentation and thesis formats.

DPに基づく3つの到達目標

知識・理解：イギリス文化、社会、歴史を理解した上でシェイクスピア演劇の分析ができるようになる。

技能：国際的に認められる論文が英語で書けるようになる。

態度：国々の文化、考え方を交換出来る架け橋となる。

教科書 /Textbooks

Shakespeare, William, Complete Works (The RSC Shakespeare), ed. by Jonathan Bate and Eric Rasmussen (Basingstoke: Macmillan, 2007)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

A required reading list (secondary sources) will be available prior to the first class.

イギリス文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Class 1: Introduction – ‘Reading’ Shakespeare
Class 2: Performance in Elizabethan England 1: The Rules
Class 3: Performance in Elizabethan England 2: The Stage
Class 4: Audiences in Elizabethan England 1: Society
Class 5: Audiences in Elizabethan England 2: Education
Class 6: Politics and the Play
Class 7: Gender and the Play
Class 8: Renaissance Revenge 1: Key Texts
Class 9: Renaissance Revenge 2: Key Structures
Class 10: Performance Text as a Cultural Document 1: Gender
Class 11: Performance Text as a Cultural Document 2: Power
Class 12: Review
Class 13: Student-Led Group Discussion: Text and Performance
Class 14: Student-Led Group Discussion: What is real?
Class 15: Student-led Group Discussion: The Director’s Problems

成績評価の方法 /Assessment Method

A 2000-word report to be submitted as the course concludes ... 100%
This evaluation plan will be used to assess the degree to which the student has fulfilled the goals of the course as listed in the course description above.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Preparatory reading will be assigned on a regular basis.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイン / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 / 2年
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度

/Year of School Entrance

2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
					○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
 Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。	
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ文学研究	

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critica Edition ISBN: 978-0-393-96640-4

受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫

原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。

(他 の 文 庫 本 は、原 書 の 一 部 を 割 愛 し た 形 で の 翻 訳 と な っ て い る。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ文化研究 【夜】

担当者名 /Instructor 齊藤 園子 / SAITO SONOKO / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	アメリカの文化に関する高度な知識を身に付ける。	
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバル社会の諸課題に主体的に向きあえるようになる。	
			アメリカ文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

批評理論の読解に続いて短編を読み進め、多文化社会アメリカの様々な声に耳を傾けることで、民族、人種、性、言語、宗教、思想など多様な文化的背景を持つ個人や集団が共存する社会と、その社会における文化的アイデンティティの在り方について理解を深めることを目指します。必要に応じて映像資料を使用します。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカの文化に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

あらゆる資料を駆使し適切に分析して研究上の問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

グローバル社会の諸課題に自律的かつ主体的に向きあうことができる。

教科書 /Textbooks

Robert J. C. Young. Postcolonialism: A Very Short Introduction. Oxford UP, 2003.

※教科書の購入方法は第1回目の授業内で指示します。

※教科書はあらかじめ各自で入手しても構いません。その場合は授業開始時までにある程度読み進めておくことを奨励します。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○アーニャ・ルーンバ著、吉原ゆかり訳『ポストコロニアル理論入門』

○本橋哲也『ポストコロニアリズム』

その他、適宜、授業内で指示します。

アメリカ文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN (授業の概要、成績評価方法などの説明)
- 第2回 Introduction: Montage
- 第3回 Chapter 1: Subaltern Knowledge
- 第4回 Chapter 2: History and Power, From Below and Above
- 第5回 Chapter 3: Space and Land
- 第6回 Chapter 4: Hybridity
- 第7回 Chapter 5: Postcolonial Feminism
- 第8回 Chapter 6: Globalization from a Postcolonial Perspective
- 第9回 Chapter 7: Translation
- 第10回 Kate Chopin: "Desirée's Baby"
- 第11回 Charlotte Perkins Gilman: "The Yellow Wall-Paper"
- 第12回 Leslie Marmon Silko: "The Man to Send Rain Clouds"
- 第13回 Thomas King: "Borders"
- 第14回 Do the Right Thing (film)
- 第15回 Review

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の授業への取り組み・小テスト ...60%
 発表 ...40%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業開始前までに、予め各回に扱う内容について準備すること
 また授業終了後には、授業の内容を反復し課題等に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

履修者には十分な英文読解力が身に付いていることが期待されます。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

各回で扱う英語文献は必ず読んだ上で授業にのぞんでください。
 授業は議論形式で進めるため、議論に積極的に参加してください。

キーワード /Keywords

ポストコロニアル理論、多様性、文化的アイデンティティ

社会言語学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 平野 圭子 / Keiko Hirano / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 社会言語学に関する知識を持ち研究者として社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 社会言語学の知識を持つ専門的職業人として資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 社会言語学の知識を生かし、社会が抱える課題を主体的に解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		社会言語学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では言語と社会の係わりを様々な視点から考え、社会言語学概念や理論を踏まえた上で、日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉え、受講者自らが調査・分析する力を身につけることを目的とする。実際の言語使用に基づいた研究事例を取り上げ、社会言語学的視点から考察する。また言語調査を行なうために必要な言語データの収集・分析など方法論の基礎を学ぶ。さらに受講者が各自言語調査を行い、授業時に研究テーマに基づいた方法論、調査結果、問題点等を発表し全員で議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

社会言語学概念や理論を理解する。

《高い問題解決能力と表現力》

日常的な言語現象を社会言語学的視点で捉えることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

受講者自らが調査・分析する力を身につける。

教科書 /Textbooks

(予定) 岩田祐子・重光由加・村田泰美 (2013). 『概説 社会言語学』. ひつじ書房
または Miriam Meyerhoff. (2011) Introducing Sociolinguistics, 2nd ed. Routledge.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ Miriam Meyerhoff, Erik Schleeff and Laurel MacKenzie. (2015) Doing Sociolinguistics: A practical guide to data collection and analysis. Routledge.
その他の文献は授業時に紹介します。

社会言語学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イン트로ダクション
- 2回 言語と地域
- 3回 言語と社会階級
- 4回 言語と民族
- 5回 言語とジェンダー
- 6回 言語と年齢
- 7回 言語の選択
- 8回 学生による第1回研究報告：先行研究(1)
- 9回 言語の状況差・適切さ
- 10回 学生による第2回研究報告：先行研究(2)
- 11回 ポライトネス
- 12回 学生による第3回研究報告：方法論
- 13回 会話のしくみ
- 14回 学生による第4回研究報告：結果
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

研究発表・平常の学習状況(50%)、レポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

『英語学研究概論』を受講すると、本講義の理解がより深いものとなります。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

英語通訳研究 【夜】

担当者名 伊藤 健一 / Kenichi ITO / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○ 通訳として立っていくに必要な高度な語学力、多岐にわたる背景知識を身に付け、国際的な感性を養う。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 通訳に必要な技能を身に付け、一定の条件下で適格な通訳を行なうことができる技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎ 通訳の自覚をもって、グローバル社会におけるコミュニケーターとして、また異文化コンサルタントとして務められる奉仕の姿勢を身に付ける。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		英語通訳研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、「通訳」を理論的に考察することを目的としています。通訳といっても、ここではおもに英語と日本語の間での通訳について、そのメカニズムを分析し、そこで起こっていることをコミュニケーションの立場から見つめ、通訳理論を検証し言語学的に分析したりといった理論的な側面を中心に取り組んでいきたいと思えます。ただし、受講生の中に日本語以外の言語を母語とする人がいる場合、その言語をも含めた通訳についても考えていきます。こうしたことを念頭に置いた上で、わかりやすい通訳とはどのような通訳なのか、そのためにはどのようなことに配慮したらよいのかなど、通訳者として務めていくために考えなければならない様々な問題についても検討し、ディスカッションしていきます。ただし、この分野は音楽やスポーツと同様で、実技を伴わない考察は深まりませんので、通訳訓練を体験してもらうことも予定に組み込みます。もちろん受講者ごとに通訳経験や能力も異なると思えますが、こうした点は配慮します。また、通訳訓練法や通訳理論を英語教育に应用すること、背景知識、特に政治・経済・国際情勢等について学ぶことも、この授業の研究課題としたいと思えます。

以上を踏まえ、この授業では、①通訳という業務、通訳者の役割を学ぶ、②通訳理論、通訳に必要なスキルを学び、必要な実践を行なう、③通訳に必要な背景知識を身につける、といったポイントを到達目標と位置付けて取り組んでいきたいと思えます。

教科書 /Textbooks

参加者の経験やレベルを確認の上、プリント教材を用意します。受講者と相談の上で授業計画を再度見直すことがありますので、以下の計画通りに展開しない可能性があります。ご了解ください。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

年4回刊行される雑誌『通訳翻訳ジャーナル』(イカロス出版)、また、向 謙治郎、丸山 祥夫(著)『中学英語で通訳ができる』(ジャパントイムズ)などは参考になると思えます。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第01回 オリエンテーション
- 第02回 異文化間コミュニケーションとしての通訳
- 第03回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(1)：コミュニティー通訳、等
- 第04回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(2)：会議通訳、ビジネス通訳、等
- 第05回 通訳の諸形態とそこで求められるもの(3)：医療通訳、法廷通訳、等
- 第06回 アジアにおける通訳事情とリレー通訳
- 第07回 通訳者養成のための訓練法概説
- 第08回 通訳者養成のための訓練法の実践
- 第09回 リスニングの考察
- 第10回 ノートテキングの理論と実践
- 第11回 背景知識を学ぶ(1)：ニュース記事から政治・経済について学ぶ
- 第12回 背景知識を学ぶ(2)：ニュース記事から国際情勢について学ぶ
- 第13回 背景知識を学ぶ(3)：ニュース記事から諸情報を得る
- 第14回 通訳の実践演習
- 第15回 全体のまとめ

※ただし、これらの内容は参加者の過去の経験や実技能力に応じてかなり変更される可能性がありますので、ご了解下さい。

英語通訳研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への出席を前提に、授業時のディスカッションや実技への積極的参加の度合いを総合的に評価します。
発表および実技100%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

プリント教材は事前に配布しますので、前もって準備して参加して下さい。また、実技能力を高めるためにも、しっかり復習および事後の練習をお願いしたいと思います。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

これまで通訳について、基礎的な学習をしたことのある方もない方も、また実戦した経験をお持ちの方もお持ちでない方もありだろうと思います。このあたりは履修される皆さんの実態に合わせて配慮しますので、不安を感じられる方も積極的にご参加下さい。

キーワード /Keywords

中国語法研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木村 裕章 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈できる能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	積極的に言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から研究課題を取り込んで、実践する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語法研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国言語文化領域及び他専攻の院生として、将来の研究と仕事に役立てる基本的な文法知識を確認しながら、日中対照の視点から現代中国語の文法規則を説明、理論的な解釈を理解した上で、実践的な練習を通じて、中国語の研究・教育能力を身につける。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国語文法研究に関する基礎理論・知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代言語学の方法で文法構造を分析でき、中日両言語文法構造の異同について解釈することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

言語類型学及び第二言語習得・教育の視点から主体的かつ積極的に研究課題を取り込んで、実践することができる。

教科書 /Textbooks

資料を配付する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 王 占華 他 『中国語学概論』（改訂版）駿河台出版社
- 王 占華 『語義蘊涵与句法結構及語語理解』朋友書店
- 朱 徳熙 『語法講義』（中国語原書と日訳）白帝社
- 大河内康憲編 『日本語と中国語の対照研究論文集（上・下）』くろしお出版
- 漢語対比言語学研究会 『漢語語言対比研究論叢4』北京大学出版社

中国語法研究概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 中国語法研究概説（日本語と中国語における文法の違い）
- 第2回 構造主義言語学と構造主義文法（中国語への応用）
- 第3回 認知文法と中国語文法研究（認知モデルと文法規則）
- 第4回 「配価（結合価）文法」と中国語文法研究（語彙研究との関連性）
- 第5回 語義特徴分析理論と中国語文法研究（意義素と文構成）
- 第6回 格文法と中国語文法研究（格の種類、外国語習得への応用）
- 第7回 生成文法理論と中国語文法研究（普遍文法、句構造と変形、中国語への応用）
- 第8回 機能文法と中国語文法研究（中国語の情報構造、主題）
- 第9回 語用論と中国語文法研究（発話行為、異文化コミュニケーション）
- 第10回 これまでの重要な研究（著作・論文の紹介と問題点）
- 第11回 現代中国語文法研究における課題1（品詞分類）
- 第12回 現代中国語文法研究における課題2（動詞の分類）
- 第13回 現代中国語文法研究における課題3（主題について）
- 第14回 現代中国語文法研究における課題4（課題の考察と発表）
- 第15回 文法研究の今後の展望・まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発表・コメント50%、期末試験50%によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

第1回目の授業以降に配布する資料について事前に読み込みをしておく。また、次の回までに与えられた課題について調査・分析を行い、提出の準備をする。

履修上の注意 /Remarks

自分の外国語習得実践を参考にし、非母語者に中国語を教える実践を想定して、中国語文法の理論的なレベルアップと実用能力を身につけることに心がける。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

言葉は思考とコミュニケーションの道具であり、文法は言語を構築する規則である。専攻分野に関係なく、研究を進め論文を作成する上で、文法理論とその運用能力が欠かせない。本講義は、中国語や言語学の知識・教育能力を身につけるための基礎を固めると同時に、広い視野から積極的な思考・問題提起など行うことを望んでいる。

キーワード /Keywords

現代中国語文法 文法理論 比較文法 文法の習得と教育

中国思想文化研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 板谷 俊生 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国思想文化に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国思想文化研究概論

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

清末から中華民国時代の1910年代、20年代30年代における中国思想文化運動について概説する。特に各時期を代表する思想家・作家および彼らの作品を通して、中国の思想文化状況をみていく。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国思想と文化理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国語と古文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国思想文化に関するグローバルな課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

プリント教材

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

随時指示する

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：清末の思想文化状況の概観について
- 第2回：清末の政治状況について
- 第3回：張之洞の留学政策について
- 第4回：清末の留学政策と日本の留学生受け入れ態勢について
- 第5回：梁啓超の亡命および『論小説と群治之關係』と日本の政治小説について
- 第6回：胡適の『文学改良芻議』と五四文化運動について
- 第7回：陳独秀の『文学革命論』五四運動の意義について
- 第8回：魯迅の登場～初期の思想と日本留学について
- 第9回：魯迅の『狂人日記』の意義について
- 第10回：魯迅の『阿Q正伝』と清末民国初の文化社会について
- 第11回：魯迅の『薬』と清末の思想家秋瑾について
- 第12回：五四退潮期と魯迅の「彷徨」について
- 第13回：郁達夫『沈淪』～留日学生の悲哀について
- 第14回：田漢の戯曲から見る民国初期の社会状況について
- 第15回：文学研究会と創造社について

中国思想文化研究概論【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート・・・50%、 授業時における発表・・・50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

配布されたプリント教材および授業中に指摘した文献についてその都度学習を深めてもらいたい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

中国哲学史研究【夜】

担当者名 /Instructor 竹村 則行 / 北方キャンパス 非常勤講師

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎	現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国哲学史に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国哲学史研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業は、儒教の大祖である孔子の生涯を連環画風に描いた『孔子聖蹟図』の和版を詳しく読むことによって、中国文化のあり方、明清代や朝鮮での孔子理解の違い、日本での受け止め方の特徴等について、種々の画像や説明文から学ぶことを目的とする。演習では、早期の日本刊本である「孔子聖蹟之図」（1608慶長13年、嶋津家久跋刊）を中心に読み進める。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国哲学と思想史理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代中国語と漢文の中国思想に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国哲学史に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

『孔子聖蹟図』和版集成、280頁。竹村則行編。2014年2月、花書院。
履修生に無料配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○『孔子画伝 聖蹟図にみる孔子流浪の生涯と教え』（加地伸行著、集英社、1991年3月）

中国哲学史研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 一、はじめに 『孔子聖蹟図』簡史解題、授業の進め方の説明。
 以下、上記『孔子聖蹟図』和版集成の2-44頁に影印する「孔子聖蹟之図」を底本として、各講時毎に担当者に、図像の解釈、小文の解釈について発表してもらう。授業の後半は、参加者全員で討論する。
- 二、「孔子聖蹟之図」2-4頁。
 三、「孔子聖蹟之図」5-7頁。
 四、「孔子聖蹟之図」8-10頁。
 五、「孔子聖蹟之図」11-13頁。
 六、「孔子聖蹟之図」14-16頁。
 七、「孔子聖蹟之図」17-19頁。
 八、「孔子聖蹟之図」20-22頁。
 九、「孔子聖蹟之図」23-25頁。
 十、「孔子聖蹟之図」26-28頁。
 十一、「孔子聖蹟之図」29-31頁。
 十二、「孔子聖蹟之図」32-34頁。
 十三、「孔子聖蹟之図」35-37頁。
 十四、「孔子聖蹟之図」38-41頁。
 十五、「孔子聖蹟之図」42-44頁。全体のまとめ。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業時の発表50%、授業時の質問等の授業態度50%。
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講生は、教科書に影印する他の聖蹟図はもちろん、その他の関連資料について、図書館、スマホ等を通じて自主的に幅広く予習復習することを希望する。

履修上の注意 /Remarks

教材の中国文は、日本独特の訓読文読解を学習する。特に外国人留学生は違和感が大きいかも知れないが、この機会に日本伝統の読解法を学習してもらいたい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

この授業では孔子に関する図像や漢文について学びます。その背景には儒教があり、中国・日本・朝鮮その他外国における理解の仕方の微妙且つ大きな違いがあります。日本人・外国人学生を問わず、受講生自らが真摯に問いかけ、大きな展望が開けることを期待します。

キーワード /Keywords

孔子 聖蹟図 図像 漢文 儒教

中国古典文学研究【夜】

担当者名 武井 満幹 / 中国学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国文学の漢文資料を使い、分析・研究できる技能を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	中国文学全般に関するグローバルな課題を解決する能力を修得する。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国古典文学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『三国志演義』に引用されている三国時代の詩文を読み、その作品の特徴や物語展開上の役割などを考察する。それとともって、(1)作品を読んだり引用したりする際のテキスト選定、(2)作品を読む時の注意、(3)三国時代の詩文を多く収録する『文選』、(4)日本で中国の詩文を読む際に用いられてきた漢文訓読、などについて学ぶ。ほかに中国文学の日本における影響、展開についてもふれる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

中国古典文学理解に必要な基礎的専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

中国古典文学に関する資料を使い、分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

中国古典文学全般に関するグローバルな課題に自律的かつ主体的に向き合うことができる。

教科書 /Textbooks

プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『詩歌三国志』（松浦友久、新潮社 [新潮選書]、1998年）
- 『「三国志」漢詩紀行』（八木章好、集英社 [集英社新書]、2009年）

ほか。

※作品を読む際に参考にすべきものについては授業中に適宜紹介する。

中国古典文学研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 『三国志』、『三国志演義』について / 建安文学、『文選』について
 第2回 『三国志演義』第四十八回
 第3回 曹操「短歌行」(『文選』巻27)
 第4回 『三国志演義』第二十二回
 第5回 陳琳「為袁紹檄劉予州」(『文選』巻44)
 第6回 『三国志演義』第七十九回
 第7回 曹植「七步詩」(『世説新語』文学、『太平広記』巻173など)
 第8回 『三国志演義』第四十四回
 第9回 曹植「登台賦」(『三国志』裴松之注引『魏紀』)
 第10回 『三国志演義』第九十一回
 第11回 諸葛亮「出師表」(『文選』巻37)
 第12回 諸葛亮「後出師表」(『三国志』裴松之注)
 第13回 『三国志演義』第七十八回
 第14回 曹操「遺令」(『三国志』魏書・武帝紀、『宋書』礼志ほか)
 第15回 【番外編-中国古典の日本における影響】日本の漢詩文
 注．以上のように予定しているが、順番や取り上げる作品は変わることがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への取り組み(50%) + レポート(50%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業中に紹介する参考書等を利用して、理解を深めて下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

読んだり、調べたり、解釈したりしてもらふことがある。

キーワード /Keywords

三国志演義、三国志、文選、建安文学、漢詩・漢文

中国語音声学研究【夜】

担当者名 平田 直子 / HIRATA NAOKO / 中国学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	中国語学（音声学）の理解に必要な基礎的専門的知識を習得する。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語学（音声学）関連の資料を活用した調査研究能力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	現代中国語の音声現象に対して関心を深めることができる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			中国語音声学研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本授業では以下のことを学習目標とします。

- ①一般音声学、中国語音声学の基礎的知識を身につける。
- ②上記①の基礎的知識をもとに、中国語（普通話）の発音の変遷について学ぶ。
- ③興味のあるテーマを決め、学期末にレポートを書いて提出する（必要な関連資料を収集する能力を身につけ、自分の意見・主張を論理的に展開することが大切）。

教科書 /Textbooks

- ①『中国語音声学概説』佐藤昭編著 2020年 購入については、授業時に指示をする。
- ②必要に応じて資料を配布する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『中国語音学史 中古音から現代音まで』 佐藤昭著 白帝社 2002年
- 『中国語の歴史』 大島正二 大修館書店 2011年
- 『アタマで知り、カラダで覚える中国語の発音』 日下恒夫著 アルク 2007年
- 『日本語母語話者に対する中国語発音教育の理論と実践』 松本洋子著 早稲田大学出版部 2012年
- 『教師のための中国語音声学』 平井勝利著 白帝社 2012年

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

授業計画は以下の通りである。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 音声学の基礎知識(1)――発音器官――
- 第3回 音声学の基礎知識(2)――言語音と音声記号――
- 第4回 中国語の声母とその発音
- 第5回 中国語の韻母とその発音
- 第6回 中国語の古代音と現代音(1) 中国語の古今の発音が違うということ
- 第7回 中国語の古代音と現代音(2) 数詞の発音の歴史的变化
- 第8回 中古音から現代音への変化(1) 中古音とは
- 第9回 中古音から現代音への変化(2) 中古以後の主な音韻変化
- 第10回 中国語の方言音と方言区分(1) 方言区分
- 第11回 中国語の方言音と方言区分(2) 方言音
- 第12回 発表
- 第13回 発表
- 第14回 発表
- 第15回 まとめ

中国語音声学研究【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業への取り組み(発表)・・・50%、レポート・・・50%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に、テキストに目を通し予習してください。

事後学習については、図書館で授業内容に関連する論文や書籍を探し、次の発表の参考にしてください。

履修上の注意 /Remarks

中国語学習経験を有することが望ましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

まずは基礎的な知識を身につけ、この分野における研究方法について学びましょう。

キーワード /Keywords

中国語 声母 韻母 声調 音節 発音

中国語教育論研究【夜】

担当者名 /Instructor 胡 玉華 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	中華文化圏の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	○	中国語教育に関する必要な専門知識を身につける。
技能	高度な中国語力を持つ中国研究の専門家として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	中国語教育を論じるに必要な研究能力を修得する。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	◎	グローバルな視野で中国語教育の問題を解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

中国語教育論研究

※文化・言語専攻（中国言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

授業の概要

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論に基づいた外国語教育の研究及び実践を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門的知識・技能】

教授学習心理学、認知心理学、第二言語習得理論をベースにした外国語教育に関する研究論文及び実践報告を読む・理解することができる。

【高い問題解決能力と表現力】

外国語教育に関する実践報告を参考に、日本における中国語教育の問題を考え、その解決方法を提案することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

必要に応じて、アンケート調査や実践授業を行うことができる。

教科書 /Textbooks

随時プリント配布。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

胡玉華 『中国語教育とコミュニケーション能力の育成』 東方書店、2009

村野井仁 『第2言語習得研究からみた効果的な英語学習法・指導法』 大修館書店、2006

中国語教育論研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 話題1-学習者を知る
1. 外国語をどう習得するか-認知的要因：知能及び適性
- 第2回 2. 外国語をどう習得するか-認知的要因：認知スタイル及び学習ストラテジー
- 第3回 3. 外国語をどう習得するか-情意的要因：動機
- 第4回 4. 外国語をどう習得するか-情意的要因：性格
- 第5回 5. 外国語をどう習得するか-社会文化的要因：母語の転移
- 第6回 6. 外国語をどう習得するか-社会文化的要因：異文化の受容
- 第7回 話題2-教授活動を知る
1. 何をどう教えるか-内容
- 第8回 2. 何をどう教えるか-方法
- 第9回 3. 何をどう教えるか-目標
- 第10回 話題3-中国語教育を知る
1. 中国における対外漢語
- 第11回 2. 非漢字圏における中国語教育
- 第12回 3. 日本における中国語教育-歴史
- 第13回 4. 日本における中国語教育-現在
- 第14回 5. 日本における中国語教育-最新動き
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（50％）と課題の完成度（50％）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲の予習と、授業内容の復習を行うこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文化研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科, フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本とヨーロッパとの比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日本文化とヨーロッパ文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ フランス語やヨーロッパの文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

比較文化研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本と欧米との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。

《高い問題解決能力と表現力》

日本文化と欧米文化の深い造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

欧米の文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。

本講義では、生活様式、歴史、政体、国民性、文学、価値観、芸術、食文化といった様々なトピックを通じて、アメリカ、イギリス、と日本との文化比較を行う。学生には、各文化の特徴、差異、共通点について概論的な知識を吸収してもらうとともに、文化を相対的に眺める視点を獲得してもらう。

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

比較文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 Introduction to the Course (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 2回 Introduction of historical and cultural legacy of Japan (Dr. Williamson)
- 3回 Introduction of historical and cultural legacy of the United States(Dr. Williamson)
- 4回 Island Nations:A Brief History of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 5回 The Role of the Monarchy: Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 6回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 7回 Value Patterns in the United States and Japan (Dr. Williamson)
- 8回 Mid-Term Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)
- 9回 The British and Japanese Education Systems (Dr. Creaser)
- 10回 Modern Life in Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 11回 Education in Japan and the United States(Dr. Williamson)
- 12回 Contemporary Family Life in Japan and the United States (Dr. Williamson)
- 13回 Cultural Calendars of Britain and Japan (Dr. Creaser)
- 14回 British and Japanese Cuisine: Some surprising similarities (Dr. Creaser)
- 15回 Final Review (Dr. Williamson and Dr. Creaser)

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 60% Final paper 40%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本文化研究概論【夜】

担当者名 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科, 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本文化に関する総合的知識を習得する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本文化の諸領域の研究方法について習得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。	
			日本文化研究概論	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

日本文化の諸領域について、3名の教員が各5回授業を実施する。

1～5回

グローバルな生活環境の変化のなかで日本文化を研究しようとする際に、大衆文化は学問分野をまたいで共有される重要なテーマである。本概論の最初の5回では、近現代の日本文化を研究するうえで避けては通れない領域として大衆文化を位置づけ、大衆文化研究史の概略的なポイント（研究テーマ・研究方法の特徴）を確認していく。

6～10回

東洋日本美術史分野から主に平安仏画・絵巻・北宋山水画を中心に取り上げて、専門知識と基本的研究方法の確認を行う。平安仏画の回では美術史の王道である様式史に基づく研究方法について、絵巻を中心とした回では異時同図法という描き方について、北宋山水画を中心とした回では三遠之法とは何か、そして、その南宋絵画や日本絵画への影響について確認する。

11～15回

日本宗教史に関する研究の基礎的能力と方法を身につけるため、神道、日本仏教、神仏習合に関する文献を取り上げ、研究の素材となる漢文の文献の訓読と解釈について学んでいきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本文化に関する総合的知識と多角的な研究方法を習得することができる。

《高い問題解決能力と表現力》

日本文化の諸領域の研究方法について習得する。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

日本文化に関する知識をもとにグローバル社会が抱える課題を考究する能力を身につける。

教科書 /Textbooks

1～5回コピーテキストを使用することがある。

6～10回毎回レジュメを配布する。

11～15回 テキストを配布する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する。

日本文化研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス(講義の全体像)
- 2回 大衆文化研究史①大衆文化とは何か
- 3回 大衆文化研究史②1920年代を中心に
- 4回 大衆文化研究史③1950年代を中心に
- 5回 大衆文化資料の紹介とディスカッション
- 6回 7世紀仏教説話画・12世紀絵巻の時間表現-「信貴山縁起絵巻」等
- 7回 12世紀絵巻の時間表現-「源氏物語絵巻」
- 8回 釈迦の一生の絵画化・造形化
- 9回 阿弥陀来迎図-中世初頭の仏画
- 10回 北宋山水画・南宋山水画
- 11回 日本宗教史研究の概要
- 12回 神道に関する文献の講読
- 13回 日本仏教に関する文献の講読
- 14回 神仏習合に関する文献の講読1 奈良時代
- 15回 神仏習合に関する文献の講読2 平安時代

成績評価の方法 /Assessment Method

日常の授業へ取り組み100%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

あらかじめ配布された資料・テキストは熟読すること。
受講する前に、こちらが提示した先行研究論文等の資料に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、指示された参考文献等に目を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

- 1～5回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。積極的な発言が求められる。
- 6～7回
あらかじめテキストを指定する。受講者はそれを読み込んで授業に臨むこと。
- 8～15回
テキストは授業時に配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

メディア 都市 生活 仏画 絵巻 宋代山水画 神道 仏教 神仏習合

言語学研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター, 葛西 宏信 / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	○	身に付けた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	◎	身につけた専門知識を生かし、言語及び言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

言語学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

本講義では生成文法の言語観に基づきながら、日本語、英語はじめその他の言語のデータを交えながら、言語学の諸分野を概括し、受講者が言語について、より専門的な知識を身につけることを目標とする。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

言語学を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、言語現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、言語および言語学の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

受講生の興味・希望を考慮して決定
その他プリント配布

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 『はじめて学ぶ言語学：ことばの世界をさぐる17章』大津由紀雄編著、ミネルヴァ書房、2009年。
- 『言語を生み出す本能(上)・(下)』ステイヴン・ピンカー著、棕田直子訳、NHKブックス、1995年。
- 『新・自然科学としての言語学：生成文法とは何か』福井直樹著、筑摩書房、2012年。
- シリーズ朝倉「言語の可能性」中島平三監修、朝倉書店。

言語学研究概論【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 序：言語学の研究方法（漆原・葛西）
- 第2回 音韻：音声、音素、異音（漆原）
- 第3回 音節構造：音節、モーラ、sonority hierarchy、アクセント（漆原）
- 第4回 同化と異化：削除、挿入、連濁、鼻濁音（漆原）
- 第5回 派生と屈折：形態素、派生、屈折、順序づけ（漆原）
- 第6回 複合語(1)：右側主要部、語彙的緊密性（漆原）
- 第7回 複合語(2)：第一姉妹の原則、項構造（漆原）
- 第8回 複合動詞：語彙的複合動詞、統語的複合動詞（漆原）
- 第9回 文の構造：句構造、c統御、支配（葛西）
- 第10回 移動現象（1）：格、A移動、主要部移動（葛西）
- 第11回 移動現象（2）：A-bar移動、島の制約（葛西）
- 第12回 言語間変異：原理とパラメータ（葛西）
- 第13回 語の意味：語彙概念構造、語彙的アスペクト（葛西）
- 第14回 文の意味：含意、前提、真理条件、量化詞（葛西）
- 第15回 発話行為：協調の原理、関連性理論（葛西）

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度（35%）と期末レポート（65%）により、「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

- 事前学習：文献の予習をすること（特に英語文献は意味が取れるようにしておくこと）
- 事後学習：教科書の練習問題や、担当教員が出す課題に取り組むこと

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較文学研究概論【夜】

担当者名 /Instructor 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 文学、思想、文化に対する高度な知識を得て、比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つ能力を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 文学的資料を適切に分析し、比較文学において高度な研究ができる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題が解決できる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		比較文学研究概論

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

このコースは「比較文学とは何か」という基本的な問いから始め、19世紀に生まれたこの研究分野を、歴史、領域、方法から考察する。本コースでは比較文学の定義を、一つの国の文学を他の国の文学と比較することで、それらの文学間の影響関係、交流関係について明らかにするという一般的な定義よりもかなり広く取りたい。そのために「キリスト教文学」という一つの比較の軸を用意し、通常の文学を縦割りに分けている言語の壁を取り払って考えてみたい。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

比較文学研究を通して国際社会及び地域社会に役立つための文学、思想、文化に対する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

文学的資料を適切に分析して問題を解決することによって、比較文学において高度な研究を行うことができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

比較文学の知識を生かし、グローバル社会における課題を主体的かつ自律的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

渡邊洋、『比較文学研究入門』（世界思想社）
山形和美、『岩のつばやき』（笠間選書）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

イヴ・シュヴレル、『比較文学入門』（白水社）
亀井俊介編、『現代の比較文学』（講談社学術文庫）
ディオニーズ・テュリシン、『理論比較文学』（而立書房刊）

その他授業の中で適宜紹介する。

比較文学研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 比較文学の前史と誕生
- 第2回 影響の研究
- 第3回 受容の研究
- 第4回 文学と他の芸術
- 第5回 文学と他の学問分野
- 第6回 翻訳の研究
- 第7回 ジャンルの研究
- 第8回 イズムの研究
- 第9回 対比研究
- 第10回 比較文学と隣接する学問
- 第11回 比較文学研究の実践に向けて
- 第12回 外国文学間の比較研究
- 第13回 類似と異同
- 第14回 比較文学の将来展望
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

指定された範囲を予習・復習して下さい。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本宗教文化研究【夜】

担当者名 /Instructor 佐藤 真人 / Sato Masato / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門的知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を身につける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他地域の宗教文化と比較して研究課題を考究する能力を身につける。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本宗教文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

『小右記』の講読

平安時代摂関期の貴族・藤原実資の漢文日記である『小右記』から、長元4年の宗教に関する記事を取り上げ講読する。日本宗教文化の研究に不可欠な日本漢文の読解力を身につけてもらうとともに、日本宗教史に関する諸問題について議論していきたい。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

日本の宗教文化に関する諸資料を通して専門知識を身につける。

《高い問題解決能力と表現力》

日本の宗教文化を研究する上に必要な文献資料の読解力を通じて問題解決能力と論理的表現力を身につける。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

高い倫理観に基づいて自律的に研究課題を考究する能力を身につけている。

教科書 /Textbooks

大日本古記録『小右記 八』（岩波書店）を教科書に指定する。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

○高橋秀樹『古記録入門』（東京堂出版）

その他は授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1 回 授業の進め方・『小右記』概要説明
- 2 回 『小右記』と古記録の読み方について
- 3 回 『小右記』講読 長元4年正月
- 4 回 『小右記』講読 長元4年2月
- 5 回 『小右記』講読 長元4年3月
- 6 回 『小右記』講読 長元4年4月
- 7 回 『小右記』講読 長元4年5月
- 8 回 『小右記』講読 長元4年6月
- 9 回 『小右記』講読 長元4年7月
- 10 回 『小右記』講読 長元4年8月
- 11 回 『小右記』講読 長元4年9月
- 12 回 『小右記』講読 長元4年10月
- 13 回 『小右記』講読 長元4年11月
- 14 回 『小右記』講読 長元4年12月
- 15 回 レポートの講評と全体のまとめ

日本宗教文化研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

平常点 70%レポート30% によりシラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は毎回割り当てられた漢文読解の発表準備をして臨んでもらう。
事後は指摘された問題点について考究してもらい、レポートの作成をしてもらう。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

『小右記』 日本宗教史

日本美術史研究【夜】

担当者名 五月女 晴恵 / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日本美術史の専門知識を修得する。美術史を専門とする学芸員の職を目指すことが可能なレベルの知識を身に付ける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎ 日本美術史の研究方法を修得し、美術史の学術論文を執筆する技能を身に付ける。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	△ 他文化圏の美術に対しての日本美術ならではの特性を理解する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日本美術史研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

仏教的説話を題材とする中世の絵巻を読み解くことによって、説話絵巻の基本と仏教的基礎知識との習得を目的とする授業である。14世紀に宮廷絵師・高階隆兼工房によって描かれた「玄奘三蔵絵巻」（大阪・藤田美術館所蔵）と、16世紀に狩野元信工房によって描かれた「釈迦堂縁起絵巻」（京都・清凉寺所蔵）を取り上げる。それぞれの絵巻の画面内容とストーリーを確認した上で、代表的な先行研究論文を輪読する。さらには、それらを踏まえて、先行研究論文によって示された諸説に対して批判を加えながらディスカッションを行う。以上を通して、美術史的な研究方法の習得を目指す。

教科書 /Textbooks

なし。但し、こちらが提示した先行研究論文を事前に読んで来ること。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜提示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 授業の手順に関する説明
- 2回 「玄奘三蔵絵巻」の内容①【唐から天竺へ】
- 3回 「玄奘三蔵絵巻」の内容②【天竺から唐へ】
- 4回 「玄奘三蔵絵巻」の内容③【仏典漢訳、インド風な仏像】
- 5回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 6回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読②【三蔵法師のイメージ形成】
- 7回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読③【制作背景】
- 8回 「玄奘三蔵絵巻」の先行研究論文の輪読④【宮廷絵師の伝統】
- 9回 5～8回を踏まえたディスカッション
- 10回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容①【仏伝】
- 11回 「釈迦堂縁起絵巻」の内容②【清凉寺所蔵「釈迦如来立像」】
- 12回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読①【描き手】
- 13回 「釈迦堂縁起絵巻」の先行研究論文の輪読②【中世絵巻の学習】
- 14回 12～13回を踏まえたディスカッション
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート...50% 授業への参加態度...50%

日本美術史研究【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講する前に、こちらが提示した先行研究論文に目を通し、読み方や意味がわからない語句等はあらかじめ調べておくこと。
受講後、自身のノートを見直して、授業内容をきちんと理解できているか確認し、十分に理解できていない箇所については、参考文献等を通して理解を深めておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

日本表象文化研究【夜】

担当者名 真鍋 昌賢 / Manabe Masayoshi / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力			到達目標	
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎	日本の表象文化についての専門的知識を獲得し理解する。	
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようにする。	◎	日本の表象文化についての専門的な分析方法を習得する。	
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようにする。	○	日本の表象文化についての課題を設定し、主体的に解決する態度を身につけている。	
			日本表象文化研究	

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、日本の表象文化のうち、近年とくに注目されてきた大衆文化をとりあげて、議論する。前半では日本の大衆文化に関する研究書を取りあげて、その講読をおこなう。本年度は、1950年代～60年代を扱う大衆文化論を取りあげて講読する。後半では、テーマを設定してそれにそった発表を受講者にしてもらう。本授業は、日本の大衆文化研究をテーマとする修士論文作成のために必要な知識と思考技術獲得を目指す。大衆文化を専門とする修士論文作成者を念頭においているため、テキスト講読と思考・表現のブラッシュアップのための発表・議論が授業の中心となる。

以下が本講義の習得目標である。大衆文化論は、自身の生活史、生活環境を見渡したうえで、他者や異文化のもつ意味について検討する想像力を磨く必要がある。異文化比較の視点をつねにもつように心がけたい。

高度な専門的知識・技能

日本の大衆文化についての高度な専門知識を講読を通して習得している

高い問題解決能力と表現力

先行研究の問題点の指摘ができ、必要な資料の探索が適切におこなえる。また適切なレジュメ作成と論じるべきテーマの発見ができる。

高い倫理観に基づいた自律的な行動力

他の受講者の見解によく耳を傾け、理解し、積極的な議論を展開できる。

教科書 /Textbooks

授業で指示する

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業で指示する

日本表象文化研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 テキスト講読【1940年代】
- 第3回 テキスト講読【1950年代前半】
- 第4回 テキスト講読【1950年代後半】
- 第5回 テキスト講読【1960年代前半】
- 第6回 テキスト講読【1960年代後半】
- 第7回 テキスト講読【1970年代】
- 第8回 テーマ発表【問題設定】
- 第9回 テーマ発表【先行研究の整理】
- 第10回 テーマ発表【研究の意義】
- 第11回 テーマ発表【資料収集】
- 第12回 テーマ発表【資料比較】
- 第13回 テーマ発表【分析】
- 第14回 テーマ発表【解釈】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度・・・10%、講読発表・テーマ発表・・・90%
講読発表・テーマ発表、レポートによりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前：テキスト講読の予習
事後：テキスト講読の復習

履修上の注意 /Remarks

課題（文献の熟読）をおこない、授業に臨むこと。本授業は修士論文作成を目的とした専門性の高い内容を念頭においている。発表が頻繁に回ってくる可能性が高いため、十分な準備が必要となる。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

比較広域文学研究 【夜】

担当者名 梶原 将志 / Masashi KAJIWARA / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 比較広域文学研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	△ 比較広域文学に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 比較広域文学研究に関する課題を主体的に解決できる。
		比較広域文学研究

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

主にヨーロッパの悲劇論を読み解きます。

DPにもとづく到達目標

■ 高度な専門的知識・技能

-西洋の文学理論・芸術論の流れを把握し、現代の文学作品や文学論が何に対する反発・アンチテーゼであるのかを理解する。

■ 高い問題解決能力と表現力

-西洋の文学作品を、哲学・美学的な理論と結びつけて読み解き、論じることができる。

■ 高い倫理観に基づいた自律的行動力

-難解な概念を用いて説かれた芸術論を、等身大の平易な表現に言い換えて、自分の言葉で説明できる。

教科書 /Textbooks

なし（随時、プリントを配布します）。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

なし。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回：アリストテレス (Aristoteles ; 前384～前322)
- 第2回：アウグスティヌス (Aurelius Augustinus ; 354～430)
- 第3回：ルター (Martin Luther ; 1483～1546)
- 第4回：ドイツにおけるシェイクスピア論
- 第5回：カント (Immanuel Kant ; 1724～1804) とシラー (Friedrich von Schiller ; 1759～1805)
- 第6回：ヘーゲル (Georg Wilhelm Friedrich Hegel ; 1770～1831)
- 第7回：バイロン (George Gordon Byron ; 1788～1824) と北村透谷 (1868～1894)
- 第8回：ニーチェ (Friedrich Nietzsche ; 1844～1900)
- 第9回：ベンヤミン (Walter Benjamin ; 1892～1940)
- 第10回：ブレヒト (Bertolt Brecht ; 1898～1956)
- 第11回：サルトル (Jean-Paul Sartre ; 1905～1980)
- 第12回：ベケット (Samuel Beckett ; 1906～1989)
- 第13回：カミュ (Albert Camus ; 1913～1960)
- 第14回：スタイナー (George Steiner ; 1929～)
- 第15回：総括

比較広域文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

毎回授業末の演習シート (50%) + 期末レポート (50%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかによって評価をおこないます。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

毎回授業時に配布されるレジメにまとめられた理論や概念を、授業外での読書や芸術鑑賞にも応用して考え、まとめた意見形成をして書き留めたと上で、それを次回授業時の演習シートで言語化してみてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

文学 悲劇 悲劇論 美学 哲学 芸術論 文学論 ヨーロッパ 西洋 演劇 批評

日英比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor
 フィオナ・クリーサー / Fiona Creaser / 英米学科

履修年次 /Year
 単位 /Credits
 2単位
 学期 /Semester
 1学期
 授業形態 /Class Format
 演習
 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日英比較文化研究に関する高度な知識を身につける。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日英比較文化に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日英比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

In this course students will learn about British culture and society and have the opportunity to compare it with Japanese culture and society. Topics covered include but are not limited to, politics, music, fashion, sport, the monarchy, food and drink. This course is discussion based and students will have ample opportunity to give their opinions and ideas about topics under discussion.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

日英比較文化研究に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

日英比較文化に関する資料を適切に分析することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

日英比較文化研究に関する課題を主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Materials will be distributed each week by the instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

In consultation with the instructor.

日英比較文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction
Week 2: What is culture? How do we define it?
Week 3: British and Japanese Culture: comparisons and contrasts.
Week 4: The Monarchy: UK
Week 5: The Monarchy: Japan
Week 6: The Monarchy in Present Day Britain
Week 7: The Monarchy in Present Day Japan
Week 8: Multicultural Britain: Migrants and Refugees
Week 9: Brexit: Social Implications
Week 10: The Changing Face of Japanese Society
Week 11: Music
Week 12: Media
Week 13: Food and Drink
Week 14: Presentations
Week 15: Discussion and Review

成績評価の方法 /Assessment Method

In class assessment 50%
Report 30%
Presentation and Discussion 20%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Students are expected to read relevant materials each week.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Students will gain insight into historical and modern aspects of British society.

キーワード /Keywords

Britain, Japan

日米比較文化研究【夜】

担当者名 /Instructor ロジャー・ウィリアムソン / Rodger S. Williamson / 英米学科

履修年次 /Year 2年次
 単位 /Credits 2単位
 学期 /Semester 1学期
 授業形態 /Class Format 演習
 クラス /Class 2年

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	◎ 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

日米比較文化研究

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

DPに基づく3つの到達目標
 《高度な専門的知識・技能》
 日米比較文化研究に関する高度な知識を修得する。
 《高い問題解決能力と表現力》
 日米比較文化に関する資料を適切に分析し研究できる。
 《高い倫理観に基づいた自律的行動力》
 日米比較文化研究に関する課題を主体的に解決できる。

The purpose of this course is to guide students through an in-depth comparative cultural analysis of Japan and the United States of America. This investigation will be conducted in English, as we will focus on the interpretations of foreign scholars to illustrate the deep cultural differences that exist between the two countries. Initially, a survey and analysis of the dynamics of the relationship between both countries will be conducted by reading key literature and scholarship on different facets of both societies. During the final phase of the course students will lead the discussion in presenting their own interpretations of materials from the course. Thus, English for Academic Purposes will be another component of this course.

教科書 /Textbooks

Printed materials distributed by instructor.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

The instructor will distribute supplemental materials while students are responsible for acquiring their own research materials.

日米比較文化研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 An introduction to the historical and cultural legacy of Japan
- 2回 An Introduction to the historical and cultural legacy of the United States
- 3回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan I: Basics
- 4回 Cultural Similarities and Differences Between the United States and Japan II: Discussion
- 5回 Value Patterns in the United States and Japan
- 6回 Discussion based on reading materials I: Fundamental Values
- 7回 Japanese Values: Interpretations of contemporary scholars
- 8回 Discussion based on reading materials II:Patterns of Culture
- 9回 Discussion based on reading materials III: Contemporary Society
- 10回 American Values: Interpretations of contemporary scholars
- 11回 Discussion based on reading materials IV: Fundamental Values and Culture Clashes
- 12回 Presentations led by students I: Cultural Misunderstandings
- 13回 Discussions based on student topics I: The Ugly Americans and the Ugly Japanese
- 14回 Presentations led by students II: Group vs. Individual
- 15回 Wrap-up and Final Presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Preparation and presentations 50%

Final 2000 word paper 50%

Evaluations will be done according to the DP syllabus goals.

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

While the instructor will explain necessary preparations during the course, all materials for each session must be read beforehand and students should be ready for discussion.

履修上の注意 /Remarks

All instruction will be in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

担当者名 /Instructor 漆原 朗子 / Saeko Urushibara / 基盤教育センター

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 形態論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を使って、言語の形態およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身に付けた専門知識を生かし、言語の形態と実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (形態論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

言語学における形態論の位置づけ、形態論の基本的概念、分析方法などを学んだ上で、日本語・英語をはじめ、学生の興味ある言語における現象について観察し、議論する。

DPに基づく3つの到達目標

《高度な専門知識・技能》

形態論を研究する上で必要な専門知識を習得する。

《高い問題解決能力と表現力》

身につけた専門知識を使って、様々な言語の音韻・形態に関する現象を分析できるようになる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

身につけた専門知識を生かし、音韻論・形態論の諸問題を主体的に解決できるようになる。

教科書 /Textbooks

漆原 朗子（編著）（2016）『形態論』（朝倉日英対照言語学シリーズ第4巻）。東京：朝倉書店。

参考書(図書館蔵書には○) /References (Available in the library: ○)

Spencer, A. et al. 1998. The Handbook of Morphology. Blackwell Publishers.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 言語学の対象と目的
- 第2回 言語学における形態論の位置づけ
- 第3回 形態論の基本的概念(1)：自由形態素、拘束形態素、唯一形態素、異形態
- 第4回 形態論の基本的概念(2)：派生
- 第5回 形態論の基本的概念(3)：屈折
- 第6回 形態論の基本的概念(4)：複合語
- 第7回 形態論の基本的概念(5)：省略、混成、逆形成、頭文字語
- 第8回 形態論の基本的概念(6)：接語
- 第9回 アメリカ構造主義言語学における形態論
- 第10回 生成文法理論における形態論
- 第11回 語彙的緊密性
- 第12回 主要部と第一姉妹の原則
- 第13回 生産的語形成と限定的語形成
- 第14回 分散形態論
- 第15回 まとめ

理論言語学研究 (形態論) 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度 30%

発表 40%

期末レポート 30%

「授業の概要」で挙げられたDPに基づく3つの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習

事後学習：課題の提出

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

担当者名 葛西 宏信 / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	日本の言語、文学、思想、文化に関する高度な知識を身に付け、他文化との比較研究を通じて、専門的職業人と研究者として、国際社会および地域社会に役立てる能力を修得する。	○ 統語論および関連言語学下位分野を研究する上で必要な専門知識を習得する。
技能	深い日本文化の造詣を持つ高度な専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 身につけた専門知識を使って、統語現象およびそれに関連する現象を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 身につけた専門知識を生かし、統語論および実社会での運用に関する諸問題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

理論言語学研究 (統語論)

※文化・言語専攻（比較文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

生成文法で提案されてきた統語理論を概観した後、日本語の様々な言語現象がどのように分析されてきたのかを概観する。また、受講生の興味に応じて、他言語の統語現象を取り上げ、分析を行う。到達目標は以下の通りである。

- (1) 生成文法の基本的な考え方を理解し、説明できるようになる。
- (2) 統語論の基本的な考え方を理解し、統語分析ができるようになる。

教科書 /Textbooks

授業時に指定。
その他プリント配布。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業時に紹介

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の進め方
- 第2回 句構造理論【統語範疇、c 統御、構成素テスト】
- 第3回 移動(1)【A移動、A'移動】
- 第4回 移動(2)【主要部移動、局所性】
- 第5回 補文構造【選択制限】
- 第6回 受け身【A移動】
- 第7回 格【格の交替】
- 第8回 かきまぜ【随意性】
- 第9回 省略(1)【名詞の省略】
- 第10回 省略(2)【動詞の省略】
- 第11回 省略(3)【節の省略】
- 第12回 否定【否定対極表現】
- 第13回 言語獲得【プラトンの問題】
- 第14回 疑問文【wh移動】
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度(50%)とレポート(50%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：文献の予習
事後学習：授業で扱った内容の整理と関連文献の講読

理論言語学研究 (統語論) 【夜】

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ社会史概論 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 講義 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を身につける。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

17世紀から現代までのアメリカ社会を、「自由」をキーワードに政治、経済、文化、思想など広範な視点から論じる授業を通して、アメリカ史に関する高度な専門的知識を修得させる。それを踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。講義に際しては、適宜アメリカ史に関する基本文献や一次史料等を用いる。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

自律的な態度でアメリカ社会の諸問題を主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

アメリカ社会史概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 南北戦争までの時代：植民地時代～共和国形成期
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (20%)、授業への貢献度 (20%)、授業中の報告内容 (60%) により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストを読み込み、事後にノートや配布資料を見ながら各自で復習する。

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域概論 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 1学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	○ イギリスに関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究および一次資料の収集・整理ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	△ 修得した知識・技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域概論

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

近代イギリスについて、文化の多様性を中心に取り上げ、現代イギリス社会を構成している諸要因を通時的に検討し、異文化理解の達成を図る。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

井野瀬久美恵(編)『イギリス文化史』昭和堂、2011年。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 宗教
- 3回 政治文化
- 4回 労働
- 5回 福祉
- 6回 教育
- 7回 食文化
- 8回 慣習
- 9回 音楽
- 10回 地域
- 11回 女性
- 12回 総力戦
- 13回 死者追悼
- 14回 帝国
- 15回 若者文化

イギリス地域概論 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容 (100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代中国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 白石 麻保 / 中国学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済理解に必要な基礎的・専門的知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 中国、及び途上国、新興国（地域）経済に対する政策提言を可能にする実証的分析・研究が行える。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 習得した知識や技能を適切かつ有意義に生かすこと、研究に対する誠実な姿勢、的確な視点を持つ。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

現代中国経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

中国経済や途上国、新興国経済への深い理解とそれに対する実証的な分析を可能にする視点・手法等を修得することを目的とする。この過程で中国経済研究等に関するジャーナルの輪読をおこなう。また個別に設定されたテーマについて分析を行い、報告・ディスカッションを行う。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能

中国をはじめとする新興国に関する知識、実証研究に必要なスキルを身に着ける。

高い問題解決能力と表現力

先行研究への貢献、実証分析に基づく政策提言を行う力を養う。

高い倫理観に基づいた自律的行動力

受け身の形ではなく、主体的に先行研究を収集し、自らの問題意識と分析のアイデアを実証的に検証する力を養う。

教科書 /Textbooks

ゼミ生と相談の上、決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

南亮進 牧野文夫『中国経済入門』第4版 日本評論社 2016年
 岩崎一郎 『比較経済論講義』日本評論社 2018年
 白砂堤津耶 『例題で学ぶ 初歩からの統計学』第2版 日本評論社 2015年
 伊藤公一郎 『データ分析の力 因果関係に迫る思考法』光文社新書 2018年
 田中隆一 『計量経済学の第一歩 実証分析のススメ』有斐閣 2018年
 矢野剛 『中国の企業間信用 経済発展とオルタナティブ金融』 京都大学出版会 2015年
 この他講義の際に紹介する。

現代中国経済研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 オリエンテーリングと打ち合わせ
 - 2回 中国経済、新興国経済の分析視点(1) SNA
 - 3回 中国経済、新興国経済の分析視点(2) 企業、金融
 - 4回 中国経済、新興国経済の分析視点(3) 政府
 - 5回 中国経済の近年の動向(1) SNA、経済発展、経済政策
 - 6回 中国経済の近年の動向(2) 投資、資本移動
 - 7回 実証分析の基本的考え方(1) 相関関係 因果関係
 - 8回 実証分析の基本的考え方(2) 因果関係 variable of the most interesting
 - 9回 実証分析の基本的考え方(3) variable of the most interesting コントロール変数
 - 10回 実証分析の実践(1) 仮説の設定
 - 11回 実証分析の実践(2) 仮説の検証
 - 12回 実証分析の実践(3) 政策提言
 - 13回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(1) 経済政策、経済成長
 - 14回 テキスト輪読、ディスカッション 中国の経験の一般化：論点抽出(2) 経済成長、市場経済
 - 15回 まとめ
- * 内容については進捗状況に応じて変動することがある。

成績評価の方法 /Assessment Method

授業への参加度及びプレゼンテーション、ディスカッションへの参加状況やそれらの内容による。

レジュメの作成、報告・・・60% ディスカッションへの参加状況・・・40%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習：ミクロ経済学、統計学、計量経済学の基本的知識を抑えておくこと。

事後学習：文献(論文)の講読を通じて得られた知見やスキルを、各自の研究に生かせるように実践的な応用を試みること。

履修上の注意 /Remarks

(主にミクロ)経済学、統計学及び計量経済学等の学部レベルの知識を習得していることがのぞましい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東アジア政治思想研究【夜】

担当者名 金 鳳珍 / KIM BONGJIN / 国際関係学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 日本、中国、朝鮮・韓国の伝統と近代の政治思想史を読み直し、東アジア三国の思想や文化に関する様々な専門知識を修得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を増やし、身につけた専門知識を土台に東アジア地域の現実を分析する力を高める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東アジア三国の思想や文化に関する専門知識を生かせるよう実践的な問題や課題に関心をもち、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東アジア政治思想研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

東アジア三国（日本、中国、朝鮮）の儒学と朱子学を比較研究する。それによって、三国の思想、思考様式などを比較考察する。とくに日本の江戸時代の徂徠学を中心として、その特質を原文講読しつつ分析考察したい。

DPに基づく三つの到達目標

《高度な専門的知識・技能》

活字化された江戸時代の資料や関連資料を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

自分自身の研究テーマとの比較の視点からとらえることができる。

《高い倫理観に基づいた自律的な行動力》

受け身の学習ではなく進んで調べたり報告レジュメを作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

小倉紀蔵『朱子学化する日本近代』（藤原書店、2012） 5500円
『荻生徂徠全集』のなかの原文資料

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○小倉紀蔵『創造する東アジア 文明・文化・ニヒリズム』（春秋社、2011）
○与那覇潤『中国化する日本』（文芸春秋、2011）

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 授業の概要
- 第2回 第1章 【朱子学】【日本近代】
- 第3回 第2章 【儒教】【主体】
- 第4回 第3章 【理】【論理】
- 第5回 第4章 【朱子学的思惟】【階層性】
- 第6回 第5章 【垂直性】【水平性】
- 第7回 第6章 【こころ】【ニヒリズム】
- 第8回 第8章 【国体論】【靈魂】
- 第9回 第9章 【元田永孚】【教育勅語】
- 第10回 第10章 【福沢諭吉】【朱子学的半身】
- 第11回 第11章 【丸山眞男】【朱子学的半身】
- 第12回 第12章 【主体的韓国人】【朴鐘鴻】
- 第13回 第13章 【司馬遼太郎】【近代観】【朝鮮観】
- 第14回 第14章 【天皇】【カリスマ】【三島由紀夫】
- 第15回 まとめ

* 第3回以降の授業では『荻生徂徠全集』の原文資料をとりあげ、講読していく。

東アジア政治思想研究【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

受講生の報告レジュメと発表、討論（70%）と期末レポート（30%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

教科書の予習、原文資料の講読、報告と討論の準備。事後の復習、関連文献の自主学習

履修上の注意 /Remarks

必ず予習と復習をすること。関連文献を多く読むこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

東アジアの比較思想研究を通して、東アジアの過去、現在、未来を思想的に考えよう。

キーワード /Keywords

アジアから考える視点、文明論的な視点、比較思想

現代韓国経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 柳 学洙 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 現代の韓国経済を学ぶことによって、東アジア経済発展のダイナズムと脆さを理解する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきかを考察してみる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

現代韓国経済研究

授業の概要 /Course Description

大韓民国は、朝鮮半島が1945年に日本の植民地支配から解放された後、半島の南側に成立した国家であり、「東アジアの奇跡」とも称された急速な経済発展を遂げた国である。日本と韓国は隣国として、政治・経済・文化といった様々な側面で密接な関わりを持っており、韓国経済の動向を知ることは、日本経済の将来を見通すうえでも有益な知見をもたらす。

この授業では、韓国経済の発展をもたらした諸要因について、歴史的な視点から考察・検討するための基本的知識を得ることに重点をおいた講義を行う。そのうえで、現代韓国経済が抱える課題と将来の見通しについて分析する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

現代の韓国経済に関する基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

現代の韓国経済についての先行研究を整理し、一次資料を用いて議論を組み立て表現することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

現代の韓国経済を客観的に捉えるようになることで、隣国との経済関係がどうあるべきかを自律的かつ主体的に考察することができる。

教科書 /Textbooks

とくに指定しない。各回の講義で配布するプリントに沿って授業を行う。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

- 三重野文春 / 深川由紀子編 (2017) 『現代東アジア経済論』ミネルヴァ書房
- 原朗 / 宣在源編 (2013) 『韓国経済発展への経路 - 解放・戦争・復興』日本経済評論社
- 安倍誠編 (2017) 『低成長時代を迎えた韓国』アジア経済研究所
- 廣田功 / 加賀美充洋 (2014) 『東アジアにおける経済統合と共同体』日本経済評論社
- ジェトロ・アジア経済研究所 『アジア動向年報』各年版

現代韓国経済研究【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 植民地時代の朝鮮半島
- 第2回 解放後、米軍政下の経済状況
- 第3回 朝鮮戦争の影響
- 第4回 李承晩政権と韓国経済
- 第5回 朴正熙政権の経済政策
- 第6回 輸出志向経済への転換
- 第7回 重工業化政策と財閥企業の成長
- 第8回 韓国経済の高度成長とその特徴
- 第9回 アジア金融危機 - 何が起こったのか
- 第10回 IMF支援と金大中政権の構造改革
- 第11回 経済のV字回復と格差拡大
- 第12回 現代韓国の産業構造
- 第13回 現代韓国の企業
- 第14回 若年層の就業機会と格差の固定化
- 第15回 少子化問題と韓国経済の未来

成績評価の方法 /Assessment Method

平常時の学習姿勢およびリアクションペーパー：30%、期末試験（論述問題）：70%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前学習としては、JETROのHPにある「国・地域別に見る」(<https://www.jetro.go.jp/world/asia/>)のコーナーで、韓国の基本データや最近の経済ニュースを確認しておくことを勧める。事後学習としては、授業内容をよく復習し、講義や配布プリントで分からなかった点を自分なりに調べ、それでも解決できなければ次回の授業で質問してほしい。

履修上の注意 /Remarks

とくにありませんが、授業を受ける前に、韓国の本や映画、芸能文化などに触れてみて、これから学ぶ地域のイメージをふくらませておけば、授業がより楽しくなると思います。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

かつて「近くて遠い国」と言われた韓国も、今やすっかり「近くて近い国」になった感があります。しかし民間交流が盛んになった一方で、政治的な摩擦が起きることも少なくありません。また、よく知っているようでありながら、いざ深く調べてみようと思うと、日本語でアクセスできる情報が意外と少ないというのも韓国特有の難しさかもしれません。この授業では、韓国を知るためのリサーチ方法を伝えるという点にも重点をおきたいと思っています。

キーワード /Keywords

韓国経済，輸出志向工業化，少子化問題，権威主義体制，格差問題，分断体制

東南アジア地域研究II 【夜】

担当者名 /Instructor 田村 慶子 / Keiko Tsuji TAMURA / 政策科学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 東南アジア地域の近現代史、独立後の政治や社会の変容に関する基礎的な知識を習得する。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 広く先行研究を収集し、その問題点も発見しながら的確にまとめることができる能力を獲得する。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 東南アジア地域が現在抱えている諸問題の解決に積極的に取り組めるような行動力を育成する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

東南アジア地域研究II

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

戦後アジアの国際関係や、東南アジア諸国の政治・社会・エスニシティ（華僑、華人問題）、国民統合に関する文献を輪読して、受講者による報告と議論を行う。受講者が多い場合にはグループ学習、報告も行う。それらを通して、【大学院生として身につけておくべき東南アジアに関する専門知識や優れた課題解決能力を養成する】。

課題レポートをいくつか科して、添削して返却する。その経験を修士論文や課題研究の執筆に活かせることができるよう指導する。

DPに基づく3つの到達目標

【高度な専門知識・技能】近現代東南アジアや国際関係の資料を読むことができる。

【高い問題解決と表現力】自分自身の研究テーマとの比較の視点から捉えることができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】受け身の学習ではなく、進んで調べたり、図表を作ることができる。先行研究を第三者の視点でまとめることができる。

教科書 /Textbooks

受講生と相談して決めるが、候補としては以下を考えている：

岩崎育夫『アジア政治とは何か』中公叢書、2009年。

Lynn Pan ed., The Encyclopedia of the Chinese Overseas, Curzon, 1998.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○日本国際政治学会編『日本の国際政治学』4冊、有斐閣、2009年

* 「[学としての国際政治]」「国境なき国際政治」「地域から見た国際政治」「歴史の中の国際政治」の4冊がある。

○アジア政経学会編『現代アジア研究』3冊、慶應義塾大学出版会、2008年。

* 「越境」「市民社会」「政策」の3冊がある。

○清水一史・田村慶子・横山豪志『東南アジア現代政治入門』ミネルヴァ書房、2018年。

東南アジア地域研究II 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

第1回	テキストとスケジュールの相談、説明
第2回	『アジア政治とは何か』序章を輪読、議論する
第3回	『アジア政治とは何か』開発体制を輪読、議論する
第4回	『アジア政治とは何か』各人が開発体制のいくつかの事例を紹介、議論する
第5回	『アジア政治とは何か』民主主義を輪読、議論する
第6回	アジア政治の課題について議論する
第7回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasの序章を輪読、議論する
第8回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのマレーシアを輪読、議論する
第9回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのインドネシアを輪読、議論する
第10回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのフィリピンを輪読、議論する
第11回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのタイを輪読、議論する
第12回	The Encyclopedia of the Chinese Overseasのベトナムを輪読、議論する
第13回	華人の東南アジアへの移住の歴史と国民国家建設における役割について議論する
第14回	これまでの議論を踏まえて、各人が作成したレポートの報告、議論を行う
第15回	補足とまとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

課題レポート ... 40% 報告や議論 ... 60%
これらによって、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかと判断して行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献を精読すること。事後にレポートを科すことがある。

履修上の注意 /Remarks

大学院は各自が自主的に学ぶ場であるので、参考文献や資料を収集して熟読すること。
アジア国際関係史や東南アジア研究など、東南アジアに関する講義を学部で受講したことのない場合は、外国語学部国際関係学科「地域研究入門 - 東南アジア」を聴講するなど、自主的に・積極的に学習して欲しい。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

東南アジア、華僑・華人、植民地支配、国民国家、国民統合、ASEAN

アメリカ社会史研究 【夜】

担当者名 寺田 由美 / Yumi Terada / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を深める。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究能力を深める。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ社会の諸問題を発見・分析できる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ社会史研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

南北戦争後から20世紀前半のアメリカ合衆国の歴史・社会に関する講義・文献講読を通じて、各時代の主要なテーマを考える。また、授業を通して修得した知識を踏まえて、現代アメリカ社会における政治的・社会的・経済的な問題の根底にあるものについて考え、問題解決に向けた自分なりの意見を的確に表現する力を養成する。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ社会の歴史に関する専門的知識を身につけている。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ社会の歴史に関する資料を用いた調査研究により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ社会の諸問題を自律的かつ主体的に発見・分析することができる。

教科書 /Textbooks

初回の授業でリーディング・リストを配布し、参加者と相談のうえ決定する。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示・配布する。

アメリカ社会史研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 ガイダンス：授業のテーマとすすめ方
- 2回 再建期と金びか時代：政治再編
- 3回 再建期と金びか時代：奴隷制廃止とKKK
- 4回 再建期と金びか時代：工業化の進展と社会進化論
- 5回 再建期と金びか時代：ポピュリズム
- 6回 革新主義と改革運動：都市化の進展
- 7回 革新主義と改革運動：前世紀転換期アメリカ社会の諸問題
- 8回 革新主義と改革運動：移民の流入と改革運動
- 9回 革新主義と改革運動：労働運動
- 10回 大恐慌とニューディール：1920年代アメリカの政治・社会・経済
- 11回 大恐慌とニューディール：不況下の人々の暮らし
- 12回 大恐慌とニューディール：第一次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 13回 大恐慌とニューディール：第二次ローズベルト政権下のニューディール政策
- 14回 大恐慌とニューディール：貧困と政治
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平常の学習状況 (20%)、授業への貢献度 (20%)、授業中の報告内容 (60%) により、シラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に必ず、指示された参考文献や資料をしっかりと読み込む。また授業後には、授業内容について整理する。

履修上の注意 /Remarks

リーディング・リストの文献を、積極的に読むことを薦める。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

アメリカ人種関係研究 【夜】

担当者名 /Instructor 北 美幸 / KITA Miyuki / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得し、それに基づいて、現代世界が抱える問題について専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

アメリカ人種関係研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

人種・民族的多様性ということに関して、その規模の大きさとパターンの複雑さでアメリカ合衆国の右に出るものはない。それゆえに、人種差別解消に関する思想およびそのための諸政策についても、アメリカ合衆国の事例を抜きにして学ぶことはできない。この授業では、アメリカ合衆国における人種・エスニシティ関係について、文献の輪読や討論を行う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ合衆国の人種関係について広く知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する先行研究を収集・整理することによって問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

アメリカ合衆国の人種関係に関する知識を国際社会で生かせるよう、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

- Gary Gerstle, American Crucible: Race and Nation in the Twentieth Century, Princeton, NJ: Princeton University Press, 2001.
- David Roediger, The Wages of Whiteness: Race and the Making of the American Working Class, Revised ed., New York: Verso, 1999 [1991].
- David Biale, Michael Galchinsky, and Susannah Heschel, Insider/Outsider: American Jews and Multiculturalism, Berkeley: University of California Press, 1998.
- Karen Brodtkin, How Jews Became White Folks and What That Says About Race in America, New Brunswick, NJ: Rutgers University Press, 1999.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

アメリカ人種関係研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

1. イントロダクション
2. 優生学の登場
3. 「新移民」と人種
4. ホワイト・エスニックとは
5. 反ユダヤ主義の系譜
6. 戦争と人種問題 1: アフリカ系アメリカ人
7. 戦争と人種問題 2: ホロコーストの記憶と反省
8. 戦争と人種問題 3: 日系人と強制収容
9. 公民権運動をめぐる議論 1: 1950年代
10. 公民権運動をめぐる議論 2: 1960年代前半
11. 公民権運動をめぐる議論 3: 1960年代後半
12. ポスト公民権運動期の人種関係
13. 文化多元主義と多文化主義
14. 今日のアメリカの人種関係とその展望
15. まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

授業中の発言・報告...100%
によりシラバスの到達目標にどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前・事後学習については授業中に指示する。

履修上の注意 /Remarks

初回の授業以前に担当教員（北美幸）の研究室を訪問し、修士課程での研究テーマとこの授業の関連について相談すること。その際に授業テキスト以外のリーディング・リスト（読んでおくべき文献のリスト）も配布する。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス地域研究 【夜】

担当者名 /Instructor 久木 尚志 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ イギリスに関する専門的な知識を修得し、それに基づいて高度な議論を行なうことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ イギリスに関する先行研究を的確に整理し、一次資料に基づく議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 修得した知識・技能に基づき、広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

イギリス地域研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

イギリス社会と文化に関する英語文献を講読し、イギリスに関する理解を深める。最初に連合王国の周辺の地域に関する文献を読み、続いてイギリスを含む近代社会の成り立ちを社会思想的に分析した著作を中心に議論を展開する。

《高度な専門的知識・技能》

主に英語で書かれた文献を読むことができる。

《高い問題解決能力と表現力》

文献の内容を正しく理解し、それを口頭および文章で的確に表現できる。

《高い倫理観に基づいた自律的行動力》

自発的に必要な作業を進めることができる。

教科書 /Textbooks

S. Bassnett, Studying British Culture
成瀬治『近代市民社会の成立』

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

授業中に指示する。

イギリス地域研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 はじめに
- 2回 地域・文化研究の方法論
- 3回 スコットランドの再定義
- 4回 カムリカウェールズか
- 5回 北アイルランド研究の現状
- 6回 1914年までのイギリス: 変化と継続性
- 7回 イギリスにおける階級とジェンダー
- 8回 イギリス人の「生と死」
- 9回 イギリスの家族構造
- 10回 イギリスにおける「プロパティ」概念
- 11回 イギリス社会における労働
- 12回 イギリス社会における宗教
- 13回 社会と国家
- 14回 社会と社会理論
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告・発言の内容(100%)によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前にテキストをきちんと読み込み、そこで述べられていることを十分に理解しておくこと。
授業後は授業で得られた知見をもとに、テキストを再度確認しておくこと。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際協力研究 【夜】

担当者名 /Instructor 大平 剛 / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際協力に関する包括的な知識を修得し、それに基づいて専門的な議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際協力に関する資料の収集と分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際協力に関して修得した知識と技能を生かして、広い視野に立って適切な行動を取ることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際協力研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、新興援助国である中国や韓国が既存の国際開発レジームにとってどのような存在であるのかに焦点をあて、国際開発協力の最新の動向を理解します。とりわけ21世紀に入って以降の中国によるアフリカ援助は、アフリカの国々の経済成長を助けていると評価されるものの、その中国モデルは既存の援助ルールとは一線を画しています。そのことが従来のドナー国とのあいだに摩擦を生み出しており、今後の国際開発レジームの行く末を不透明にする原因となっています。授業では国際開発協力をめぐる国際政治にも焦点を当ててこの問題について考察します。

DPに基づく3つの到達目標

高度な専門的知識・技能：国際開発協力研究の最先端の知識を身につけ、現在の状況を把握することができる。

高い問題解決能力と表現力：修得した知識をもとに、現在の状況が抱える課題について議論することができる。

高い倫理観に基づいた自律的行動力：修得したアカデミックスキルを駆使して、高度な文章によって学んだ内容をまとめることができる。

教科書 /Textbooks

Ian Watson, Foreign Aid and Emerging Powers, Routledge, 2014.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

エマ・モースリー『国際開発援助の変貌と新興国の台頭』明石書店、2014年。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 新興国の台頭と開発援助
- 第3回 ディスカッション
- 第4回 IR理論から考える新興国と地政学
- 第5回 ディスカッション
- 第6回 アフリカにおけるアジアの援助国
- 第7回 ディスカッション
- 第8回 アジアにおける政府開発援助
- 第9回 ディスカッション
- 第10回 新興国、アジアの対外援助、地政学
- 第11回 ディスカッション
- 第12回 援助効果の議論と官民連携
- 第13回 ディスカッション
- 第14回 開発効果の議論
- 第15回 まとめ

国際協力研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

報告と議論への貢献度 (100%) により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前に文献の該当ページをしっかりと読み込んでおくこと。事後学習としては翌週にディスカッションがあるので、学んだ内容を復習して、何を議論したいのかの論点を明確にしておくこと。

履修上の注意 /Remarks

また、開発援助の歴史と仕組みについて十分な知識が無ければ、学部の『国際協力論I』も併せて受講してください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

安全保障研究 【夜】

担当者名 戸蔭 仁司 / TOMAKI, Hitoshi / 基盤教育センター
/Instructor

履修年次 単位 2単位 学期 2学期 授業形態 演習 クラス
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際関係における安全保障上の問題について知識を習得し、それに基づいて、専門的な見地から議論を行うことができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 安全保障に関する先行研究を収集し的確に整理することができる。一次資料を用いて議論を組み立てることができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 安全保障に関する具体的、実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として広い視野に立って適切な行動をとることができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

安全保障研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

下記①、②のいずれか。

①戦争倫理学関連の英語の研究書を輪読する。当面、正義理論のうち、noncombatant immunityの問題、及び、double effectの問題を扱うこととする。

②防衛関連の書籍、論文についての口頭発表と分析を行ってもらう。

< DPに基づく3つの到達目標 >

①高い問題解決能力と表現力

大学院修士課程レベルでの社会科学的な問題解決能力と口頭・文章での表現力を身に着ける。

②高度な専門的知識・技能

大学院修士課程レベルでの政治学的、哲学的知識・技能を修得する。

③高い倫理観に基づいた自律的行動力

価値をめぐる問題に対し客観的な視座から論理的に自ら思考するための能力を身に着ける。

教科書 /Textbooks

未定だが、メインとなる書籍は購入すること（例えば、下記のスケジュール例であれば、Just and Unjust Warがメインとなる。13回、14回、15回に用いる論文は事前にコピーを配布する）

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

正義理論については、基本的に、日本語の文献はあまりなく、英語の文献が主となる。その際、単に政治学、国際関係論関係の業績だけではなく、神学、哲学、倫理学など、隣接分野の理解が不可欠になるかもしれない。

安全保障研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

輪読形式を取り、履修者の主旨報告と担当者との討議が中心となる。履修者は、指定範囲を読み、主旨をまとめたレジюмеを作成し、それを報告し、さらに、問題点を指摘することまで要求される。

※履修希望者は、履修登録前に必ず担当者にメールで相談してください。tomahito@kitakyu-u.ac.jp

第1回 ガイダンス

戦争倫理（正戦理論）関係の場合、以下のようなスケジュールを予定している。概ね、各回につき、20～30ページ程度の英語論文を2本読み、受講者には15～20分間の要旨報告×2本分（日本語）、質疑応答（日本語）をしてもらう。

例えば、次のような進行を想定している。（11回までは、Michael Walzer, *Just and Unjust Wars; A Moral Argument with Historical Illustrations* 4th Edn., Basic Books, 2008, を2章ずつ講読、各回ともに、15～20分×2章 = 30～40分の要旨報告と質疑応答をもらう）

第2回 ch.1 Against Realism, ch.2 The Crime of War

第3回 ch.3 The Rules of War, ch.4 Law and Order in the International Society

第4回 ch.5 Anticipations, ch.6. Interventions

第5回 ch.7 War's Ends and the Importance of Winning, ch.8 War's Means and the Importance of Fighting Well

第6回 ch.9 Noncombatant Immunity and Military Necessity, ch.10 War against Civilians

第7回 ch.11 Guerrilla War, ch.12 Terrorism

第8回 ch.13 Reprisals, ch.14 Winning and Fighting Well

第9回 ch.15. Aggression and Neutrality, ch.16 Supreme Emergency

第10回 ch.17 Nuclear Deterrence, ch.18 The Crime of Aggression

第11回 ch.19 War Crimes, Soldiers and their Officers

第12回 Just and Unjust Warの総括、および、小レポートの要旨報告

第13回 Thomas Nagel, "War and Massacre," in T.Nagel et al., eds., *War and Moral Responsibility*, Princeton UP, 1974.

第14回 Richard Norman, *Killing in Self-defence*, in Richard Norman, *Ethics, Killing and War*, Cambridge UP, 1995, pp.117-157.

第15回 Richard Norman, *Killing the Innocent*, in *ibid.*, pp.159-206. + 期末レポート要旨報告

成績評価の方法 /Assessment Method

授業態度（30%）、予習状況（30%）、レポート（40%）によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行いたい。レポートは小レポートと期末レポートの2回出題する場合もある。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

受講者は1名～若干名であろうから、事前の報告・質疑準備がかなりの頻度で必要になる。またレポート執筆のため各回の既習事項の反芻が求められる

履修上の注意 /Remarks

軍事的安全保障、とりわけ防衛問題に関する学部レベルの基礎知識を要求します。

必ず、履修前に、問題関心の確認、授業内容についての意見を聴くため、上記メールに連絡をください。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

国際政治経済研究【夜】

担当者名 /Instructor 阿部 容子 / ABE YOKO / 国際関係学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	専攻する領域に加え、広く世界に関する知識を修得している。それらに基づいて、現代世界が抱える問題について、専門的な見地から議論を行なうことができる。	◎ 国際政治経済の様々な理論を理解し、複雑化する国際政治経済の諸問題を専門的に論じることができる。
技能	研究テーマに関する先行研究を収集し、的確に整理することができる。対象とする地域・分野に関して、一次資料を用いて議論を組み立てることができる。	△ 国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析ができる。
態度	修得した知識・技能を国際社会で生かせるよう実践的な問題にも関心を持つことができる。国際社会の一員として、広い視野に立って適切な行動をとることができる。	○ 国際政治経済に関する事項について、修得した知識と技能を生かして、実践的な問題にも関心を持つことができる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

国際政治経済研究

※東アジア専攻以外の学生は、自専攻のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

この授業では、グローバル化下における国際政治経済秩序の変容について、国際関係論の理論分析と国際経済論の実証分析とを関連付けながら検討することを目的とする。国際政治経済学の先行研究を分析するとともに、リサーチの準備となる基礎力を養う。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

国際政治経済の基礎的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

国際政治経済に関する資料の収集と高度な分析により問題を解決する能力を身につけている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

国際政治経済に関する事項について、実践的な問題にも自律的かつ主体的に関心を持つことができる。

教科書 /Textbooks

受講者と相談の上で決定するが、さしあたって以下の文献を候補として挙げておく。

関下稔『国際政治経済学要論』晃洋書房、2010年

マーティン・ハート＝ランズバーグ『資本主義的グローバル化』高菅出版、2015年

○坂井昭夫『国際政治経済学とは何か』青木書店、1998年

Robert O'Brien, Marc Williams, Global Political Economy: Evolution and Dynamics, 4th edition, Palgrave MacMillan, 2013.

Ronen Palan, Global Political Economy: Contemporary Theories, 2nd edition, Routledge, 2012

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○山本吉宣『国際レジームとガバナンス』有斐閣、2008年。

○スーザン ストレンジ『国際政治経済学入門』東洋経済新報社、1994年。

国際政治経済研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 第1回 インTRODクシヨN
- 第2回 国際秩序をめぐる政治と経済
- 第3回 グローバリゼーションと国際関係
- 第4回 国際政治経済の見方(1) 重商主義
- 第5回 国際政治経済の見方(2) 自由主義
- 第6回 国際政治経済の見方(3) 批判理論
- 第7回 戦後の国際経済秩序の枠組み(1) ブレトン・ウッズ、GATT体制
- 第8回 戦後の国際経済秩序の枠組み(2) レジームの変容と課題
- 第9回 科学技術と国際政治経済
- 第10回 人の移動とグローバル化
- 第11回 金融のグローバル化と通貨危機
- 第12回 国際金融秩序の構築
- 第13回 地域主義の展開(1) 北米の経済協定
- 第14回 地域主義の展開(3) アジアの多様性
- 第15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

報告内容...30%、授業参加(議論への貢献度など)...20%、期末レポート...50%
によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業終了後には必ず復習すること。
必要に応じて事前課題を配布するので、読んでから授業に臨むこと。

履修上の注意 /Remarks

この分野について学習したことがない受講生はあらかじめ国際政治経済学についての基礎的な知識を習得しておくこと。

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

イギリス文学研究【夜】

担当者名 木原 謙一 / Kenichi Kihara / 英米学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ イギリス文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ イギリス文学に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ イギリス文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

メインなテキストとしてレジス・ドブレの『イメージの生と死』を置き、毎回数章ずつ読んでいく。同時に、レジス・ドブレのイメージ論をベースにして、Lewis Carol, Charles Dickens, P. B. Shelley, John Fowles, W. B. Yeats等の作家について考察し、文学とイメージの形成、さらには文学と国家表象の問題について考える。

教科書 /Textbooks

レジス・ドブレの『イメージの生と死』(NTT出版)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

ベルティンク、ハンス、『イメージ人類学』、その他授業において適宜指摘する。

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 イントロダクション
- 2回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（イメージの起源）
- 3回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（死）
- 4回 イメージの起源（死による誕生象徴の伝達キリスト教の知恵）（再生）
- 5回 文学テキストへの応用（Charles Dickens）
- 6回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（イメージと神話）
- 7回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（歴史）
- 8回 芸術の神話（果つることなき歴史の螺旋「古代芸術」という亡霊の解剖学芸術の地理学）（古代芸術）
- 9回 文学テキストへの応用（P. B. Shelley）
- 10回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（スペクトル）
- 11回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（映像）
- 12回 スペクトル後（ある動乱の年代記映像圏のパラドクス純粋遠隔視の弁証法）（遠隔視）
- 13回 文学テキストへの応用（W. B. Yeats）
- 14回 イメージ形成と国家表象について
- 15回 総括

成績評価の方法 /Assessment Method

平素100パーセント

イギリス文学研究 【夜】

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

事前にテキストをよく読み、自分の意見をまとめておく。
授業でのディスカッションを踏まえ、各自の見解を再考察する。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代イギリス文学研究 【夜】

担当者名 田部井 世志子 / Yoshiko TABEL / 比較文化学科
/Instructor

履修年次 2年次 単位 2単位 学期 1学期 授業形態 演習 クラス 2年
/Year /Credits /Semester /Class Format /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標
/ Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代イギリス文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

今日エコロジストは、絶対化された存在という呪縛から人間を解き放ち、人間を相対化し、人間もあくまで自然の一部に過ぎないと主張します。しかし人類の長い歴史を振り返ると、人間は自然を搾取し、コントロールすることで文明を発展させてきたことが分かります。このような自然と人間の関係を軸に文学作品を批評する方法として昨今脚光を浴び出したのが「エコクリティシズム」です。

そこで今回は、その方法論を習得し、時間的に余裕があれば、幾つかの詩をその視点で鑑賞します。扱う詩人は、イギリス人ではロマン派の代表者W.ワーズワスや、自然搾取が確実に深刻な問題になりつつあった時代を生きたD.H.ロレンス、アメリカ人では、ウォールデン湖のほとりで自然と共に生きる生活を敢えて実践したH.D.ソロー、“inhumanism”を唱えたR.ジェファーズなどです。これらの詩人をエコロジーの視点で鑑賞することで、彼らの今日的意義を探ります。

授業の到達目標： 英米から始まったエコクリティシズムに関する知識を養い、現代の英米における詩人たちをエコロジーの発想で論じると同時に、それらの特徴を説明できるようになること。

DPに基づく3つの到達目標

- 《現代イギリス文学に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。》
- 《高度な英語力を持つ専門的職業人として、現代イギリス文学に関する資料を駆使し適切に分析し、研究できるようになる。》
- 《専門的な言語・現代イギリス文学の知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。》

教科書 /Textbooks

プリントを配布します。(The Ecocriticism Readers by Cheryl Glotfelty)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

適宜、指示します。

現代イギリス文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1回 導入 (自然と文学について)
- 2回 The Ecocriticism Readers pp. xv - xvii 精読と解釈【環境危機の時代における文学研究】
- 3回 The Ecocriticism Readers pp. xvii - xviii 精読と解釈【環境文学研究の誕生】
- 4回 The Ecocriticism Readers pp. xviii - xx 精読と解釈【エコクリティシズムの定義】
- 5回 The Ecocriticism Readers pp. xx - xxii 精読と解釈【人文学と環境危機】
- 6回 The Ecocriticism Readers pp. xxii - xxiv 精読と解釈【アメリカにおけるエコクリティシズム研究】
- 7回 The Ecocriticism Readers pp. xxiv - xxv 精読と解釈【エコクリティシズムの未来】
- 8回 伊藤詔子氏によるエコクリティシズムの説明論文の紹介
- 9回 ソローの『ウォールデン』からの抜粋の読みと、それを巡る議論
- 10回 ワーズワスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 11回 ロレンスの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 12回 ジェファーズの詩の鑑賞とエコロジー的読み
- 13回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(1)【機械文明の問題】
- 14回 自然と人間のあり方についての議論： 授業を踏まえて(2)【共生の可能性】
- 15回 まとめ

成績評価の方法 /Assessment Method

レポート(80%)と毎回の授業への参加度など(20%)により、シラバスの到達目標をどの程度達成しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業の前には必ずテキストの英語を訳し、内容理解を心がけ、疑問点などを明確にしておいてください。授業後はその内容に関しては常に問題意識を持ちつつ、アンテナを立て、最終的な課題レポートにつなげてください。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

エコロジー、エコクリティシズム、ワーズワス、ロレンス、ソロー、ジェファーズ

英語表現法 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion) , Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語表現法に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	◎ 英語表現法に関する資料を適切に分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 英語表現法に関する課題を主体的に解決できるようになる。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語表現法

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

There are several goals for this course. One goal of the course is to be introduced to the conceptual frameworks for the qualitative and quantitative research traditions. Another goal is to learn what the components of an excellent research paper in your field are and learn to be a critical consumer of research. Another goal is to be able to make informed choices about how to approach a research question. Ultimately you will synthesize your knowledge in order to write your own research proposal.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語表現法に関する高度な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

英語表現法に関する資料を適切に分析して問題を解決することができる。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

英語表現法に関する課題を自律的かつ主体的に解決することができる。

教科書 /Textbooks

Photocopied readings will be assigned each week.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Suggested secondary reading will be outlined during the first class.

英語表現法 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction; Qualitative vs. Quantitative Research; Diagnostic test
 Week 2: Plagiarism, Research Proposals, Abstracts (writing summaries)
 Week 3: Library resources, bibliographic resources, Abstracts, cont.
 Week 4: Abstracts, Discuss research paper proposals
 Week 5: Research paper literature review
 Week 6: Literature review, cont. & Language Focus
 Week 7: Research paper Questions & Variables
 Week 8: Research paper Participants & Materials
 Week 9: Data analysis of quantitative experimental research (Results)
 Week 10: Structure of data commentary in a qualitative paper
 Week 11: Data analysis & data commentary language focus
 Week 12: The research paper conclusion (discussion section)
 Week 13: The evil of Power Point (informational design)
 Week 14: Getting published
 Week 15: Research proposal or paper presentations

成績評価の方法 /Assessment Method

Research proposal or paper (100%)
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

No special preparation is necessary for this course. After you finish this course you will have learned how to write a successful research proposal or paper, and you will know how to write a research paper, use bibliographic citations correctly, and avoid plagiarism.

履修上の注意 /Remarks

This course will cover thesis writing for research that is both qualitative and quantitative, although the teacher is most familiar with quantitative research traditions.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

Thesis, writing, quantitative research, qualitative research

アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor 前田 譲治 / Johji Maeda / 比較文化学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 演習 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標	
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎	アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得する。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○	アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△	過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を深める。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連			アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

アメリカ文学と、現実のアメリカ人の価値観、美意識やアメリカの歴史・文化との相互関係についての分析・考究を行う。より具体的には、小説 *Adventures of Huckleberry Finn* を精読し、作品内容と当時の南部社会の特質との関連性について考察する。特に、作品中の奴隷制度の描写に焦点を当てることにより、作品外の現実が、如何なる形で作品構造に対して影響を及ぼしているかを論ずる。以上の作業を行うことによってアメリカ文学とアメリカ文化との関連性を分析する能力を身につけたい。併せて本作に関する批評論文や、作品内容と関連したアメリカ文化に関する英語資料も、時間が許す限り読解したい。古典的な文学作品や研究論文の英語を読みこなせるだけの英語読解力を、可能な限り身につけることも目標とする。

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

アメリカ文学を代表的する特定の作家に関する高度に専門的な知識を修得している。

【高い問題解決能力と表現力】

アメリカ文学の作品を専門的視点から分析し、独自の解釈を口頭発表できる高い問題解決能力と表現力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

過去のアメリカ文学作品が有する先見性に対する理解を自律的かつ主体的に深めることができる。

教科書 /Textbooks

Adventures of Huckleberry Finn Mark Twain A Norton Critica Edition ISBN: 978-0-393-96640-4

受講希望者は事前に上記テキストを、アマゾンや生協等に発注し購入しておくこと。

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

○ 『ハックルベリーフィンの冒険』 大久保博訳 角川文庫

原書の全文訳が掲載されているのは、文庫本では上記翻訳のみなので、購入の際は注意すること。

(他の文庫本は、原書の一部を割愛した形での翻訳となっている。)

アメリカ文学研究 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- | | | |
|-----|------------------------|--|
| 1回 | 授業の進め方に関するオリエンテーション | Mark Twain に関する概説 |
| 2回 | 南部文化、奴隷制度等の作品の背景に関する解説 | |
| 3回 | 1 - 4章 | 作中のキリスト教の位置づけ |
| 4回 | 5 - 8章 | アメリカ文学における父親のイメージ |
| 5回 | 9 - 12章 | ハックのジムに対する姿勢の本質 |
| 6回 | 13 - 16章 | ハックとジムの論争の描写の意味について |
| 7回 | 17 - 23章 | グレンジャーフォード家についてハックが語る際の語り口の特徴 |
| 8回 | 24 - 27章 | 詐欺師の二人組に対するハックの不可解な対応の意義 |
| 9回 | 28 - 31章 | メアリー・ジェーンに対するハックの評価の不可思議性 |
| 10回 | 32 - 35章 | なぜハックは詐欺師をリンチから救うことに強くこだわるのか。 |
| 11回 | 36 - 40章 | トムが主導するジムの救出作戦の描写基調は、何ゆえに生じているのか。 |
| 12回 | 41 - 43章 | ハックのジムに対する姿勢は作品当初と比べて、どのように変化したのか、していないのか。 |
| 13回 | 南部の奴隷制度に関する論文の読解 | |
| 14回 | 作品の背景となる南部文化に関する論文の読解 | |
| 15回 | 作品に関する論文の読解、全体のまとめ | |

成績評価の方法 /Assessment Method

平素の学習状況...70% 発表...30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

授業前に、作品の事前に指定された箇所（25ページ程度）を読んでおくこと。また、重要と判断した箇所に関して、可能な限り自分自身の解釈を考えておくこと。授業後には、授業時の教員や他の学生による作品解釈を踏まえて再度作品を読み直し、自分の解釈の妥当性について考察すること。

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords

現代アメリカ文学研究 【夜】

担当者名 /Instructor アーノルド・ウェイ / ARNOLD Wayne E. / 英米学科

履修年次 /Year 2年次 /Credits 2単位 /Semester 1学期 /Class Format 演習 クラス 2年 /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 現代アメリカ文学研究に関する高度な知識を身につける。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 現代アメリカ文学に関する資料を分析できるようになる。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	△ 現代アメリカ文学研究に関する課題を主体的に解決できるようになる。
※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連		現代アメリカ文学研究

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Traveling through America

This course will explore America and American writers through their writings about traveling and walking through both the city and the countryside. We will explore American culture through the eyes of some of the greatest writers. Each of our lessons will examine an aspect of a great American writer who has spent time walking and exploring the American environment. The objective of this course is to use literature as a tool to examine modern everyday life. We will spend time looking at the literature of some of the greatest “walkers” in American history in order to better understand American culture and its impact on the rest of the world.

Students will be responsible for presentations as well as readings. The expectation for this course is that the graduate student will read two novels, give various presentations and write a graduate level academic essay. Students will read two very famous novels, *On The Road*, by Jack Kerouac, and *The Road*, by Cormac McCarthy—who is perhaps America’s greatest living author.

教科書 /Textbooks

Cormac McCarthy, *The Road*, Vintage (May 29, 2007)
Jack Kerouac, *On The Road*, Penguin Classics (February 24, 2000)

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Journal articles on the library database.

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

- 1: Introduction to course and expectations
- 2: Walking, and what it means in context
- 3: Henry David Thoreau
- 4: Walt Whitman
- 5: James Fenimore Cooper
- 6: John Dos Passos
- 7: Henry Miller
- 8: Jack Kerouac
- 9: John Steinbeck
- 10: Hunter S. Thompson
- 11: Bill Bryson
- 12: Paul Thoreaux
- 13: Gus Van Sant (director)
- 14: Cormac McCarthy
- 15: Final presentation and course review

現代アメリカ文学研究 【夜】

成績評価の方法 /Assessment Method

Final Essay: 40%
Four 1-page summaries: 20%
Participation: 20%
Presentations: 20%

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Please attend all classes; you will be expected to order the novels through Amazon, as you can find them very cheap.

履修上の注意 /Remarks

This course will be taught in English and students will be expected to participate in English.

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

Any students missing more than 5 classes will not pass the course.

キーワード /Keywords

Travel, America, literature, walking, cities, urban, rural.

英語教育法研究概論 【夜】

担当者名 /Instructor ジェニファー・ラーソンホール / Jenifer Larson-Hall / 英米学科, 雪丸 尚美 / 英米学科

履修年次 /Year 単位 /Credits 2単位 学期 /Semester 2学期 授業形態 /Class Format 講義 クラス /Class

対象入学年度 /Year of School Entrance	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020
						○	○	○	○	○	○	

授業で得られる「学位授与方針における能力（学生が修了時に身に付ける能力）」、到達目標 / Competence Defined in “Diploma Policy” (Competence Students Attain by Course Completion), Specific Targets in Focus

学位授与方針における能力		到達目標
知識・理解	英米語圏の言語、文学、文化に関する高度な知識を身に付け、専門的職業人と研究者として、国際社会に役立てる能力を修得する。	◎ 英語教育学に関する高度な知識を身に付け、通訳教育についても考察し、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。
技能	高度な英語力を持つ専門的職業人として、あらゆる資料を駆使し適切に分析し研究できるようになる。	○ 理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、自らがその手本として高度な英語力を身に付けている。
態度	専門的な言語・文化知識を生かし、グローバル社会が抱える課題を主体的に解決できるようになる。	○ 理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

※◎：強く関連 ○：関連 △：やや関連

英語教育法研究概論

※文化・言語専攻（英米言語文化領域）以外の学生は、自専攻（領域）のカリキュラム・マップを確認してください。

授業の概要 /Course Description

Welcome to this course! In this course you will get a good overview of a number of important topics in the field of Second Language Acquisition (SLA). Researchers in this field conduct research into how children and adults learn languages as a way of illuminating the cognitive processes of the mind. Understanding how language is acquired will also help you understand ways in which language can be taught as well.

到達目標

【高度な専門的知識・技能】

英語教育学に関する高度な知識を身に付け、現代を生きる日本人に最も適した英語教育学のあり方を考えることができる。

【高い問題解決能力と表現力】

理解力、分析力に裏打ちされた研究を遂行するとともに、高度な英語力を身に付けている。

【高い倫理観に基づいた自律的行動力】

理論や技能にとどまらず、グローバル人材として活躍できる人材を育成するとの自覚を持ち、教養や知識の習得にも配慮する。

教科書 /Textbooks

Brown, S. and Larson-hall, J. (2012). Second Language Acquisition Myths: Applying Second Language Research to Classroom Teaching. Univ of Michigan Press.

参考書(図書館蔵書には ○) /References (Available in the library: ○)

Ortega, L. (2008). Understanding Second Language Acquisition. Routledge.

英語教育法研究概論 【夜】

授業計画・内容 /Class schedules and Contents

Week 1: Introduction and Assessment (JLH & NY)
 Week 2: The Critical Period (JLH)
 Week 3: Bilingualism (JLH)
 Week 4: Input, Output & Interaction (JLH)
 Week 5: Attention and noticing (JLH)
 Week 6: Vocabulary (JLH)
 Week 7: Second Language Pragmatics (JLH)
 Week 8: Explicit and Implicit Learning (NY)
 Week 9: Corrections and recasts (NY)
 Week 10: Individual differences (NY)
 Week 11: Social approaches (NY)
 Week 12: Diversity in EFL classrooms (NY)
 Week 13: Teacher development I (ICT skills) (NY)
 Week 14: Teacher development II (Literature in EFL classroom) (NY)
 Week 15: Presentations of research papers(JLH & NY)

成績評価の方法 /Assessment Method

Research Paper: 40%
 In-class participation & discussion:10%
 Presentations (2):20%
 Weekly quizzes: 30%
 によりシラバスの到達目標をどの程度達しているかを判断して評価を行う。

事前・事後学習の内容 /Preparation and Review

Prepare every week by reading the chapter. Then we will have a quiz in class the following week. You will also choose a research topic early in the semester and work on a paper throughout the semester.

履修上の注意 /Remarks

担当者からのメッセージ /Message from the Instructor

キーワード /Keywords